

オーナーズマニュアル

MONSTER

MONSTER 821



オーナーズマニュアル

日本人

MONSTER

MONSTER 821

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに	7
安全性ガイドライン	7
当マニュアルで使用されている警告シンボル	8
認可されている用途	9
運転者の義務	9
運転者の教育	11
服装	11
安全のための“ベストプラクティス”	12
燃料の補給	14
最大積載時の運転	15
危険物 - 注意事項	16
車両識別番号	18
エンジン識別番号	19

インストルメントパネル(ダッシュボード)	20
インストルメントパネル	20
取扱説明書内で使用される頭字語および略語	24
技術用語	24
機能ボタン	26
パラメーターの設定 / 表示	27
主な機能	34
車両スピード	36
エンジン回転数表示 RPM	37
ライディングモード (Riding Mode)	39
ABS	43
DTC	48
エンジンクーラント温度	53
メニュー1の機能 :	55
オドメーター (TOT)	56
トリップメーター 1 (TRIP A)	58
トリップメーター 2 (TRIP B)	59
燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)	60
走行時間	61
時計	62
メニュー2の機能 :	63
平均燃費	64

瞬間燃費 66
平均スピード 67
外気温 69
メンテナンス表示 (SERVICE) 70
OIL SERVICE ゼロの表示 71
OIL SERVICE またはDESMO SERVICE カウントダウン表示 72
OIL SERVICE またはDESMO SERVICE 表示 73
エラー 74
エラー表示 75
表示エラーの説明 76
ラップタイム (LAP time) 80
設定メニュー 83
ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode) 85
ライディングモードのパーソナライズ : パラメーターの保存 88
ライディングモードのパーソナライズエンジン調整 90
ライディングモードのパーソナライズDTC レベルの設定 92
ライディングモードのパーソナライズABS 調整 95
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT) 98

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 99
バッテリー電圧 101
インストルメントパネルのバックライトの調整 103
LAP 105
時計の調整 113
PIN CODE 116
PIN CODE の変更 120
エンジン回転数のデジタル表示 (RPM) 125
単位の設定 126
ランプ類の点検 136
イモビライザーシステム 139
キー 140
作業 141
キーの複製 142
PIN CODE による車両の解除 143

運転時に必要なコマンド 147
コマンド類の配置 147
イグニッションスイッチ / ステアリングロック 148
左側スイッチ 149
クラッチコントロールレバー 150
右側スイッチ 153

スロットルグリップ	154	燃料の補給	186
フロントブレーキレバー	155	パーキング	187
リアブレーキペダル	156	付属アクセサリー	188
ギアチェンジペダル	157		
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整	158		
主要構成部品 / 装備	160	主な整備作業とメンテナンス	189
車両上の配置	160	クーラントレベルの点検および補充	189
燃料フィラープラグ	161	エアフィルターの交換	190
シートロック	162	ブレーキフルードレベルの点検	191
シート高の調整	164	ブレーキパッドの摩耗点検	193
ヘルメットホルダースタンド	169	バッテリーの充電	194
サイドスタンド	170	バッテリー充電および冬季の断熱	197
リアショックアブソーバー調整アジャスター	172	バッテリーの取り外し	199
		バッテリーの取り付け	205
 		トランスマッシュションチェーン張力の点検	211
運転のしかた	175	チェーンの潤滑	213
慣らし運転の方法	175	電球の交換	214
走行前の点検事項	177	ヘッドライトの光軸調整	215
エンジンの始動	180	タイヤ	217
車両の発進	182	エンジンオイルレベル点検	220
ブレーキ操作	183	スパークプラグの清掃と交換	222
車両の停止	185	車両の清掃	223
		長期間の保管	225
		重要注意事項	225

メンテナンス	226	定期点検メモ	247
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナ ンス	226	定期点検メモ	247
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナ ンス	230		
テクニカルデータ	231		
重量	231		
サイズ	232		
補給	233		
エンジン	234		
タイミングシステム	235		
性能データ	236		
スパークプラグ	236		
燃料供給	236		
ブレーキ	237		
トランスミッション	238		
フレーム	239		
ホイール	239		
タイヤ	239		
サスペンション	239		
エキゾーストシステム	239		
カラーバリエーション	239		
エレクトリカルシステム	241		

はじめに

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムの

すべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします ページ 226 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。

正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

当マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターциклの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告

この説明を遵守しなかった場合、ライダー又はその他の人が重度の負傷および死亡に至る危険性があります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た位置です。

認可されている用途

モーターサイクルはアスファルト舗装された道路又は平らで滑らかな路面でのみ使用することができます。

舗装されていない道路やオフロードではこのモーターサイクルを使用することができません。



警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。



警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

このモーターサイクルにはライダーが乗車し、またパッセンジャーひとりを乗せることができます。



警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、390kg/859 lbを越えてはいけません。

運転者の義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。



警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。



警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告

事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

重要

初めて車両をご使用になる前に、リアビューミラーにラベルが付いていないことを確認してください。ラベルが付いている場合ははがしてからご使用ください。

運転者の教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。



警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは ページ 9 に記載されている要件を満たしていないなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。

- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。



重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。



重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。



重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための“ベストプラクティス”

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

!**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の“使用規定”的章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

!**警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください（ページ 177 を参照）。

!**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くことがあります。

!**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

!**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

!**重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

!**重要**

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。

給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。

給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。



警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに石鹼水で洗ってください。



警告

燃料は非常に引火しやすいので、過って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。



警告

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意



重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。



重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。



重要

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。



重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。



警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 217 の“タイヤ”的段落を参照してください。

危険物 - 注意事項 使用済みエンジンオイル



警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード



警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。



警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

クリーニングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

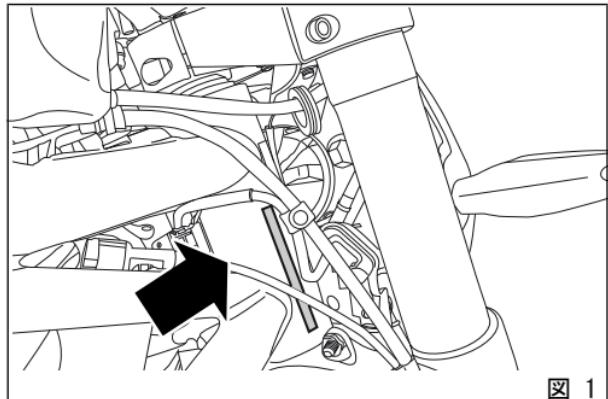
車両識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.



エンジン識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.

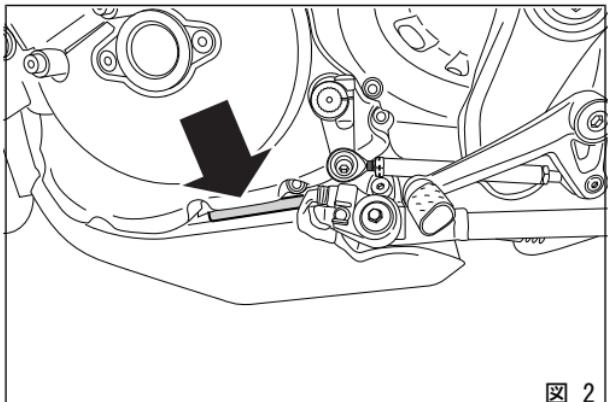


図 2

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ
- 2) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
- 3) ハイビーム表示灯 Ⓛ (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
- 4) エンジンオイル圧警告灯 ⚡ (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。“KEY-ON”時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

⚠ 重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

- 5) リザーブ燃料警告灯 □ (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。点灯時点の燃料残量は約 2.5 リットルです。
- 6) ターンインジケーター表示灯 ⇛ (緑)
ターンインジケーターの作動中、左右いずれかの表示灯が点滅します。ハザード作動中は、左右の表示灯が同時に点滅します。
- 7) “エンジン/車両診断 - EOBD” ランプ ⚡ (琥珀色)
エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。
- 8) 一般警告灯 (赤)
警告灯 (8a) はエンジン回転数が第一起点値に達すると点灯します。
警告灯 (8b) はエンジン回転数が第二起点値に達すると点灯します。

9) ABS ランプ (ABS) (琥珀色)

ABS 停止もしくはエラー時に点灯します。

エンジン停止 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能作動中	メニューの “ABS” 機能を使って ABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

10) DTC 介入 (琥珀色)

	DTC
干渉なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

12 時間以上車両 KEY-OFF	ランプ OFF
-------------------	---------

11) OVER REV / イモビライザー停止 / 盗難防止
(赤)

	Over rev
干渉なし	ランプ OFF
リミッター	ランプ ON 点滅



エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF
車両 KEY-OFF	ランプ ON 点滅

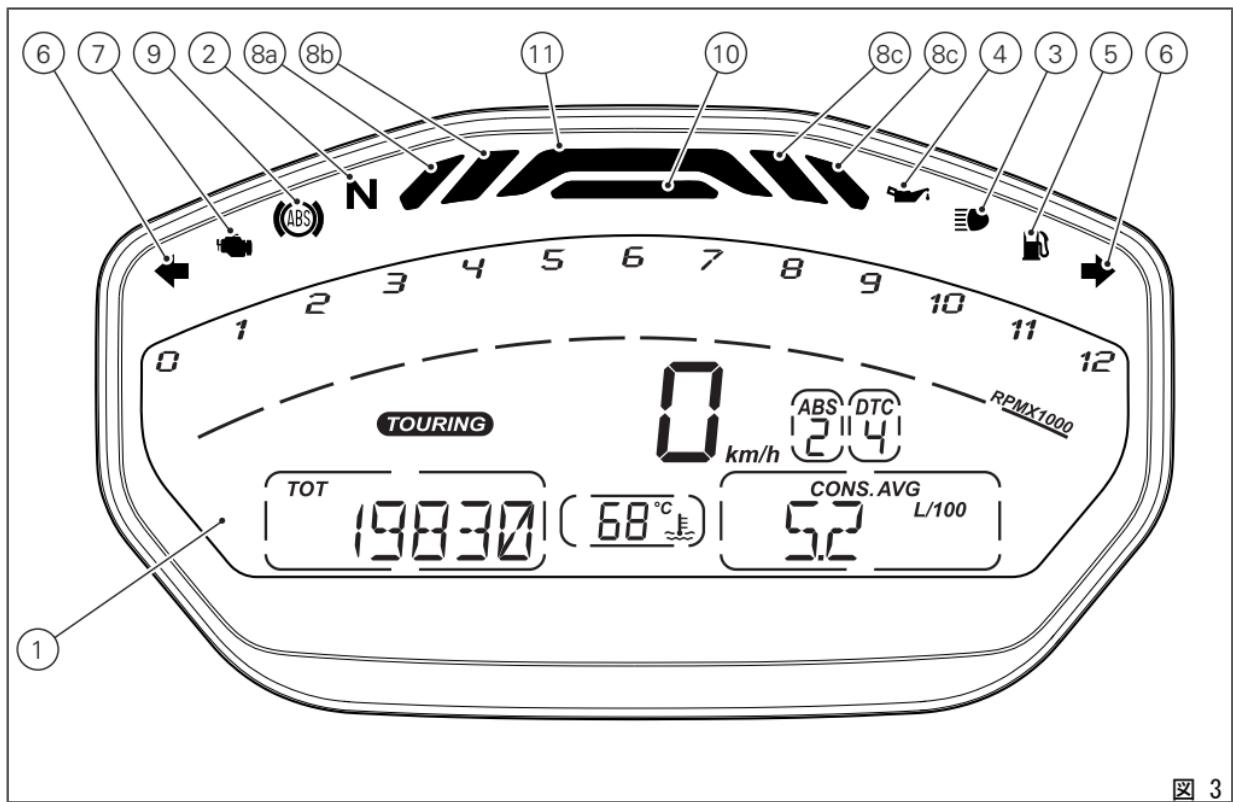


図 3

取扱説明書内で使用される頭字語および略

語

ABS

アンチロックブレーキシステム

BBS

ブラックボックスシステム

CAN

コントローラーエリアネットワーク

DDA

ドゥカティデータアナライザー

DSB

インストルメントパネル

DTC

ドゥカティトラクションコントロール

ECU

エンジンコントロールユニット

技術用語

ライディングモード

ライダーは 3 つの初期設定（ライディングモード）からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードからエンジン出力（パワーモード）、および ABS、DTC の各介入レベルを瞬時に変更することができます。

選択可能な設定は、SPORT、TOURING、URBAN の 3 種類です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

3 つのパワーモードがあり、それがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ (RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。

ライドバイワイヤにより選択したライディングモード（パワーモード）に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することができます。また、エンジンブレーキ (EBC) のタイムリーな管理が可能になります。

るため、リアホイールのスリップ制御（DTC）に貢献します。

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）はリアホイールのスリップ制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。

レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）9ME

ABS 9MEは、デュアルチャンネルの次世代システムです。リアホイールのリフティングを制御するインテグラルブレーキにより、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

システムには3つの介入レベルがあり、それぞれライディングモードと連動しています。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP “▲”

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▲”。

2) コントロールボタン DOWN “▼”

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▼”。

3) フラッシュヤーランプボタン

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) ターンインジケーター解除ボタン

このボタンは通常ターンインジケーターの解除機能に使用しますが、メニュー決定、ライディングモードの選択にも使用します。このボタンを左側に 3 秒間押すと、“ハザード”機能（すべてのターンインジケーターランプが点滅）が起動します。

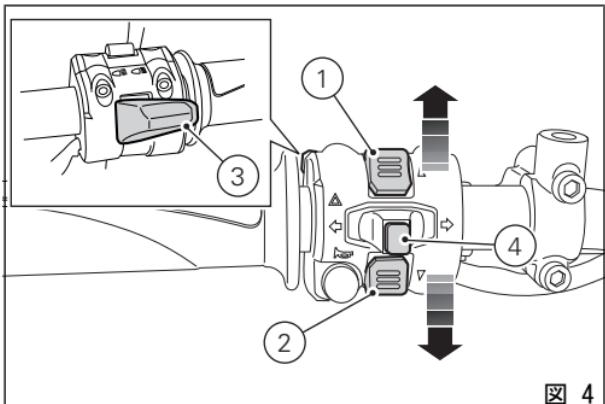


図 4

パラメーターの設定 / 表示

KEY-ON 時、インストルメントパネルは次のような動作を行います。

- ディスプレイのバックライトが点灯。
- タコメーターが点灯。“0”から“11000”まで増加したのち、“0”に戻ります。
- スピードメーターが点灯。数値が“0”から“300”まで増加したのち、“0”に戻ります。
- 警告灯類が外側から内側に向かって順に点灯。

点検が終了すると、インストルメントパネルは所定の機能が表示されるメイン画面（“スタンダードスクリーン”）に移り、警告がある場合は警告灯が点灯します。

初期点検中に車両速度が 10 km/h（実速度）を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

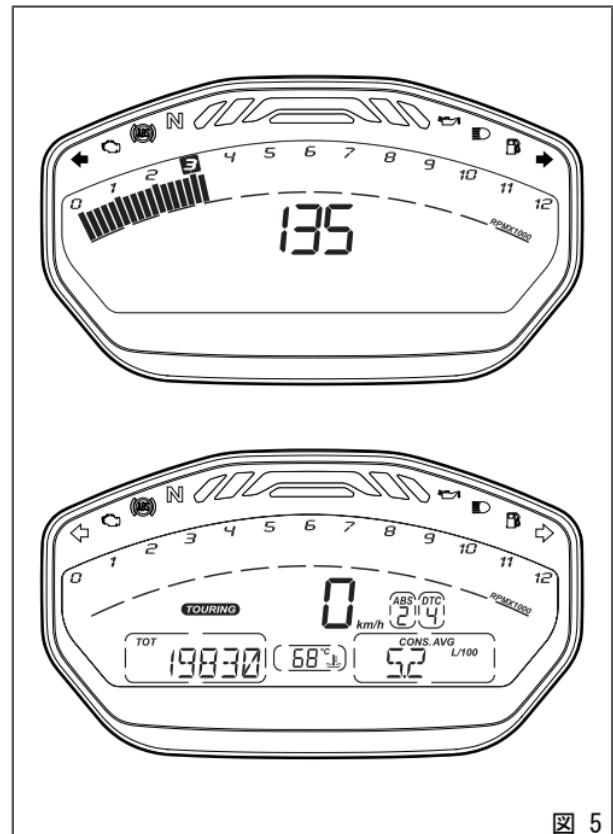


図 5

メイン画面には以下の情報が表示されます。

- 1) エンジン回転数棒グラフ
- 2) 車両スピード
- 3) メニュー 1 (オドメーター、トリップメーター A、トリップメーター B、燃料リザーブトリップメーター、トリップタイム、時計、ラップタイム - 起動時のみ)
- 4) メニュー 2 (平均燃費、瞬間燃費、平均スピード、外気温)
- 5) エンジンクーラント温度
- 6) 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 7) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
- 8) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
- 9) LAP 起動表示 (搭載されている場合のみ)
- 10) SERVICE 表示 (起動している場合のみ)
- 11) エラー表示 (少なくとも 1 つのエラーが存在する場合のみ)

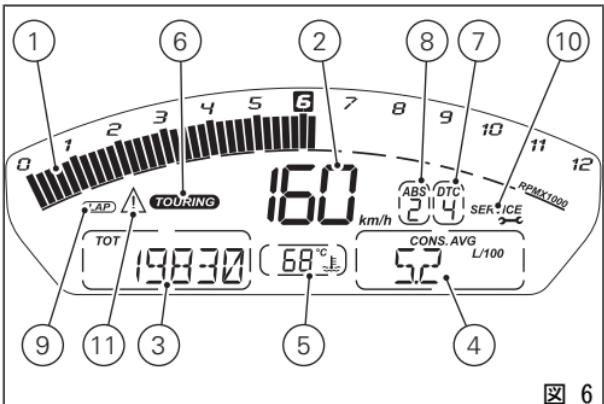


図 6

左側スイッチのボタン (1) を押すと、メイン画面にメニュー 1 の情報を表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター A (TRIP A)
- トリップメーター B (TRIP B)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL - 起動時のみ)
- TRIP TIME
- 時計

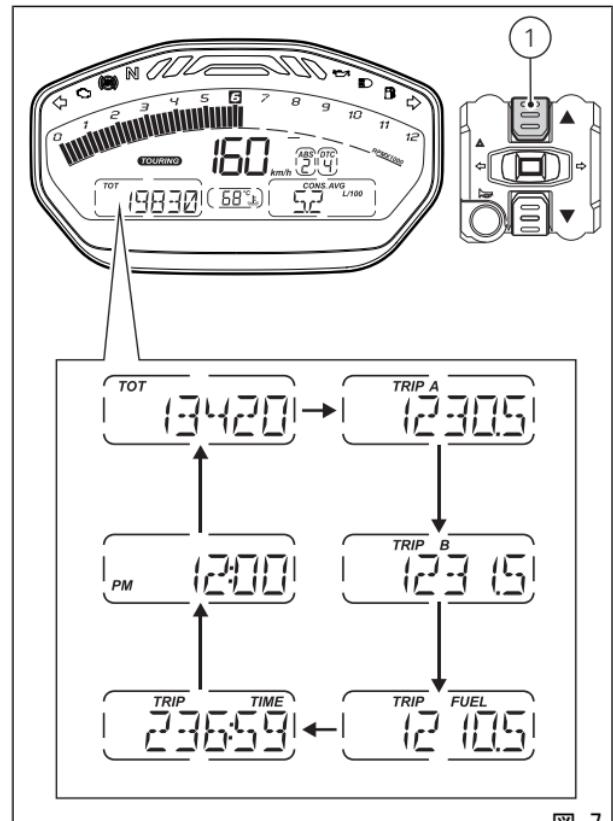


図 7

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メイン画面にメニュー 2 の情報を表示することができます。

- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温 (T-AIR)

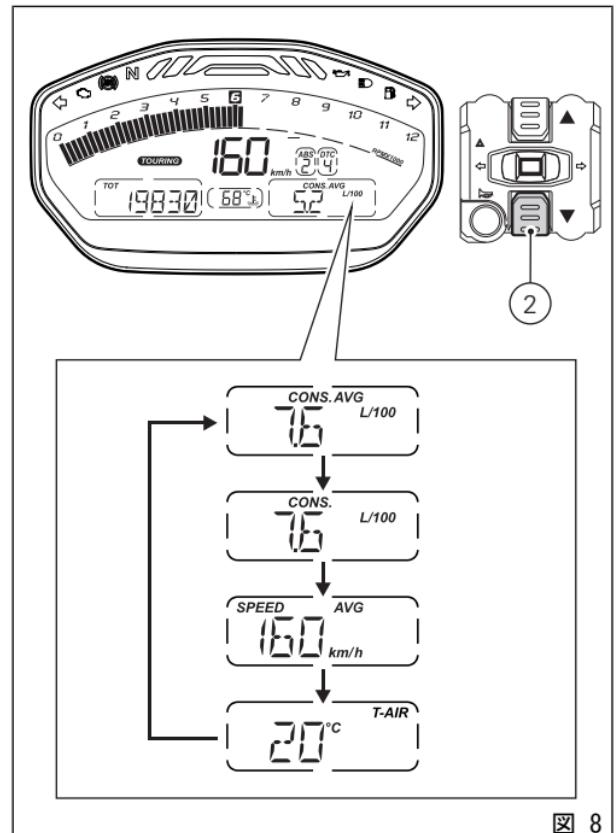


図 8

インストルメントパネルには KEY-OFF 時に使用して
いたメニュー 1 とメニュー 2 の設定が記憶されま
す。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 お
よびメニュー 2 のページが表示されます。

急な KEY-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合は、
次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次の
メニュー 1 とメニュー 2 のデフォルト設定が表示
されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = オドメーター
(TOT)
- メニュー 2 デフォルトページ = 平均燃費
(CONS. AVG)

KEY-ON 時には毎回、インストルメントパネルのメニ
ュー 1 に 10 秒間 “オドメーター” のページが表示
され、その後、前回の KEY-OFF 時に保存したページ
が表示されます。

設定モードのスタンダードスクリーンが表示されている時に、車両の実速度が 20 km/h 以下の状態でボタン (2) を 3 秒間押すと、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。

重要

車両の実速度が 20 km/h 以下のときのみ設定メニューに入ることができます。設定メニューが表示されているときに車両の実速度が 20 km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、スタンダードスクリーンを表示します。

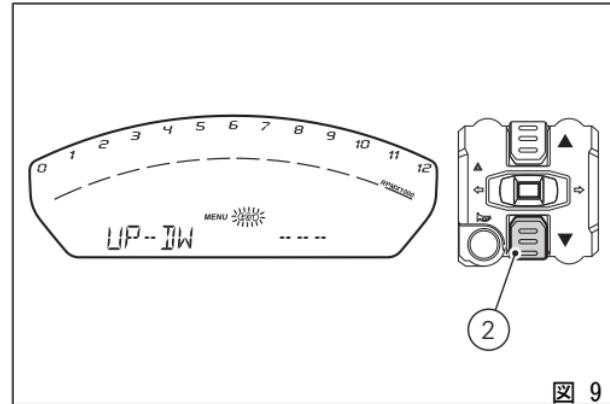


図 9

KEY-ON 時および点検終了時にイモビライザーエラーが検出されると、インストルメントパネルはメニュー 1 に 4 衍の PIN CODE 入力画面を自動的に表示します。PIN CODE は設定メニューの PIN 機能であらかじめ設定してある必要があります。

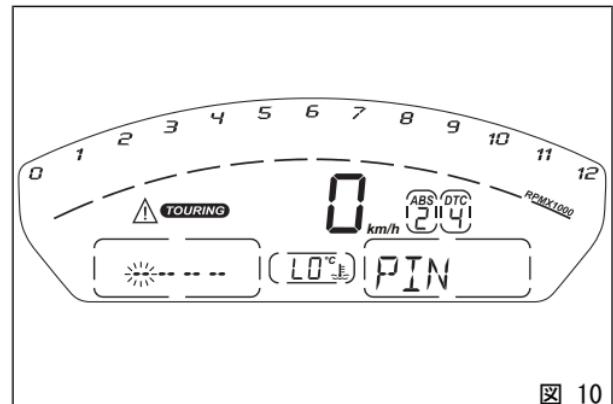


図 10

主な機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能

- 車両スピード
- エンジン回転数表示 RPM
- ライディングモード (Riding Mode)
- ABS
- DTC
- エンジンクーラント温度
- メニュー 1 には以下の機能が表示されます。
 - オドメーター (TOT)
 - トリップメーター A (TRIP A)
 - トリップメーター B (TRIP B)
 - 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
 - トリップタイム (TRIP TIME)
 - 時計
 - ラップタイム (LAP time) - 起動時のみ
- メニュー 2 には以下の機能が表示されます。
 - 平均燃費 (CONS. AVG)
 - 瞬間燃費 (CONS.)
 - 平均スピード (SPEED AVG)
 - 外気温 (AIR)

サブ機能

- メンテナンス表示 (SERVICE)

- エラー表示

- LAP

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード (RIDING MODE) のパーソナライズ : パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
 - ABS 調整 (ABS)
 - DTC レベルの設定 (DTC)
 - エンジン調整 (ENGINE)
 - すべてのライディングモードをデフォルト値に回復 (ALL DEFAULT)
 - ひとつのライディングモードをデフォルト値に回復 (DEFAULT)
- バッテリー電圧 (BATTERY)
- バックライト調整 (BACK LIGHT)
- LAP (ラップタイムの起動/表示)
- 時計の調整 (CLOCK)
- PIN (PIN CODE 入力/変更)
- エンジン回転数表示 (RPM)
- 単位の設定 (速度 - 温度 - 燃費) UNT
- ERRORS (エラー表示 - エラーがひとつ以上ある場合にのみ起動)

車両スピード

この機能は車両の走行速度を表示します（設定により km/h または mph）。

インストルメントパネルは車両の実速度（km/h で算出）情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h または mph）で表示します。

表示最高速度は 299 km/h (186 mph) です。

以下の場合には “---” と単位が表示されます。

- 速度が 299 km/h (186 mph) を超えた場合、またはインストルメントパネルが速度情報を受信しない場合 (“---” 点灯）
- リアスピードセンサーに異常がある場合 (“--” 点滅）

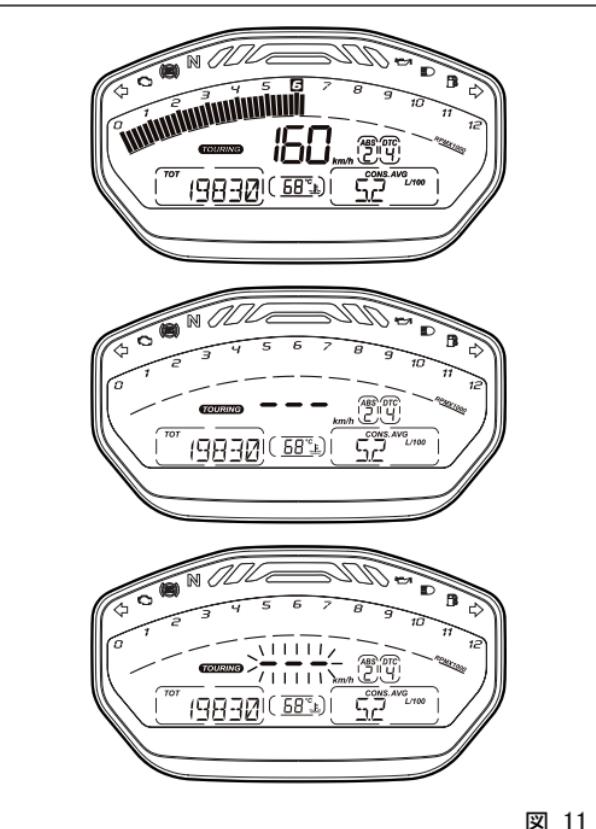


図 11

エンジン回転数表示 RPM

この機能はエンジン回転数を表示します。
インストルメントパネルにはエンジン回転数データ
が表示されます。
データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯
する棒グラフのメモリと、千単位の反転数字（数字
と枠が反転）で表示されます。

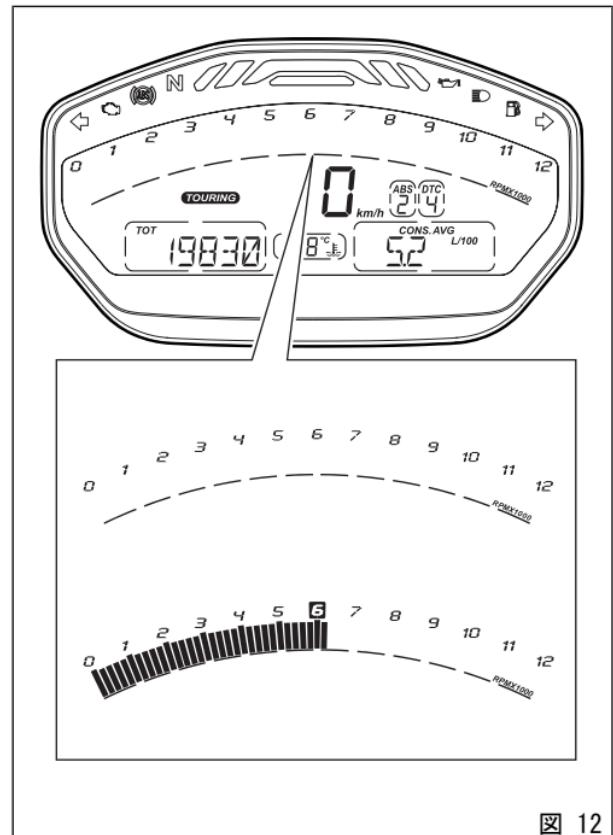


図 12

リミッター手前の次の起点値で警告灯が点灯します。
第一起点値 9900 rpm (A)
第二起点値 10100 rpm (B)
リミッター (C) に達すると、警告灯は点滅します。

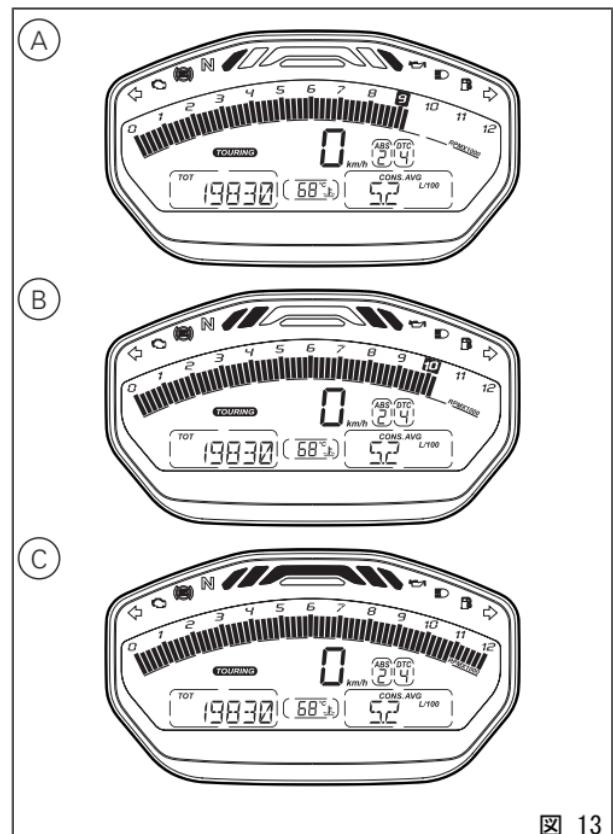


図 13

ライディングモード (Riding Mode)

この機能は現在設定されている“ライディングモード”を表示します。ライディングモードは“Setting Riding Mode (ライディングモードの設定)”機能から変更することができます。

設定可能なライディングモードはSPORT、TOURING、URBAN の 3 種類です。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- エンジンの出力を変更する特定エンジン出力
- ABS システムの許容値 (1、2、3、OFF)



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします）。

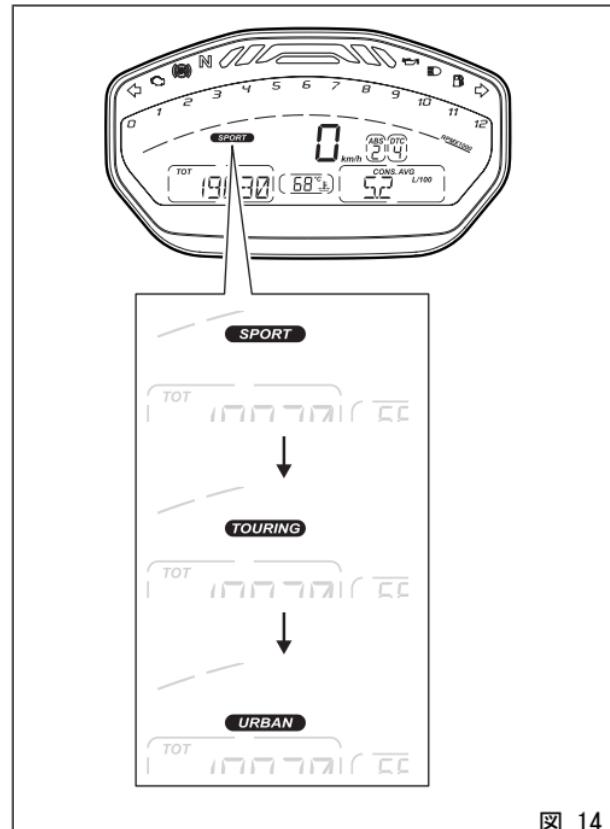


図 14

ライディングモード変更機能

この機能は車両のライディングモードを変更します。メニュー決定ボタン（4）を押すと、ライディングモードを変更することができます。

ディスプレイには3通りのライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN）が表示されます。

ボタン（4）を押すたびに、インストルメントパネルにはライディングモード名右横の矢印が移動し、ライディングモード名が強調表示され点滅します。矢印は選択しようとしているライディングモードを示します。

選択したいライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を2秒間押して決定します。

警告

ボタン（4）がターンインジケーター起動の位置、右もしくは左にある場合は、ライディングモード選択メニューに入ることはできません。

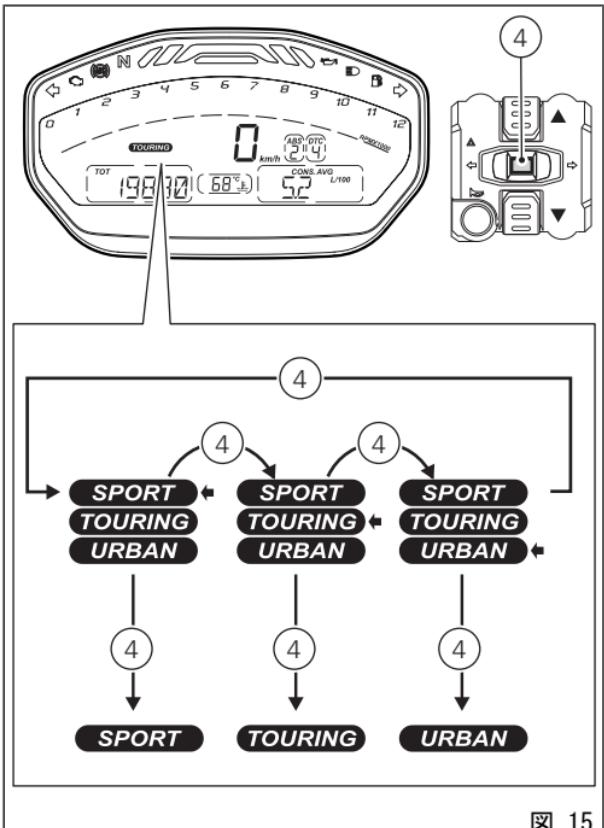


図 15

選択したいライディングモードが強調されても 10 秒以内にメニュー決定ボタン (4) を押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

- スロットルコントロールを開き、ブレーキをかけた状態で車両が動いている場合、警告マークが点滅します。またメニュー1 とメニュー2 に “CLOSE GAS” と “DON’ T BRK” のメッセージが 1 秒毎に交互に表示されます。

5 秒以内にスロットルコントロールが閉じられずブレーキが解放されない場合、もしくは車両速度がゼロにならない場合は、ライディングモードの変更は行われず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

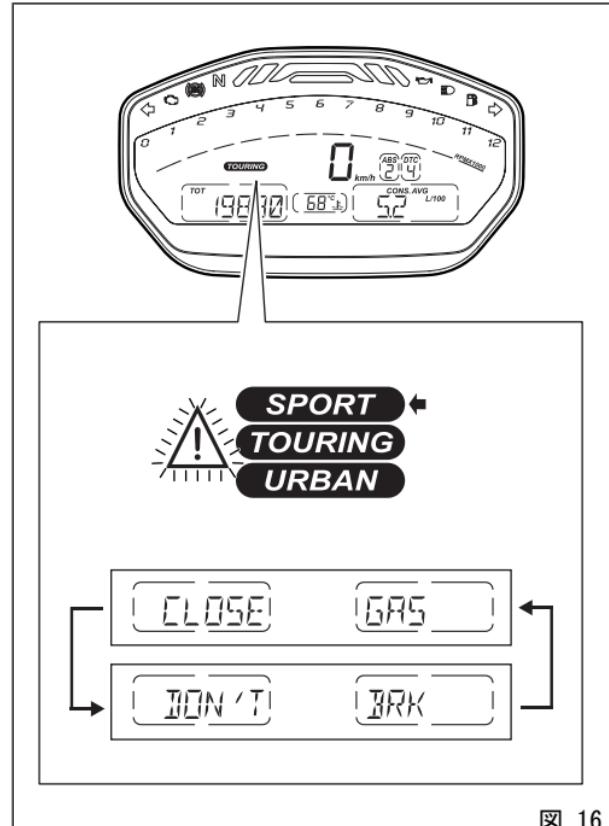


図 16

 参考

ライディングモードの変更時に ABS システムの状態を ON (起動) から OFF (解除)、または OFF (解除) から ON (起動) に変更すると、選択したライディングモードを決定する時、インストルメントパネルは ABS システムの起動または解除の手続きも行います。

 参考

ライディングモードの変更時に 1 つ以上エラーが存在する場合は、“CLOSE GAS”、“DON’ T BRK”の順にメッセージが表示され、続いて警告マークが点滅します。

ABS

車両に ABS システムが搭載されている場合、インストルメントパネルは枠の中に ABS 機能のステータスを表示します。

インストルメントパネルの表示 :

- ABS が起動している場合、枠に囲まれた ABS の文字と干渉レベル 1 から 3 までの数値
- ABS が解除されている場合、枠に囲まれた ABS の文字と “--” マーク点灯
- ABS エラーの場合、枠に囲まれた ABS の文字と “--” マーク点滅。さらに、EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラーが表示されます。

インストルメントパネルが情報を受信していない場合、ABS ランプが点灯します。

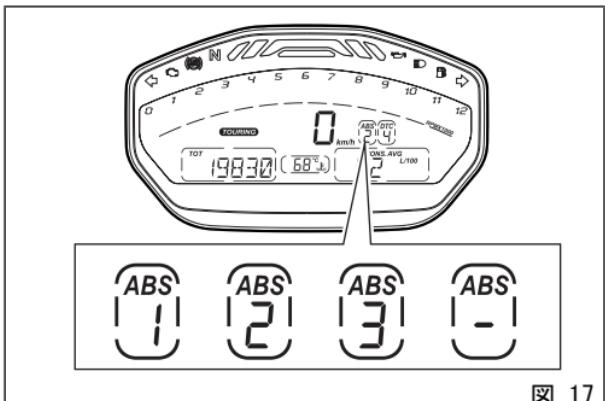


図 17

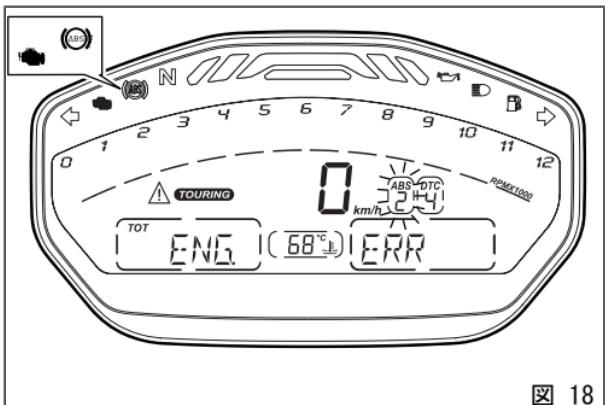


図 18

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な“ライディングモード”のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF		ABSシステム解除	NO
1	TRACK/SPORT	標準的な使用条件：グリップが良好な一般道またはサーキットでの使用。 このモードでは ABS は前後輪両方に機能しますが、アンチリフトアップ*制御*は解除されています。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先されます。	ライディングモード “SPORT” のデフォルトレベル
2	SPORT/TOURING	標準的な使用条件：グリップが良好な一般道での使用。 このモードでは ABS は前後輪両方に機能し、アンチリフトアップ*制御は有効です。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先され、同時に制動時の高い安定性とリフトアップ*制御を確保します。	ライディングモード “TOURING” のデフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
3	ALL/URBAN/WET CONDITION	<p>標準的な使用条件：あらゆるドライビング条件</p> <p>このモードでは ABS は前後輪両方に機能し、アンチリフトアップ*制御は有効です。</p> <p>このキャリブレーションにおいては車両の高い安定性とリフトアップ*防止が優先され、同時に高い減速性能を確保します。</p>	ライディングモード “URBAN” のデフォルトレベル

* 急な減速時の後輪の持ち上がり

レベルの選択に際しての注意事項



警告

お客様の車両の ABS システムのレベル調整は、車両に装着されている標準タイヤで実施されたものです。

標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。お客様の車両に適合したタイヤとは異なるサイズのタイヤの使用は推奨されません。

標準装備タイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア 180/60ZR17)。

- Pirelli Diablo Rosso II

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（フロント 120/70ZR17 - リア 180/60ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルから適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。

サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システムの機能が影響を受けるため、設定可能な 3 レベルのどれも納得のい

くものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキング、リフトアップの高い制御を行い、車両はすべてのブレーキングで高い安定性を維持します。レベル 3 からレベル 1 の順に、安定性やリフトアップ制御よりブレーキ力を優先する度合いが高くなります。レベル 1 ではリフトアップは制限されません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 2 と 3 の使用が推奨されます。

DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が起動している場合、枠内に DTC の文字と トランクションコントロール干渉レベル 1 から 8 までの数値
- DTC が解除されている場合、枠内に DTC の文字と “--” マーク点灯
- DTC エラーまたはブラックボックスのエラーの場合は、枠内に DTC の文字と “--” マーク点滅

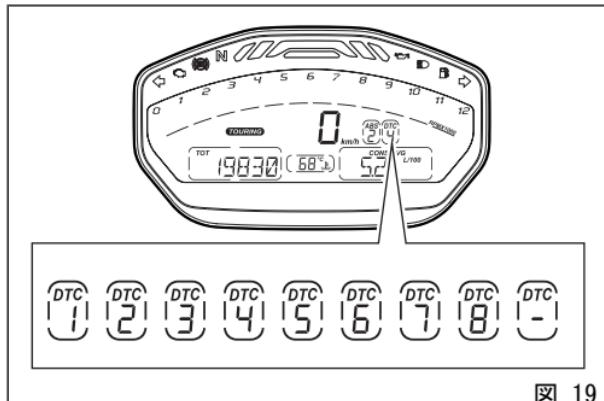


図 19

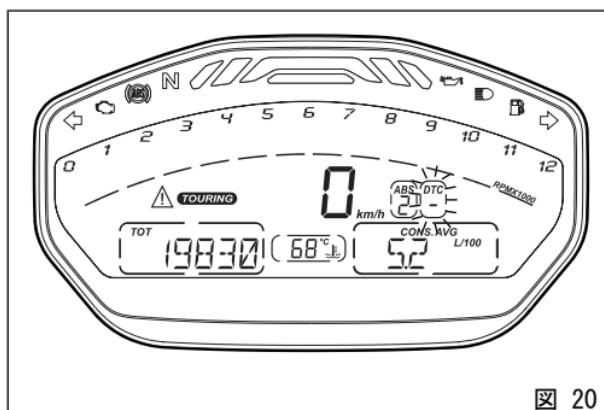


図 20



警告

DTC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサークット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取つて代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超したり、合理的に許容されるスピードを超したりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適した DTC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な“ライディングモード”のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
1	TRACK	熟練ライダー向けサーキットでの使用。 スキッドします。	NO
2	SPORT	熟練ライダー向け一般道およびサーキットでのスポーツドライブ用。スキッドします。	ライディングモード“SPORT”的デフォルトルベル
3	SPORT	熟練ライダー向け一般道でのスポーツドライブ用。スキッドします。	NO
4	TOURING	高速ツーリングドライブ用。	ライディングモード“TOURING”的デフォルトルベル
5	TOURING	ツーリングドライブ用。	NO
6	URBAN	あらゆる種類の行程での“セーフティドライブ”用。	ライディングモード“URBAN”的デフォルトルベル
7	RAIN	若干濡れた路面または湿った路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用に適合。	NO
8	HEAVY RAIN	濡れた路面でのドライブ用。ENGINE LOW の使用に適合。	NO

レベルの選択に際しての注意事項



警告

お客様の車両の DTC システムの 8 レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤ（メーカー、モデル、サイズなどの特徴）によって決定されています。標準装備のタイヤと異なるサイズのタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備タイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア 180/60ZR17)。

- Pirelli Diablo Rosso II.

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（フロント 120/70ZR17 - リア 180/60ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルから適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。

サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システムの機能が影響を受けるため、設定可能な 8 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。

この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 8 を選択すると、DTC システムはリアタイヤのわずかなスピinnにも介入します。

レベル 8 とレベル 1 の間には、その他に中間の介入レベルが存在します。DTC の介入度はレベル 8 から 1 に向かい減少します。

レベル 1、2、3 ではリアタイヤをスピnnやスキッドさせることができます。これらのレベルは熟練ライダーにのみ推奨されます。特にレベル 1 はサーキットでの使用が考慮されたものです。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
- 2) レイアウト/行程（類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる）
- 3) ライディングスタイル（より“スムーズ”に、またはより“シャープ”に）

グリップ状況とレベルの関係：正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況に大きく左右されます（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。レイアウトタイプとレベルの関係：レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満

足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択カーブ出口で早めに車体を起こし“シャープ”に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して“スムーズ”に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します（タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します）。

過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し“シャープ”なライディングスタイルで走行してみてください。

乾いた一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 5、4 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します（例：レベル 5 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 4 に、レベル 5 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6 に変更します）。

濡れた一般道での使用時のアドバイス

若干濡れた一般道または湿った一般道ではレベル 7、濡れた一般道ではレベル 8 の使用が推奨されます。同時に ENGINE LOW レベルを選択してください。

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報 (° C) を受信し、設定単位 (° C または ° F) に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。

エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ~ +120 ° C です。

データが以下の場合 :

- -40 ° C 以下の場合、“---” が点滅表示されます。
- -39 ° C ~ +39 ° C の場合、“L0” が点灯します。
- +40 ° C ~ +120 ° C の場合、データが表示されます。
- +121 ° C 以上の場合、“HI” が点滅表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に “---” が点滅表示されます。さらに、EOBD ランプが点灯します。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に “---” が固定表示されます。

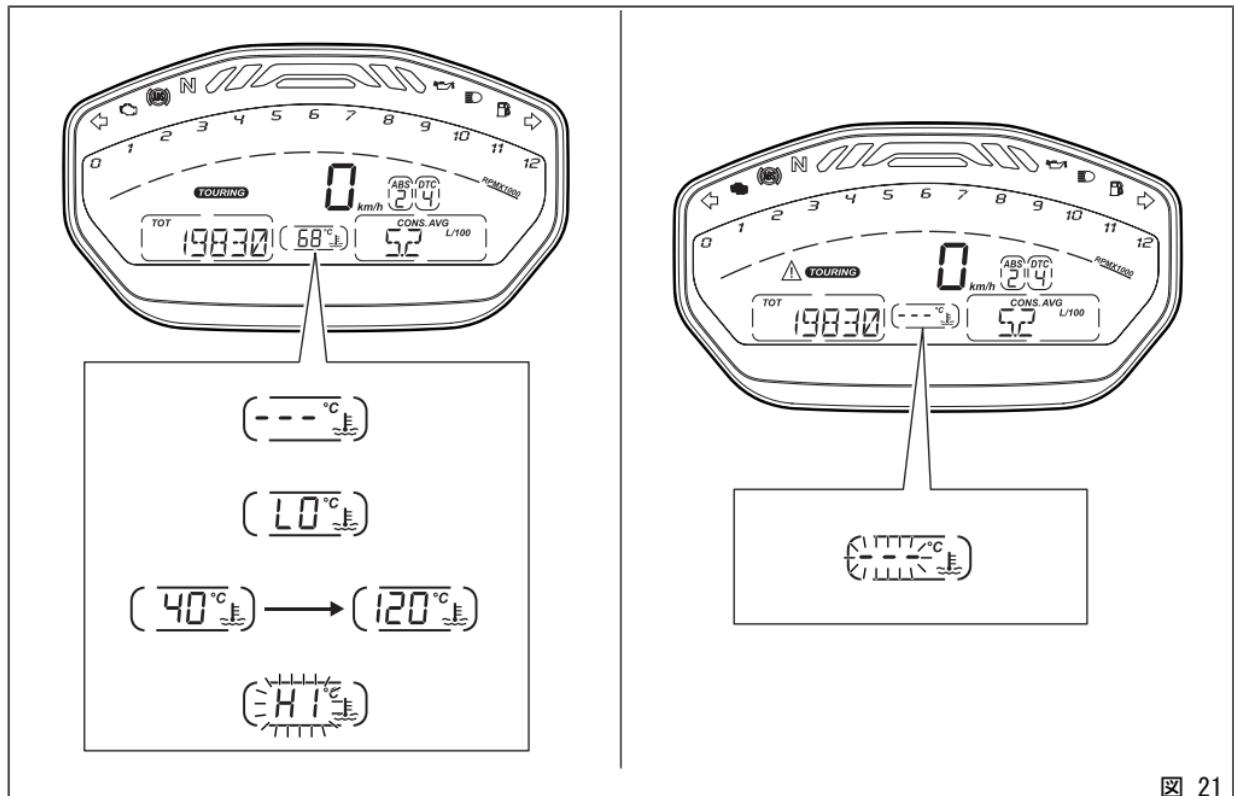


図 21

メニュー1の機能 :

メニュー1 の機能 :

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター A (TRIP A)
- トリップメーター B (TRIP B)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 時計

ボタン (1) を押すと、メニュー1 の機能を表示します。

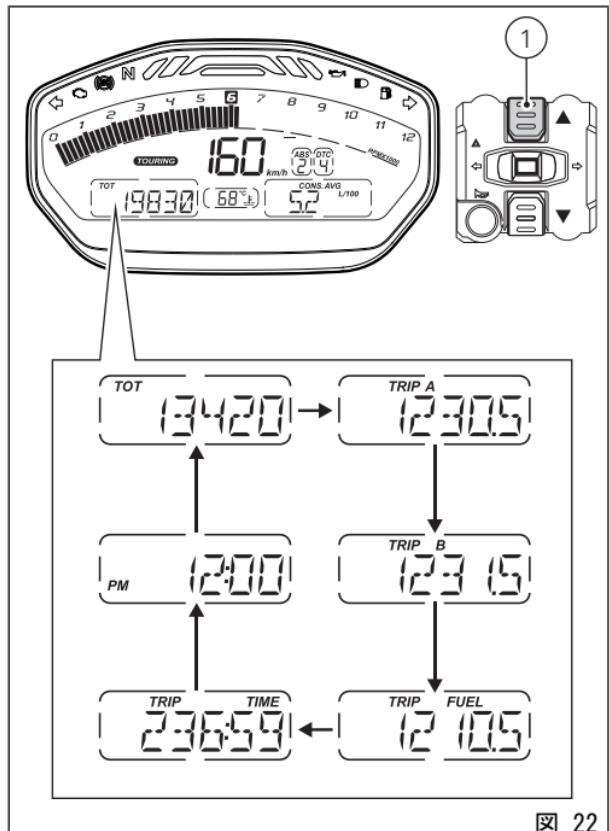


図 22

オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。

オドメーターに対応する数値（キロ またはマイル）は、“TOT” の文字と単位で表示されます。最大値（199999 km または199999 mi）に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。

オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

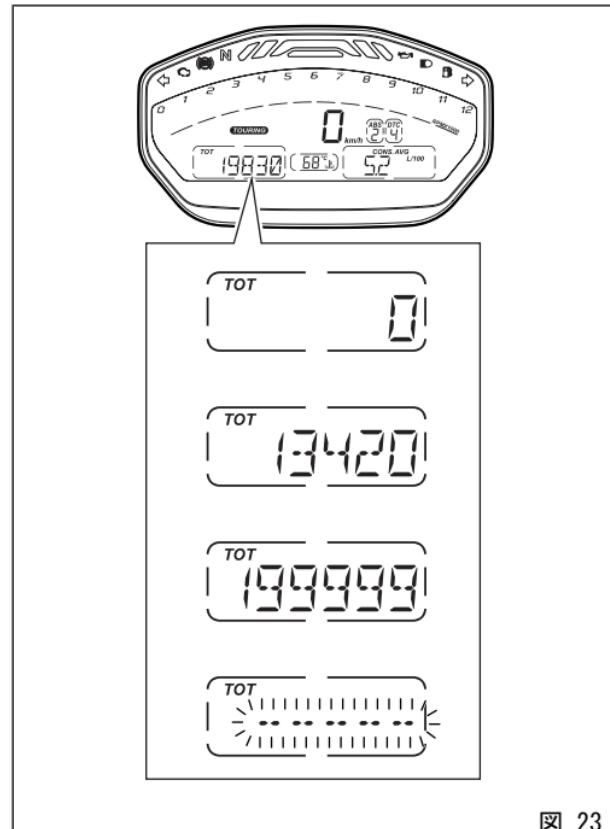


図 23



参考

Key-ON 時にインストルメントパネルは 10 秒間オドメーターを表示し、その後ユーザー設定ページの画面に移ります。



参考

オドメーター機能で点線 “ ----- ” が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

トリップメーター 1 (TRIP A)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン (1) を 3 秒間押すと、TRIP A のデータがリセットされます。TRIP A がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

TRIP A のカウンターは、システムの単位を手動で変更した場合、もしくは電源の供給が中断された場合(バッテリー上がり等)にも自動的にリセットされます。カウンターは新しく設定した単位で再びゼロからカウントを始めます。

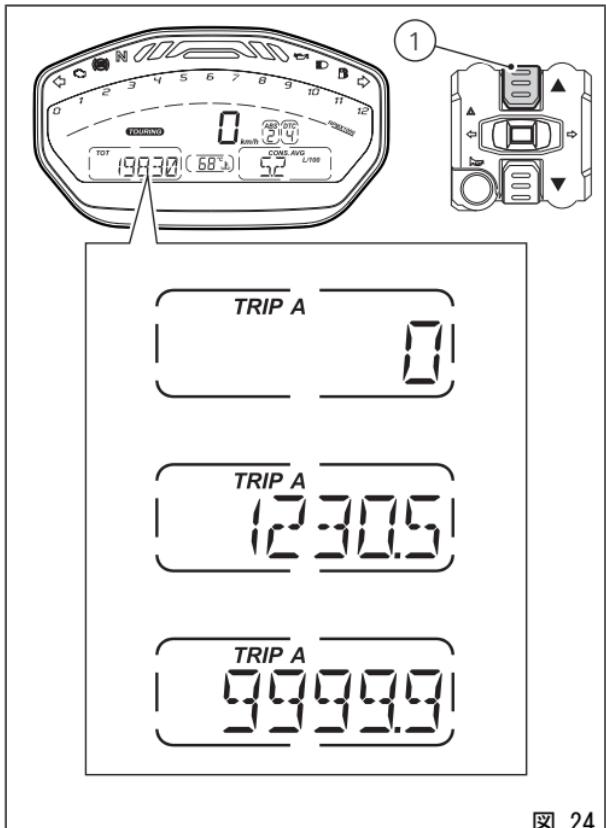


図 24

トリップメーター 2 (TRIP B)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示します。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン (1) を 3 秒間押すと、TRIP B のデータがリセットされます。

TRIP B のカウンターは、システムの単位を手動で変更した場合、もしくは電源の供給が中断された場合(バッテリー上がり等)にも自動的にリセットされます。カウンターは新しく設定した単位で再びゼロからカウントを始めます。

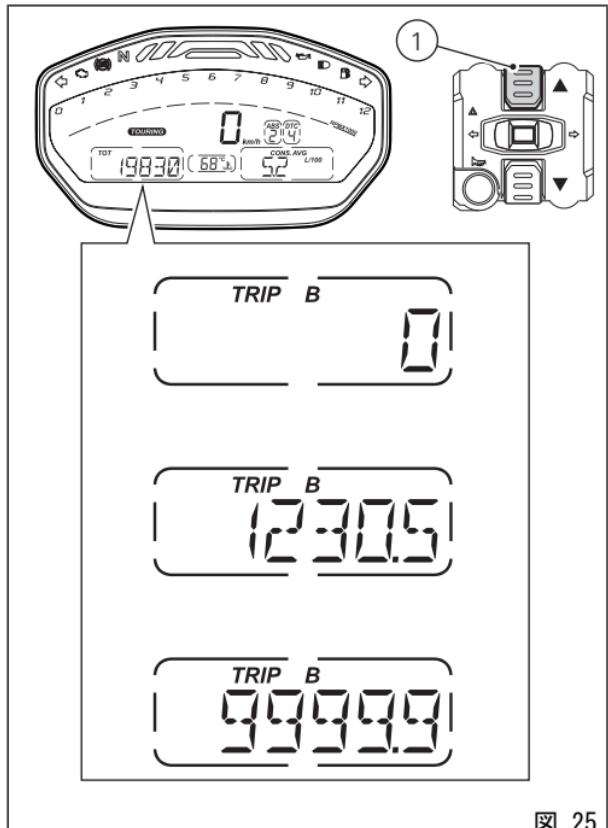


図 25

燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)

燃料リザーブトリップメーターは、車両のリザーブでの走行距離（燃料リザーブランプが点灯した時点からの車両の走行距離）を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。

燃料リザーブランプが点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能に関係なく TRIP FUEL 機能が表示されます。その後、メニュー 1 の他の機能をスクロール表示することができます。

リザーブタンク使用の状態が続く場合は、Key-OFF 後もデータは記憶されます。カウンターはリザーブ状態でなくなった時点で自動的に中断されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

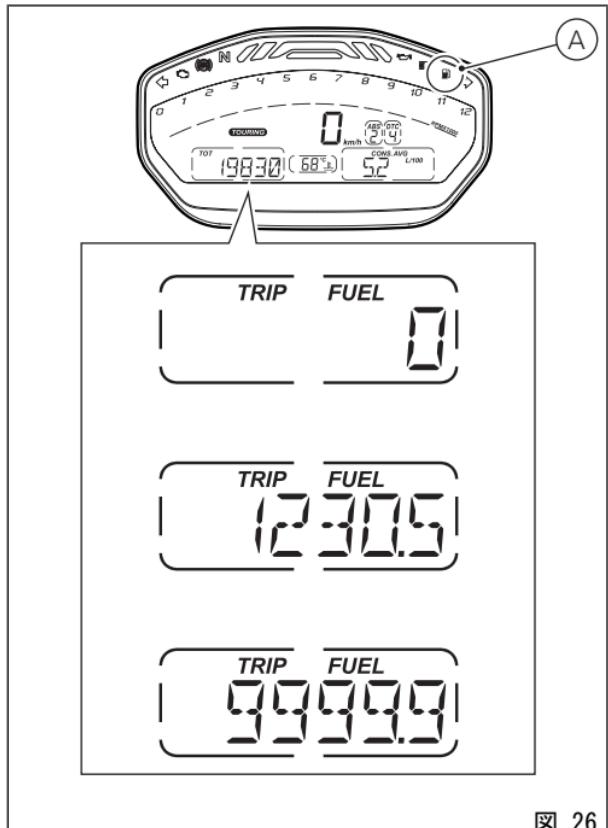


図 26

走行時間

インストルメントパネルは走行時間を“hhh:mm”形式で算出し、“TRIP TIME”的な文字と共に表示します。TRIP Aが最後にリセットされてからの経過時間を用いて算出されます。TRIP Aがリセットされると、データはクリアされます。車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します）。

表示時間が“511:00”（511時間00分）を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

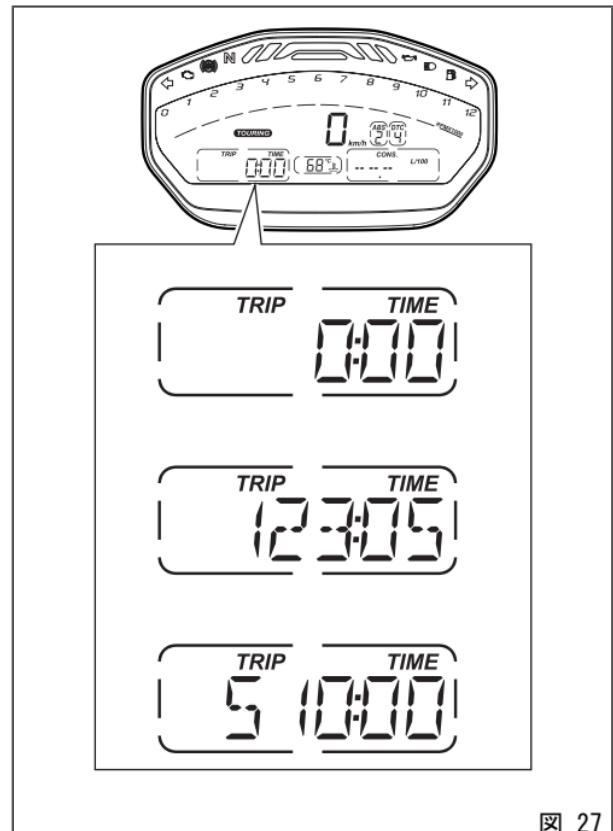


図 27

時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。

インストルメントパネルは時間を以下のように表示します。

- hh (時間) : mm (分) :
- AM 表示 (0:00 から 11:59 まで)、または PM 表示 (12:00 から 12:59 までと、1:00 から 11:59 まで)。

電源の供給が中断された場合（バッテリー上がり等）、時計はリセットされ、自動的に再び “0:00” からカウントを始めます。

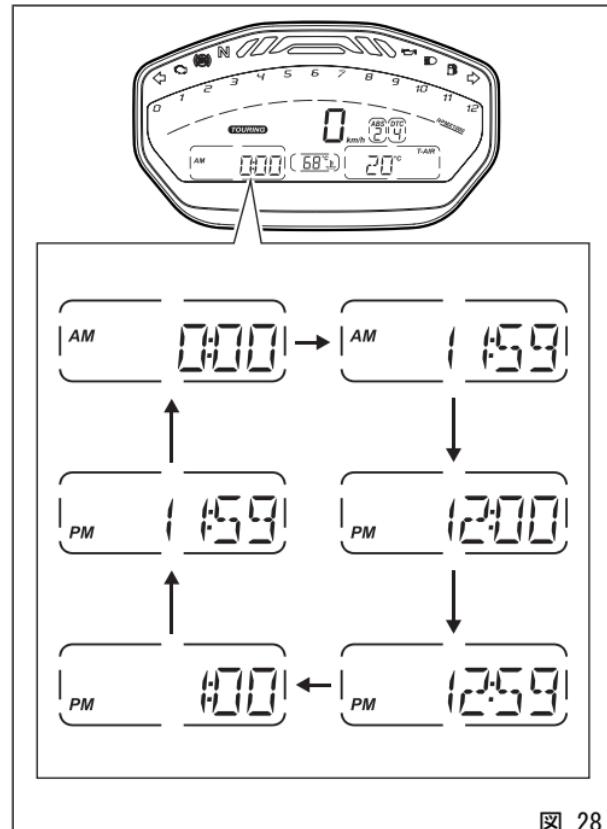


図 28

メニュー2の機能 :

メニュー2 の機能 :

- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温

ボタン (2) を押すと、メニュー2 の機能を表示します。

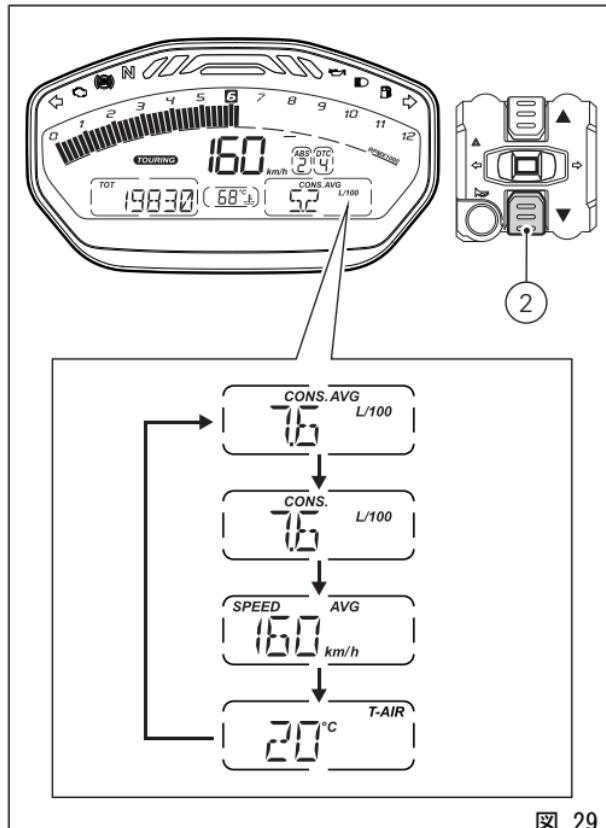


図 29

平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、“CONS. AVG” の文字を表示します。

TRIP A が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。

TRIP A がリセットされると、データがリセットされます。次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。

数値が表示されない最初の 10 秒間は “- - -” が平均燃費として固定表示されます。データは設定された単位（リットル /100 km、mpg UK、mpg USA）で表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。

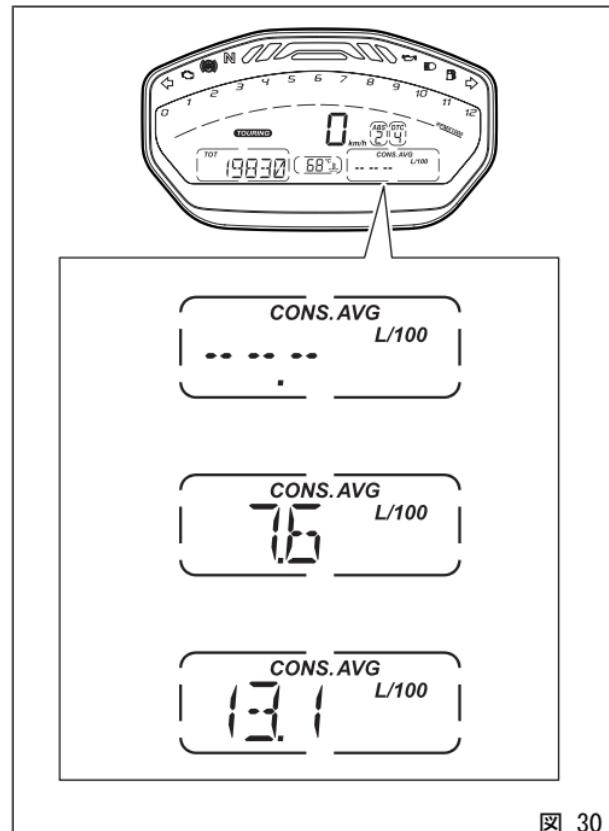


図 30



参考

設定メニューの UNITS 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONSの文字を表示します。

数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、mpg USA で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます（車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません）。算出されない場合は、ディスプレイ上に “---” が瞬間燃費として固定表示されます。

参考

設定メニューの UNITS 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

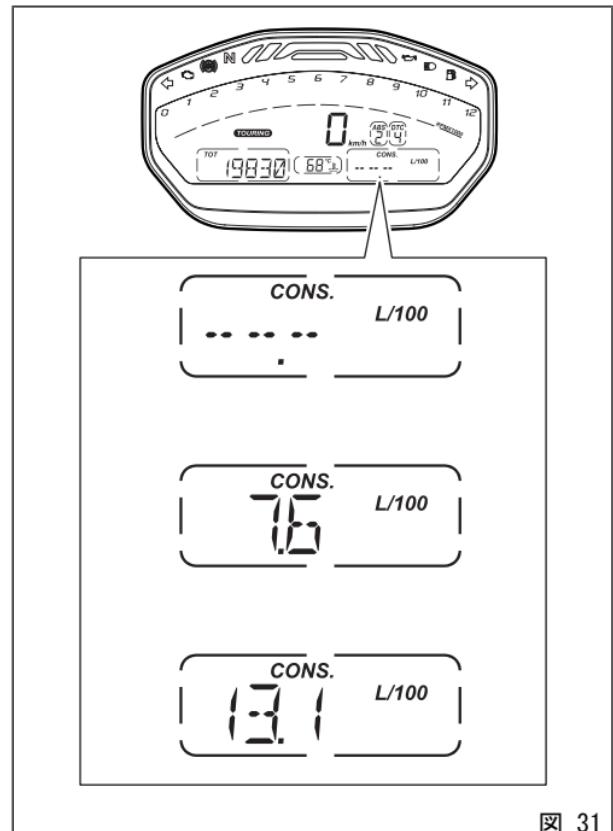


図 31

平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、“SPEED AVG” の文字を表示します。

TRIP A が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。

TRIP A がリセットされると、データがリセットされます。次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。

数値が表示されない最初の 10 秒間は “- - -” が平均スピードとして固定表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。

平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

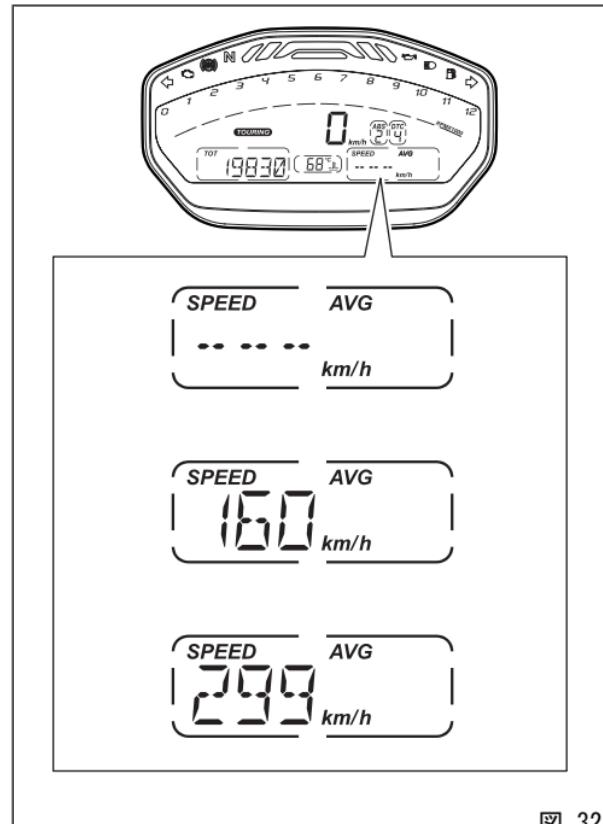


図 32



参考

“SET UNITS” 機能の設定メニューで Km/h (およびKm) から mph (およびマイル) に “スピード” (および “距離”) の単位を変更することができます。

外気温

インストルメントパネルは設定された単位 ($^{\circ}\text{C}$ または $^{\circ}\text{F}$) に換算された外気温、設定単位、T-AIR の文字を表示します。温度データは $-39^{\circ}\text{C} \sim +124^{\circ}\text{C}$ ($-38^{\circ}\text{F} \sim +255^{\circ}\text{F}$) の場合に表示されます。それ以外の温度 (-39°C (-38°F) 未満か $+124^{\circ}\text{C}$ ($+255^{\circ}\text{F}$) を超える場合) では “---” と単位が表示されます。

気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に “---” が点滅します。さらに、EOBD ランプが点灯します。

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

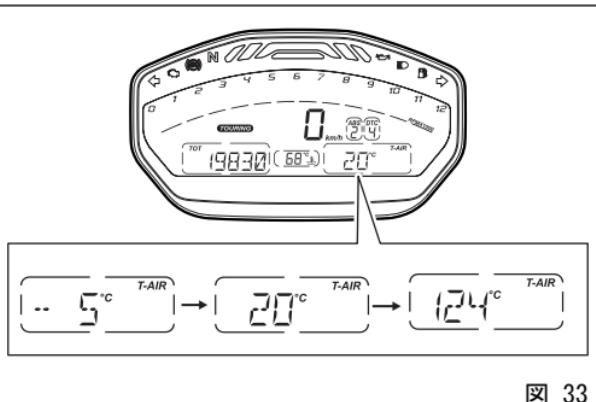


図 33

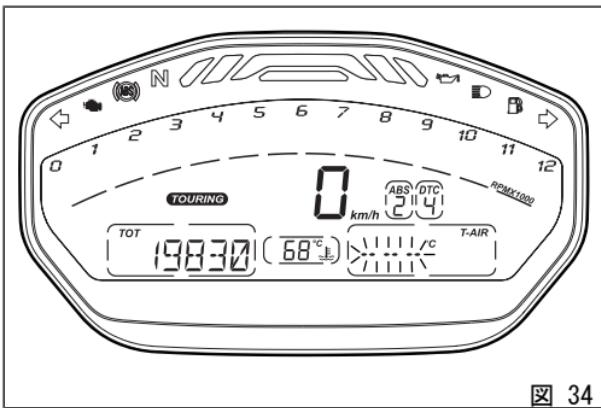


図 34

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス（定期点検）を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行なうことができます。

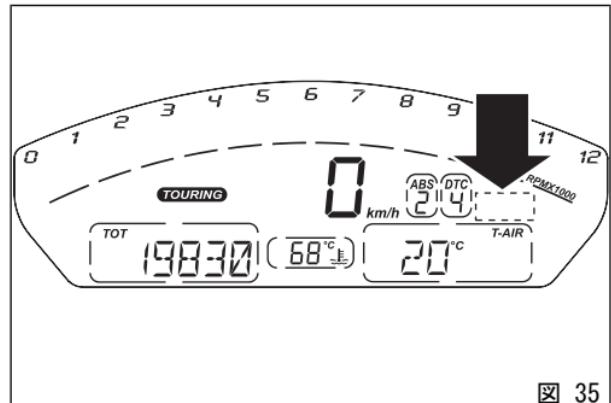


図 35

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km に達すると、Key-ON の度に 5 秒間表示されます。

メンテナンス表示は、“SERVICE” の文字、オイルマーク、“OIL” の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、“SERVICE” の文字、オイルマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

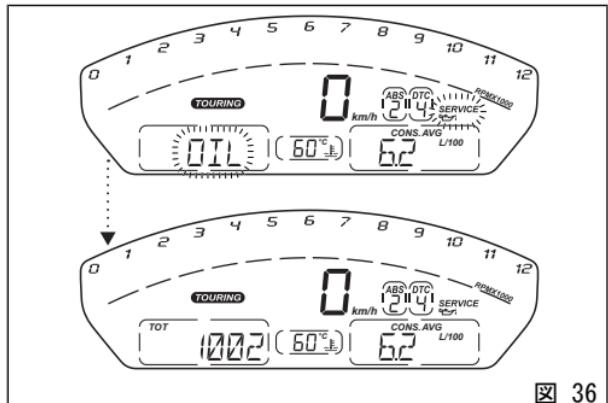


図 36

OIL SERVICE またはDESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは次の定期点検 (OIL SERVICE (A) または DESMO SERVICE (B)) までの残りのキロ数 (マイル数) のカウントを開始します。

Key-ONする度にキロ数カウントが2秒間表示され、定期点検までの走行距離が1000 km (600 miles) を切ると、Key-ON毎に5秒間表示されます。

Key-ON時に次回の定期点検までの走行距離が表示され、“SERVICE”の文字と、オイルマークもしくはデスモマークが点灯します。

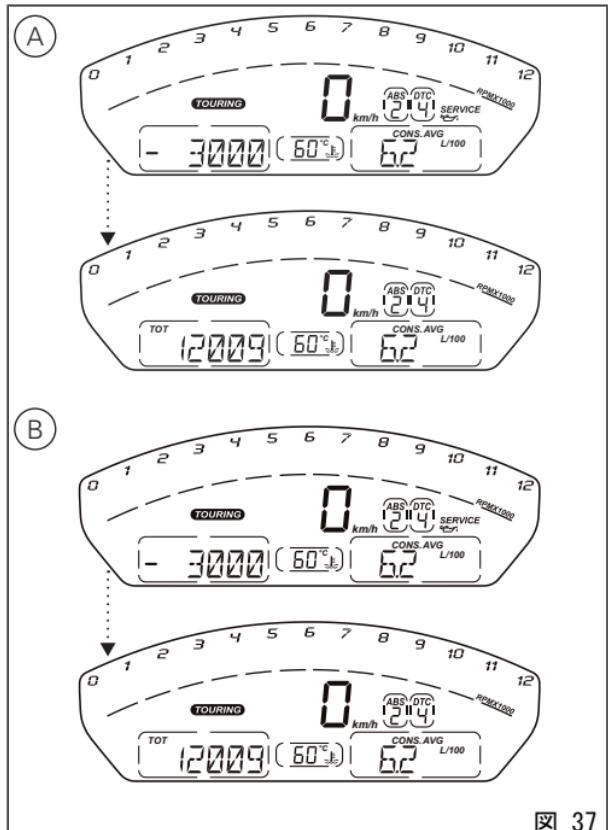


図 37

OIL SERVICE または DESMO SERVICE 表示
メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、必要なメンテナンスのタイプ (OIL SERVICE (A) または DESMO SERVICE (B)) が表示されます。

メンテナンス表示は、“SERVICE” の文字、オイルマークもしくはデスモマーク、“OIL” もしくは “DESMO” の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、“SERVICE” の文字、オイルマークもしくはデスモマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

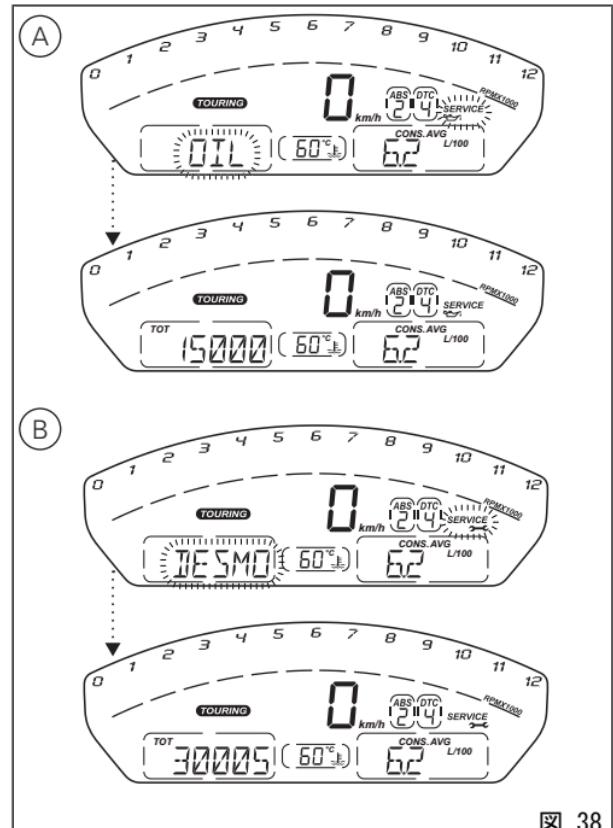


図 38

エラー

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

Key-ON 時にエラーが検知されると、インストルメントパネルに EOBD ランプ、警告マークが点灯し、設定メニューのエラーページが起動します。車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルに EOBD ランプ、警告マークが点灯し、設定メニューのエラーページが起動します。

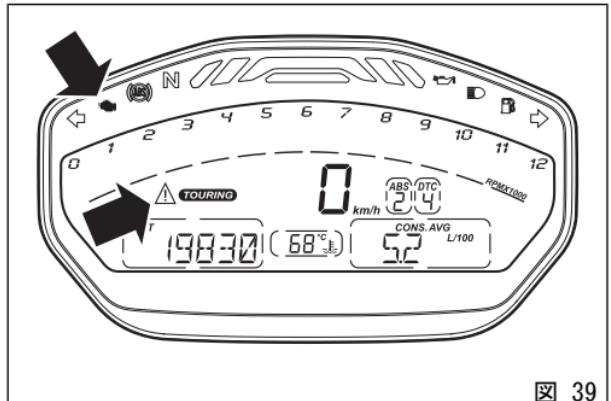


図 39

エラー表示

現時点で存在しているエラーを表示するには、設定メニューに入ります。ボタン (1) および (2) で “ERR.”(エラーが存在する時は最初のページ)を選択し、ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルに “ERR.” と一緒に以下が表示されます。

- エラータイプの表示点灯
- “EXIT” の文字が表示され、枠が点滅

複数のエラーが存在する場合、各エラー表示が 3 秒ずつ順番に表示されます。

エラーを受信すると同時に EOBD ランプが点灯します。



警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

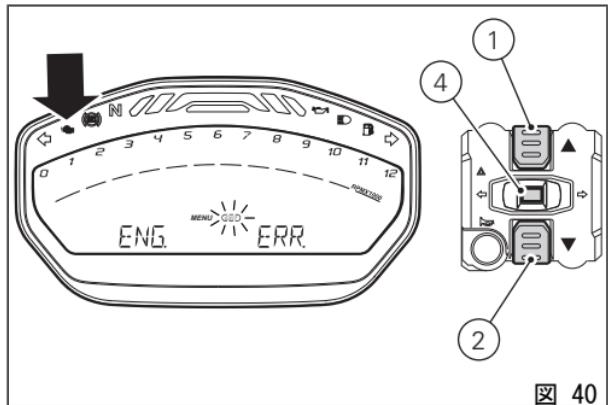


図 40

表示エラーの説明

エラー表示	説明
CAN LINE	CAN LINE BUS Off
UNK-D	コントロールユニットがシステムに認識されません - SW エラー
ABS	ABS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS	BBS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません BBS コントロールユニット機能の一般不具合 エキゾーストバルブモーター機能の不具合
DSB	DSB コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
IMMO	キーなし キーが認識されていない アンテナが機能していない
ENG.	ECU コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません ECU コントロールユニット機能の不具合全般 スロットルポジションセンサー不具合 スロットルリレーまたはスロットルモーター不具合 圧力センサー不具合 エンジンクーラント温度センサー不具合 インテークダクト温度センサー不具合

エラー表示	説明
	インジェクションリレー不具合 イグニションコイル不具合
	インジェクター不具合 エンジン回転数センサー不具合
	ラムダセンサーまたはラムダセンサーヒーター不具合 車両スターターリレー不具合
	セカンダリエアセンサー不具合
FUEL	NTC リザーブセンサー不具合
SPEED	フロントおよび/またはリアスピードセンサー不具合
BATT.	バッテリー電圧が高すぎる、または低すぎる
STAND	サイドスタンドセンサーが機能していない
FAN	エレクトリッククーリングファン不具合
T_AIR	外気温センサー不具合



“FAN” の表示は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

エラーアイコン表

ランプ / エラーメッセージ

エラー

	BBS	ブラックボックスコントロールユニット
	ABS	ABS コントロールユニット
	DSB	インストルメントパネルコントロールユニット
	IMMO	イモビライザーアンテナ
	ENG.	エンジンコントロールユニット
	CAN	Can Bus OFF
	UNK-D	ソフトウェアの互換性
	FAN	クーリングファン
	BATT.	バッテリー電圧

ランプ / エラーメッセージ	エラー
 T-AIR	気温センサー
 STAND	サイドスタンドセンサー
 SPEED	スピードセンサー
 FUEL	リザーブフューエルセンサー

 参考

“FAN”の表示は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

ラップタイム (LAP time)

LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。

LAP 機能の起動中に FLASH ボタン (3) を押すと、“LAP” の文字とメニュー 1 に “START LAP” の文字が 4 秒間点滅したのち、自動的に機能表示に戻ります。その後、FLASH ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップタイムが 100 分の 1 秒単位 (“0' 00' ' 00”) で 10 秒間表示されます。クーラント温度表示欄にはラップ数が表示されます。10 秒が経過すると、FLASH ボタン (3) を押す前の表示に自動的に戻ります。

LAP のメモリー数が 30 に達すると LAP 機能は停止します。メモリーがリセットされるまでの間は、FLASH ボタン (3) を押す度インストルメントパネルに “FULL -- LAP” の文字が 4 秒間点滅表示されます。

参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅と LAP のストップウォッチのフィニッシュランの操作および記憶（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。

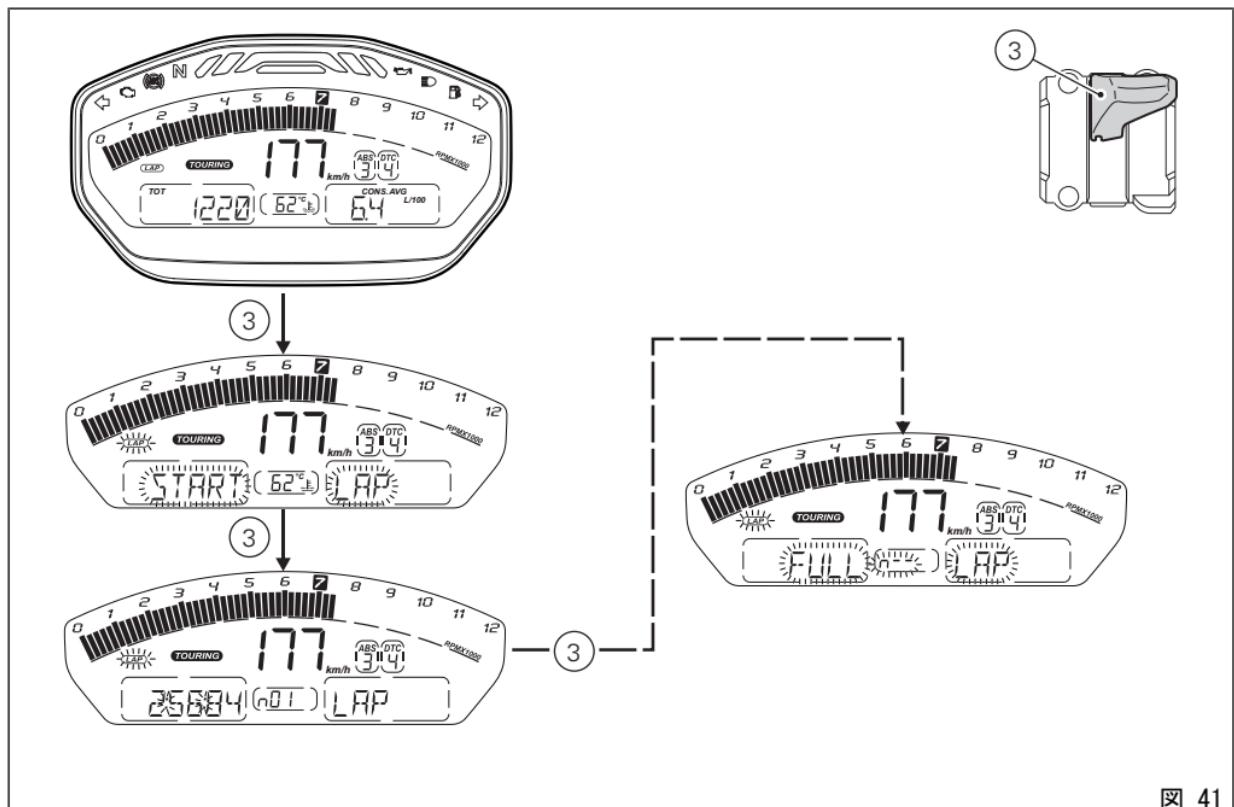


図 41

LAP の記録

LAP 機能が起動中、ラップタイム (LAP time) の記録が可能です。

ラップタイムを記録するには、設定メニューの LAP ページから LAP TIME 機能を起動します。

機能を起動したのち、以下の方法でラップタイムを記録することができます。

- ボタン (3) を 1 回押すと、ストップウォッチが最初のラップのタイム計測をスタートします。インストルメントパネルのメニュー 1 には “START LAP” の文字が 4 秒間点滅表示され、その後自動的にもとの表示に戻ります。
- これ以降、ボタン (3) を押す度に、インストルメントパネルのメニュー 1 にはラップタイムが 10 秒間表示されます。クーラント温度表示欄にはラップ数が表示されます。10 秒が経過すると、自動的にもとの表示に戻ります。

最大 30 周までラップタイムを記録することができます。

インストルメントパネルのメモリーがフルの場合は、メモリーがリセットされるまでボタン (3) を押してもラップタイムは記録されず、ディスプレイに “FULL -- LAP” の文字が 4 秒間点滅表示されます。設定メ

ニューの LAP の削除 (ERASE) 機能から、すべてのラップタイムがクリアされるまで表示が続きます。LAP 機能を OFF にした場合、そのラップは記録されません。

LAP 機能が起動中に、突然エンジンが止まった場合 (Key-OFF)、LAP 機能は自動的に停止します。万ーストップウォッチが作動していても、ラップタイムは記録されません。

ラップタイムの “ストップ” 指示が出されなかった場合、9 分 59 秒 99 の時点でストップウォッチは “0” に戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。

LAP 機能を ON にし、ラップタイムのメモリーをリセットしない場合、記録されているラップ数が 30 以下 (例 : 18 ラップ記録済み) であれば、インストルメントパネルはメモリーに記録可能な残りのラップ数を続けて記録します (この例の場合、残り 12 ラップ記録可)。

この機能では、記録中のラップタイムのみ表示することができます。ただし、設定メニューの LAP 記録の表示機能 (LAP REC) で完全なデータを表示するため、他のデータ (最高速度、エンジン最高回転数、最高値に達した場合リミッター) も同様に記録されます。

設定メニュー

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。

設定メニューに入るには、Key-ON の状態で車両実速度が 20 km/h 以下の時にボタン (2) を 2 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。

設定メニューには以下の機能が表示されます。

- ライディングモード (R. M.)
- バッテリー (BAT.)
- バックライト (B. L.)
- ラップ (LAP)
- 時計 (CLK)
- PIN CODE (PIN)
- RPM (RPM)
- 単位の設定 (UNT)
- エラー (ERR.) (エラー検出された場合のみ)

安全上の理由から、車両速度が 20 Km/h 以下の時のみ設定メニューに入ることができます。このメニュー内にいる時に車両速度が 20 Km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的にメイン画面に戻ります。

ボタン (1) および (2) を押すと、パーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することが

できます。ボタン (1) を押すと次のパラメーターが、ボタン (2) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。

希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン (4) を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューぺージが開きます。

機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューぺージにアクセスできません。

設定メニューを終了するには、“EXIT”を強調表示し、メニュー決定ボタン 4 を押します。

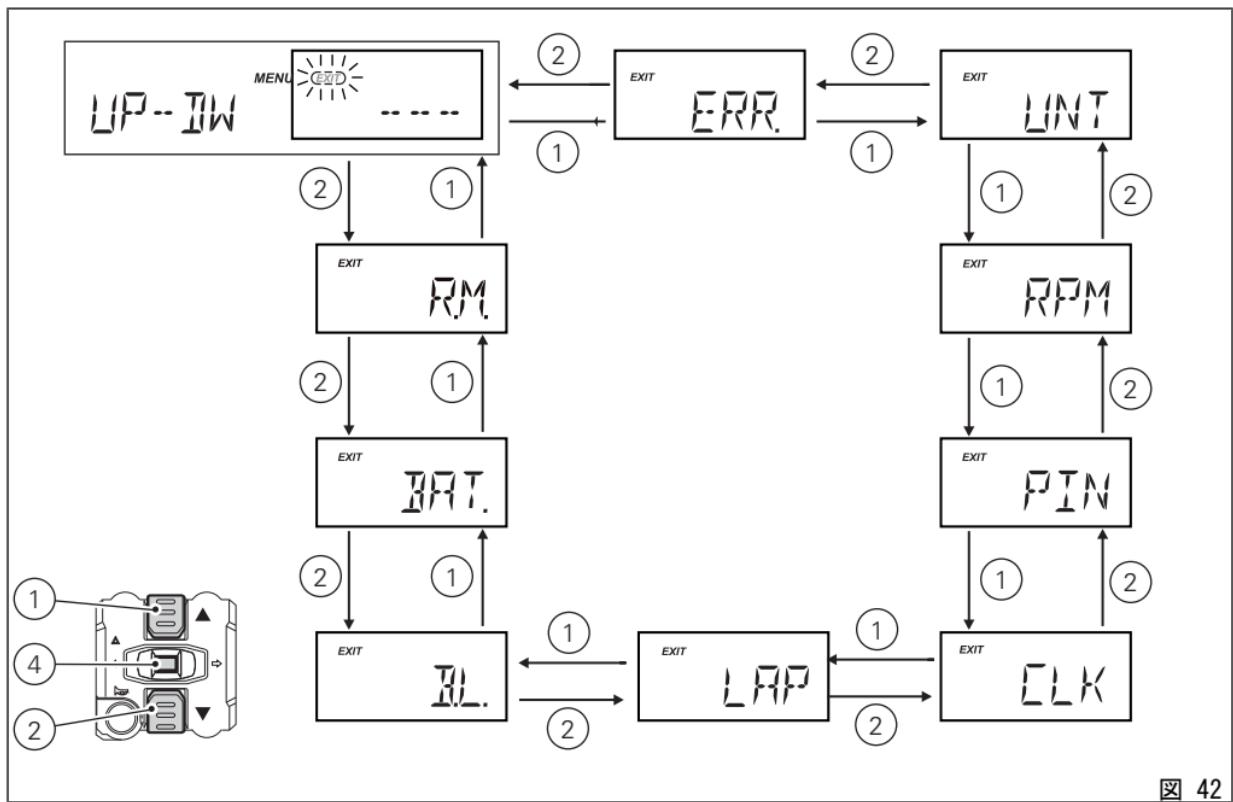


図 42

ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

設定メニューに入ります。

ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“R.M.”（ライディングモード）を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“R.M.”（ライディングモード）メニューに入ります。機能に入ると、選択可能な 3 つのライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN）がディスプレイに表示されます。ボタン (1) または (2) を押し、パーソナライズしたいライディングモードを強調表示（横の矢印が点滅）します。メニュー決定ボタン (4) を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに移ります。

“EXIT” の文字が強調表示された状態でボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

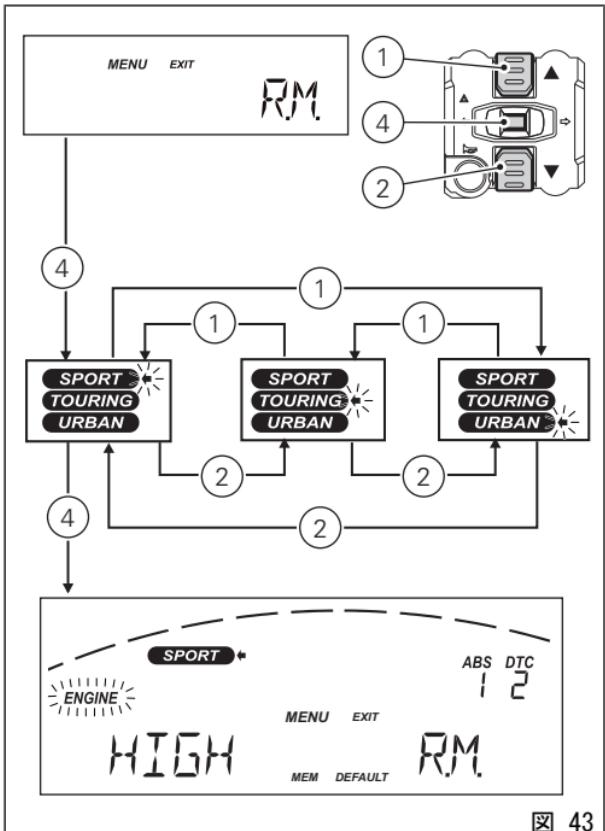


図 43

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ENGINE
- DTC
- ABS
- DEFAULT (ライディングモードのパラメーターを Ducati 初期設定に回復します)

ライディングモードのパーソナライズメニューに入ると、ENGINE パラメーターが自動的に強調表示（パラメーター点滅）されます。ボタン (1)、(2) を押してメニュー内を次の順番で周回し、現在の設定情報をひとつひとつ選択することができます（選択されたパラメーターが点滅）。

- ENGINE
- DTC
- ABS
- MEMORY
- EXIT
- DEFAULT

“EXIT” の文字が強調表示され、ボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。



警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、“DEFAULT” 機能を使用してパラメーターを修復してください。

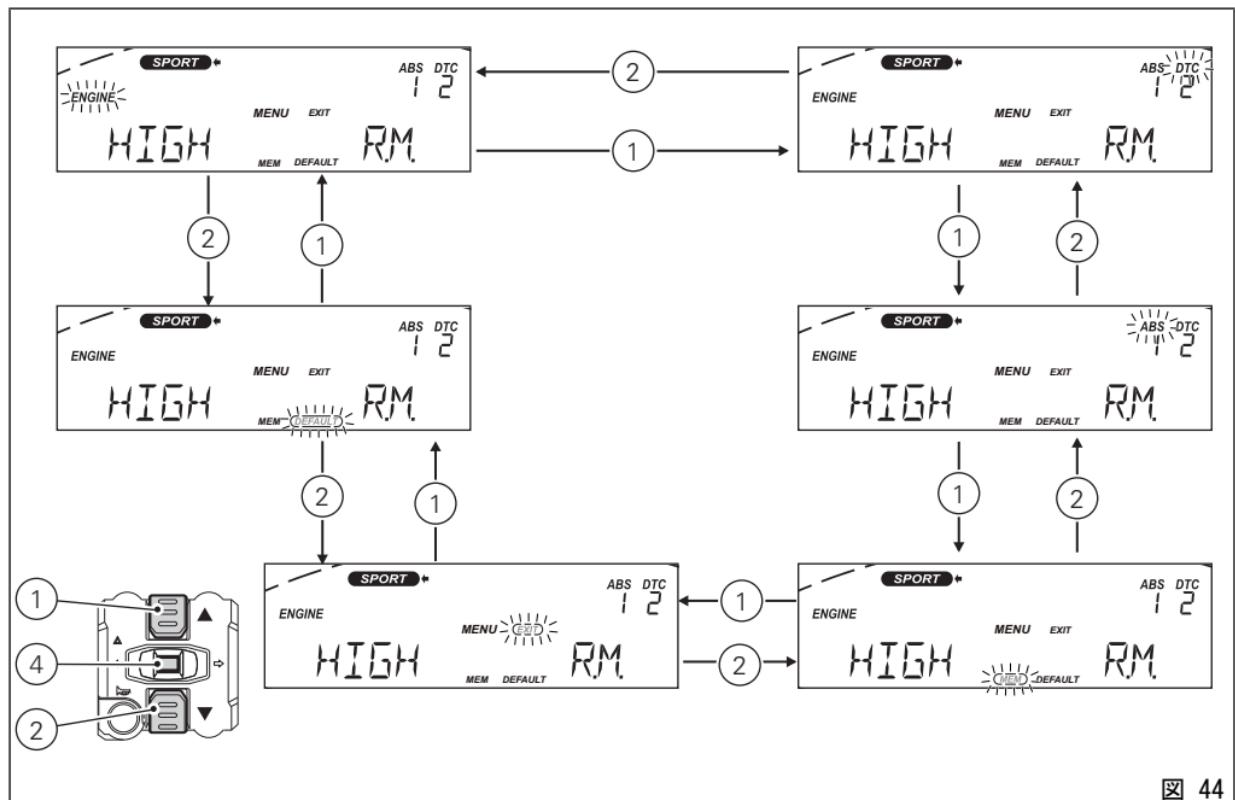


図 44

ライディングモードのパーソナライズ：パラメーターの保存

ライディングモードのパラメーター（ENGINE、DTC、ABS）を変更した場合に、変更を反映させるにはパーソナライズメニューを終了する前に変更を保存する必要があります。

各ライディングモードで設定したパラメーターを保存することができます。

ライディングモードのパラメーター設定を保存するには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）および（2）を使用して“R.M.”（ライディングモード）を選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を使用して変更したいライディングモードを選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）および（2）で“MEMORY”的表示を選択し（パラメータ一点滅）、ボタン（4）を2秒間押します。2秒後に“WAIT”が2秒間表示されたのち、“MEM”および“OK”と表示され、新パラメーターが保存されたことを示します。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。“EXIT”的文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了し前の表示に戻ります。



警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、“DEFAULT”機能を使用してパラメーターを修復してください。

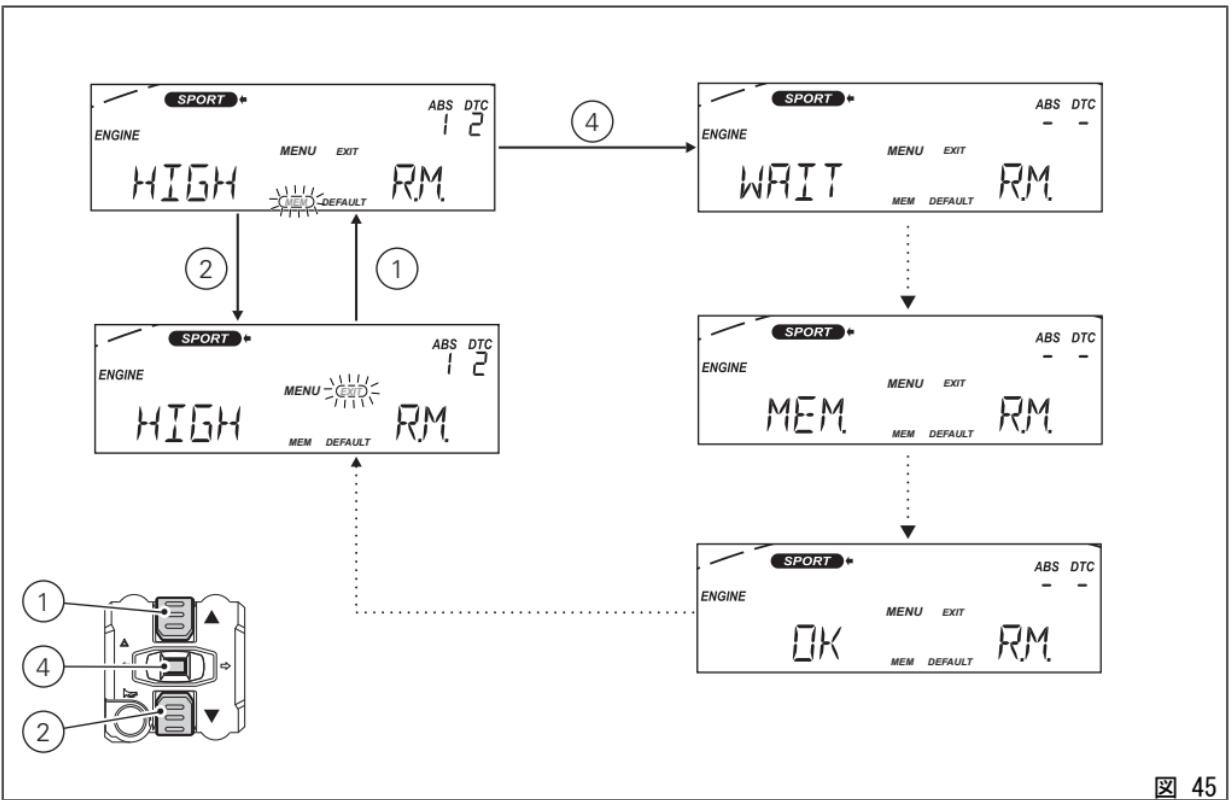


図 45

ライディングモードのパーソナライズエンジン調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

設定メニューに入ります。ボタン（1）またはボタン（2）を押し、“R.M.”（ライディングモード）を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。“R.M.”（ライディングモード）メニューに入ります。

ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN）を選択します。希望のライディングモードを選択（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（ENGINE）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

この機能に入ると、現在設定されているエンジン出力（HIGH、MED、LOW）が点滅します。ボタン（1）および（2）を押し、新しく設定したいエンジン出力を

選択します。ボタン（4）を押し、選択を決定します。

自動的に数値が点灯表示に移り、“EXIT”の文字が強調表示されます。

メニューを終了してパラメーターの保存（M）を行う前画面に戻るには、“EXIT”の文字を強調してボタン（4）を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。



参考

ENGINE パラメーターの新設定を保存するには、“パラメーターの保存”に記載されている“ライディングモードのパラメーターの保存”手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

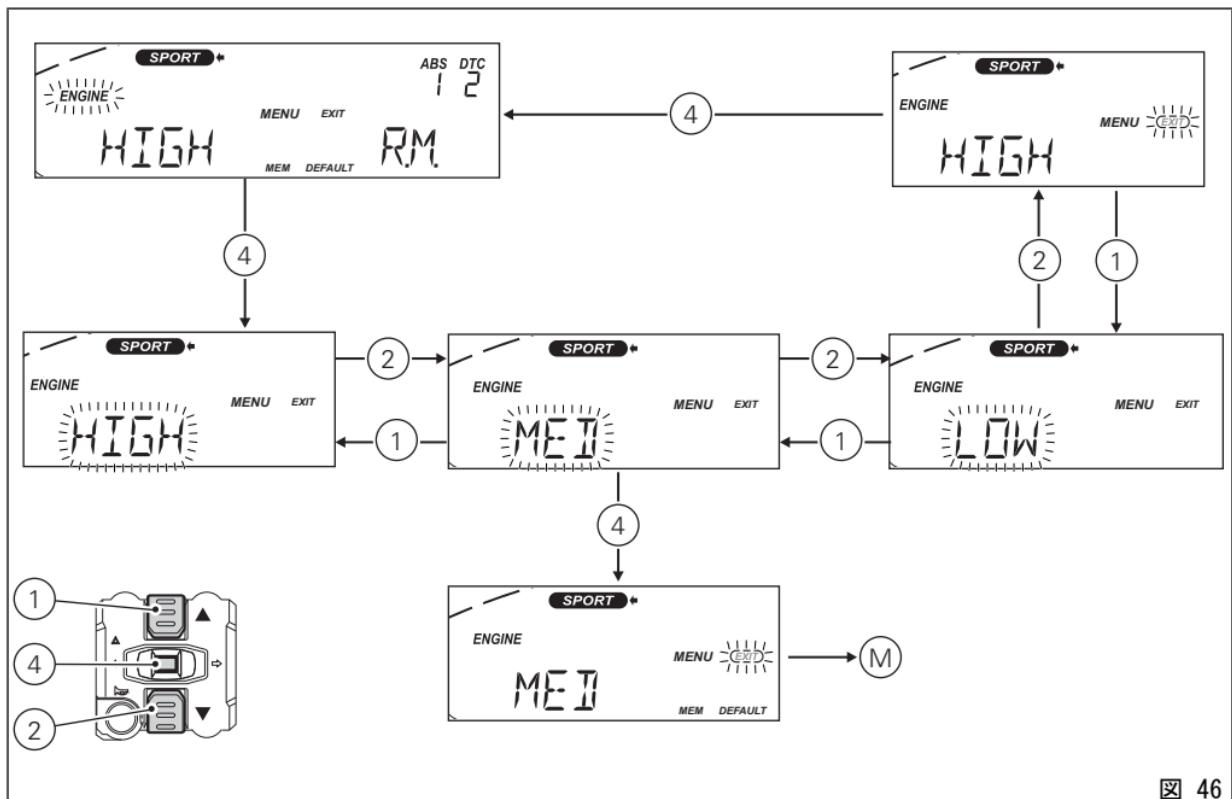


図 46

ライディングモードのパーソナライズDTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DTC 介入レベルの設定または解除を行うことができます。

設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“R. M.”（ライディングモード）を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“R. M.”（ライディングモード）メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のライディングモードを強調表示（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DTC) を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、現在設定されている DTC レベル、またはステータスが点滅します。ボタン (1) または (2) を押し、新しく設定したい介入レベル (1 から 8)、もしくは “-” マーク (DTC 機能 “OFF”) を選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。

自動的に数値が点灯表示に移り、“EXIT” の文字が強調表示されます。

メニューを終了してパラメーターの保存 (M) を行う前画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。

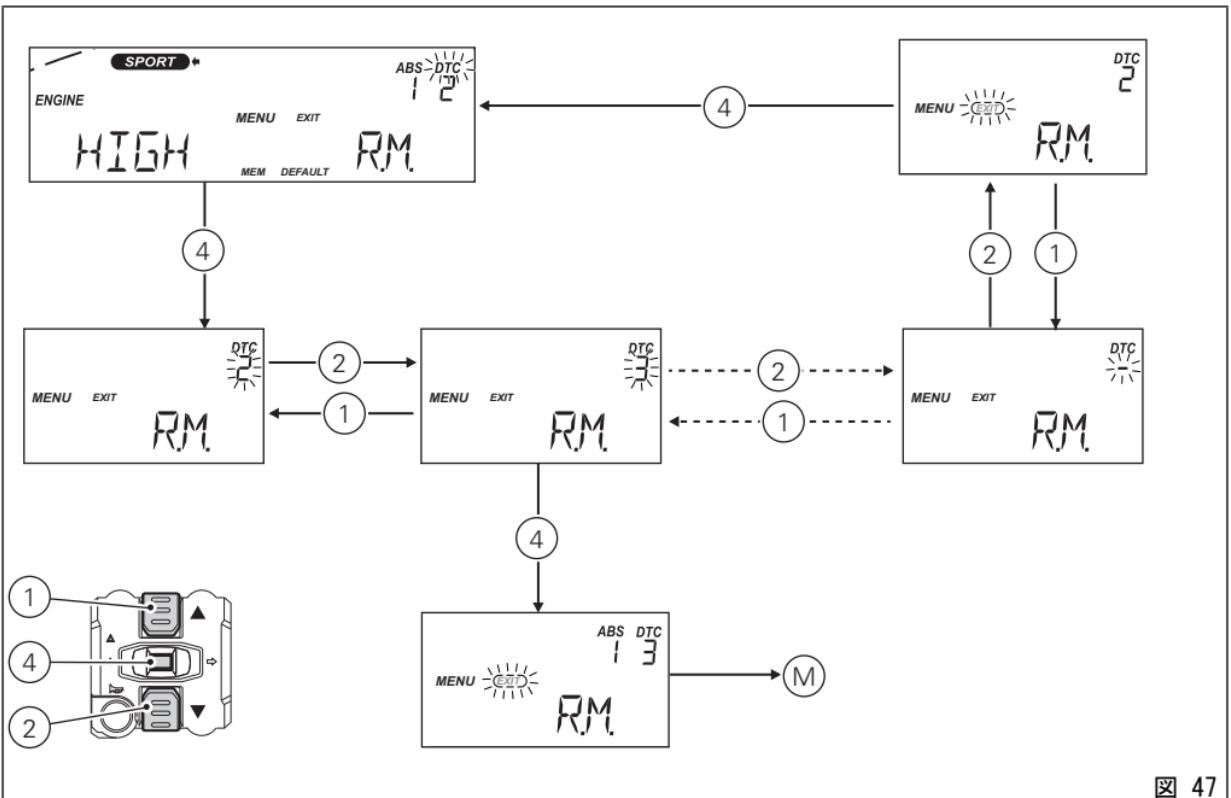


図 47



参考

DTC パラメーターの新設定を保存するには、“パラメーターの保存”に記載されている“ライディングモードのパラメーターの保存”手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。



参考

“-”(OFF)を選択すると、DTCは解除されます。

ライディングモードのパーソナライズABS調整

この機能では一つのライディングモードの ABS システム介入レベルの設定、または ABS システムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“R. M.”(ライディングモード) を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“R. M.”(ライディングモード) メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) を選択します。

希望のライディングモードを選択（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ABS) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、現在設定されている ABS レベル、またはステータスが点滅します。ボタン (1) および (2) を押し、新しく設定したい介入レベル (1 から 3)、もしくは “-” マーク (機能 “OFF”) を

選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。

自動的に数値が点灯表示に移り、“EXIT” の文字が強調表示されます。

メニューを終了してパラメーターの保存 (M) を行う前画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルは、メニュー内のひとつ上の画面に戻ります。



参考

ABS パラメーターの新設定を保存するには、“パラメーターの保存” に記載されている “ライディングモードのパラメーターの保存” 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

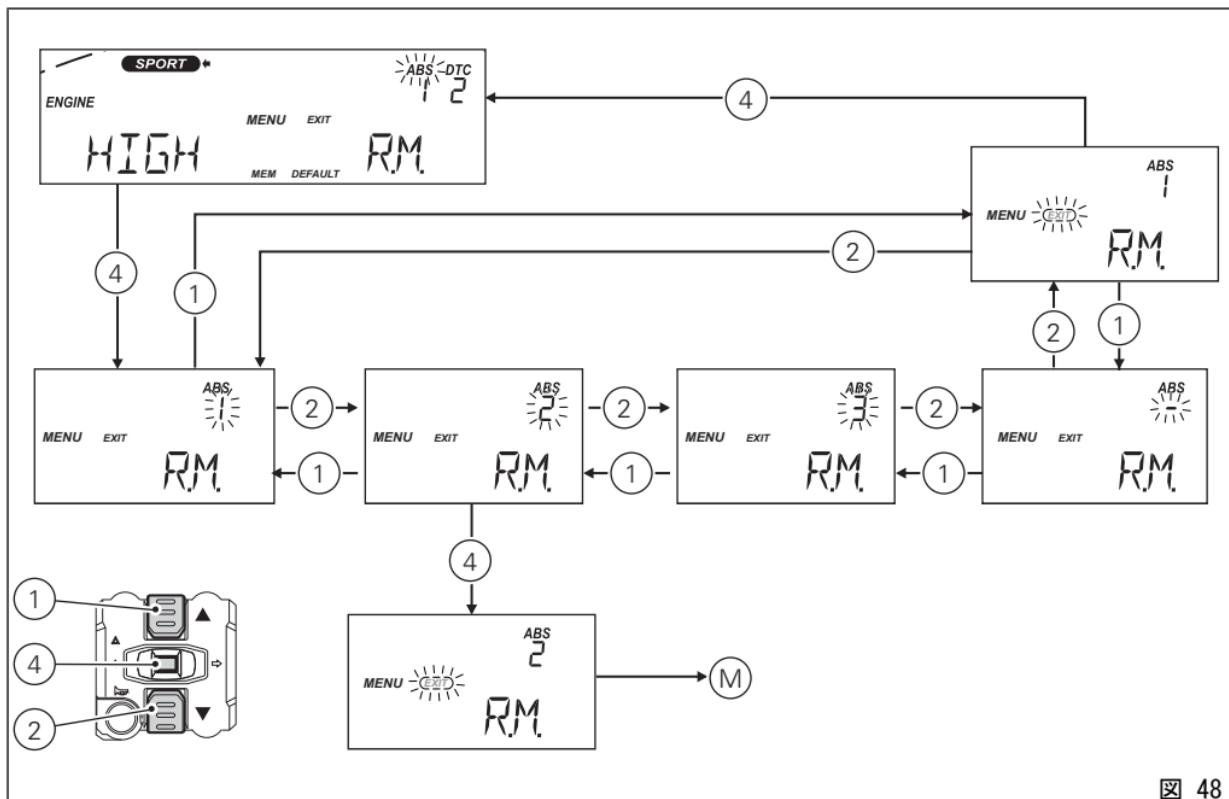


図 48



参考

"- " (OFF) を選択すると、ABS は解除され、ABS ランプが点滅します。



重要

ABS 機能の "OFF" を選択した場合は、運転やブレーキングに細心の注意を払うようしてください。

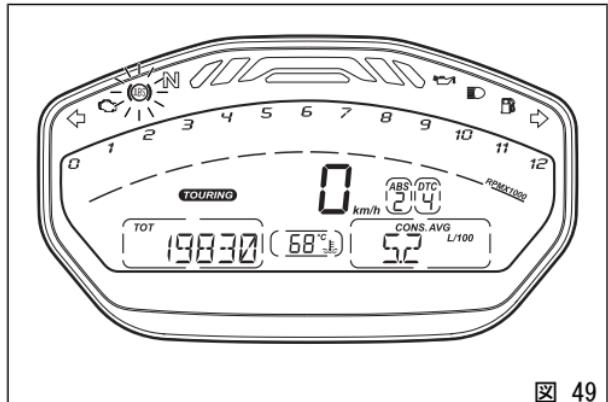


図 49

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)

この機能は、すべてのライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) に連動する全パラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。設定メニューに入ります。

ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“R. M.” (ライディングモード) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“R. M.” (ライディングモード) メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “DEFAULT” の枠を選択します。表示を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を 3 秒間押します。

3 秒後、ライディングモードの右横にある 3 つの矢印が点滅します (2 秒間)。その後、“DF-OK” の文字が 2 秒間表示され、パラメーターがデフォルト値に回復されたことを示します。

2 秒後、“EXIT” の枠が自動的に点滅します。ボタン (4) を押して、設定メニューに戻ります。

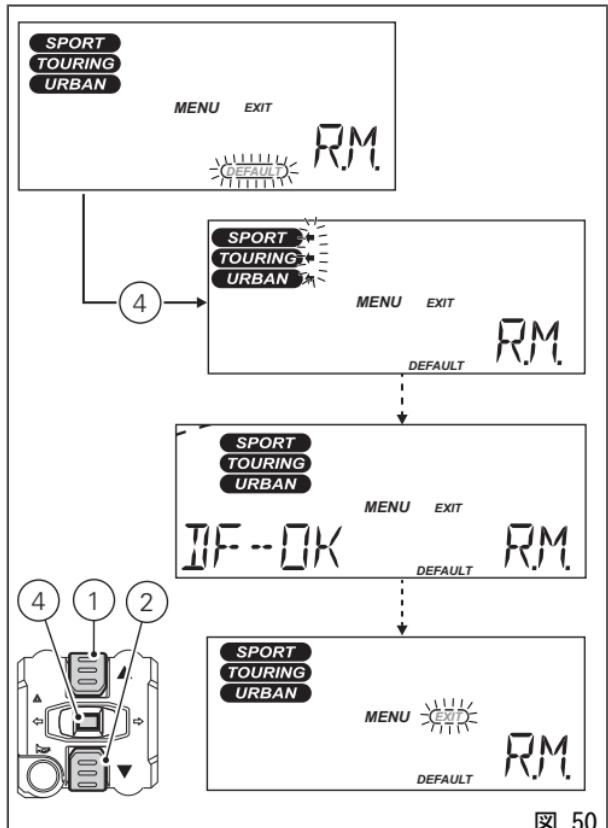


図 50

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復

ここではそれぞれのライディングモードに連動したパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。設定メニューに入ります。

ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“R. M.”(ライディングモード) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

“R. M.”(ライディングモード) メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT, TOURING, URBAN) を選択します。希望のライディングモードを選択 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

ボタン (1) または (2) を押して “DEFAULT” を選択します (“DEFAULT” の枠が点滅)。希望のパラメータ一が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を 3 秒間押します。

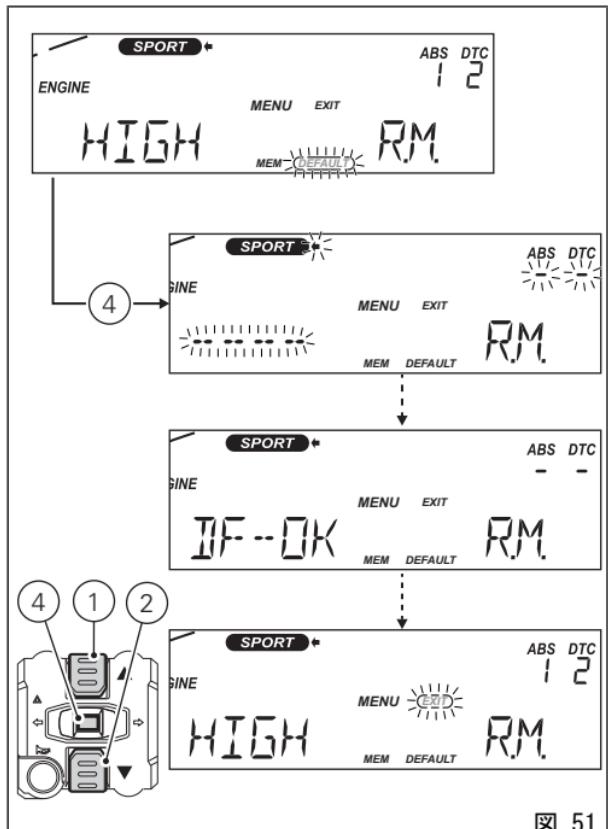


図 51

3 秒後、ライディングモードの右横に矢印が点滅し、パラメーター表示欄 (ENGINE、DTC、ABS) には“点線”が点滅表示されます (2 秒間)。その後、“DF-OK”が 2 秒間表示され、パラメーターがデフォルト値に回復されたことを示します。2 秒後、“EXIT”の枠が自動的に点滅します。ボタン (4) を押して、設定メニューに戻ります。

バッテリー電圧

ここでは車両のバッテリー電圧レベルを確認することができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、“BAT.”(バッテリー) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“BAT.”(バッテリー) メニューに入ります。

ディスプレイには以下のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.8 から 14.9 V の場合、固定表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 から 11.7 V の場合、点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 から 16.0 V の場合、点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 10.9 V 以下の場合、LOW の文字が点滅します。
- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、HIGH の文字が点滅します。

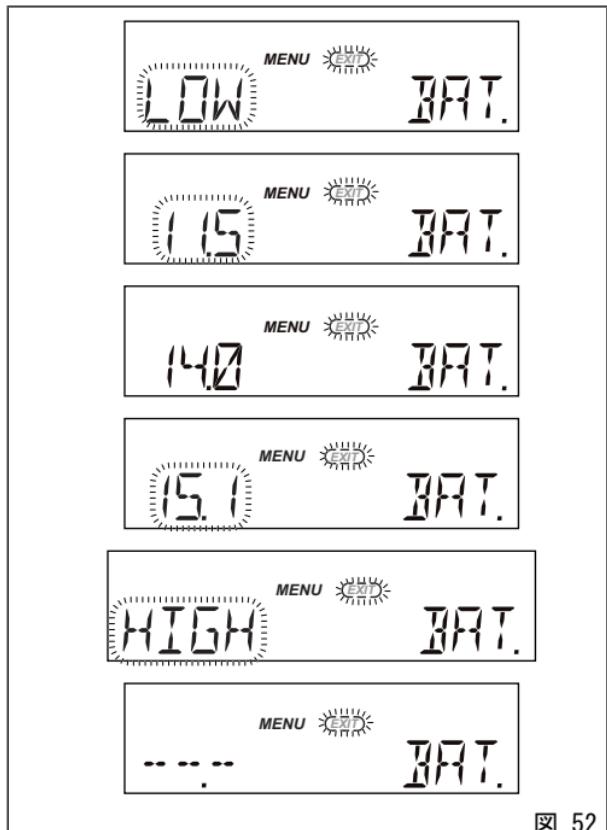


図 52

インストルメントパネルがバッテリー電圧値を受信しない場合は、点線 “---” が表示されます。

メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルのバックライトの調整

この機能では、ユーザーがバックライトの明るさを選択することができます。

バックライトの調整を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で “B.L.” を選択し、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在設定されているモードが点滅します。“MENU” と “EXIT” は表示されたままです。

ボタン (1) および (2) で希望の明るさ (HIGH, MED, LOW) を選択し、ボタン (4) を押して決定します。

HIGH 設定を選択すると、ディスプレイは 100% の明るさに設定されます。外光が強い時の使用に適します。

MED 設定を選択すると、ディスプレイは 70% の明るさに設定されます。外光が中程度/弱い時の使用に適します。

LOW 設定を選択すると、ディスプレイは 50% の明るさに設定されます。外光が非常に弱い時や暗闇での使用に適します。

設定を決定すると、自動的に “EXIT” の枠が点滅します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT”的文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。



参考

バッテリーが切り離された場合、電源回復後の Key-ON 時に画面の光調整はリセットされ、最大レベルに設定されます。

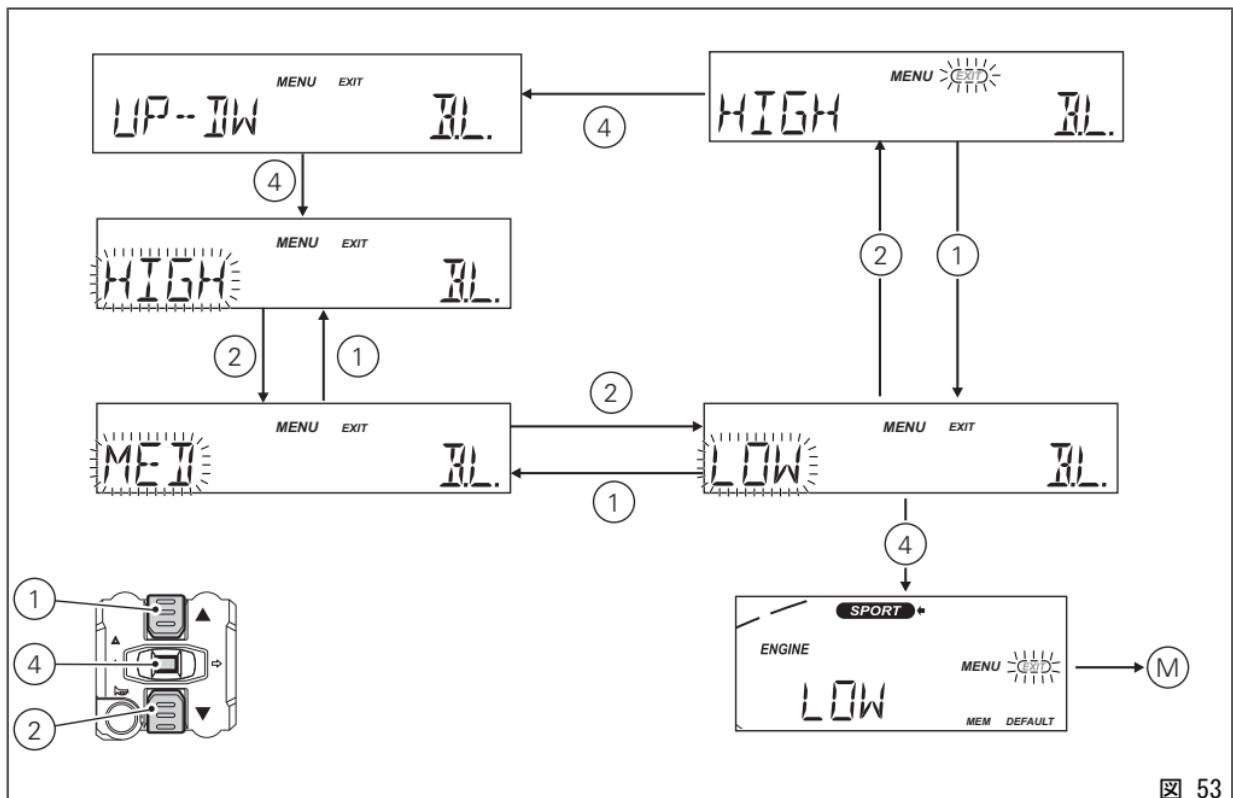


図 53

LAP

この機能で LAP (ラップタイム) の起動/解除を行います。

LAP 機能メニューに入るには、設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して “LAP” を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。“LAP” メニューに入ります。

機能に入ると、メニュー 1 の左側に現在設定されている LAP 機能のステータス (“ON” または “OFF”) が表示されます。

ボタン (2) を押すと、LAP 機能のステータスが点滅し、選択可能なもう一方のステータスが表示されます。すなわち、現在 “OFF” に設定されている場合は “ON” が点滅表示され、“ON” に設定されている場合は “OFF” が点滅表示されます。

この段階で ON/OFF 表示が点滅している間にボタン (4) を押し、LAP 機能の起動/解除を行います。

- “OFF” に設定すると、LAP 機能は解除されます。
- ON に設定すると、LAP 機能が起動し、LAP の記録が可能になります。

機能を起動する場合 (ON)、起動を決定した時点で画面左上タコメータ一下に枠に囲まれた LAP の文字が表示されます。

終了するには、EXIT の枠が点滅した状態でボタン (4) を押します。

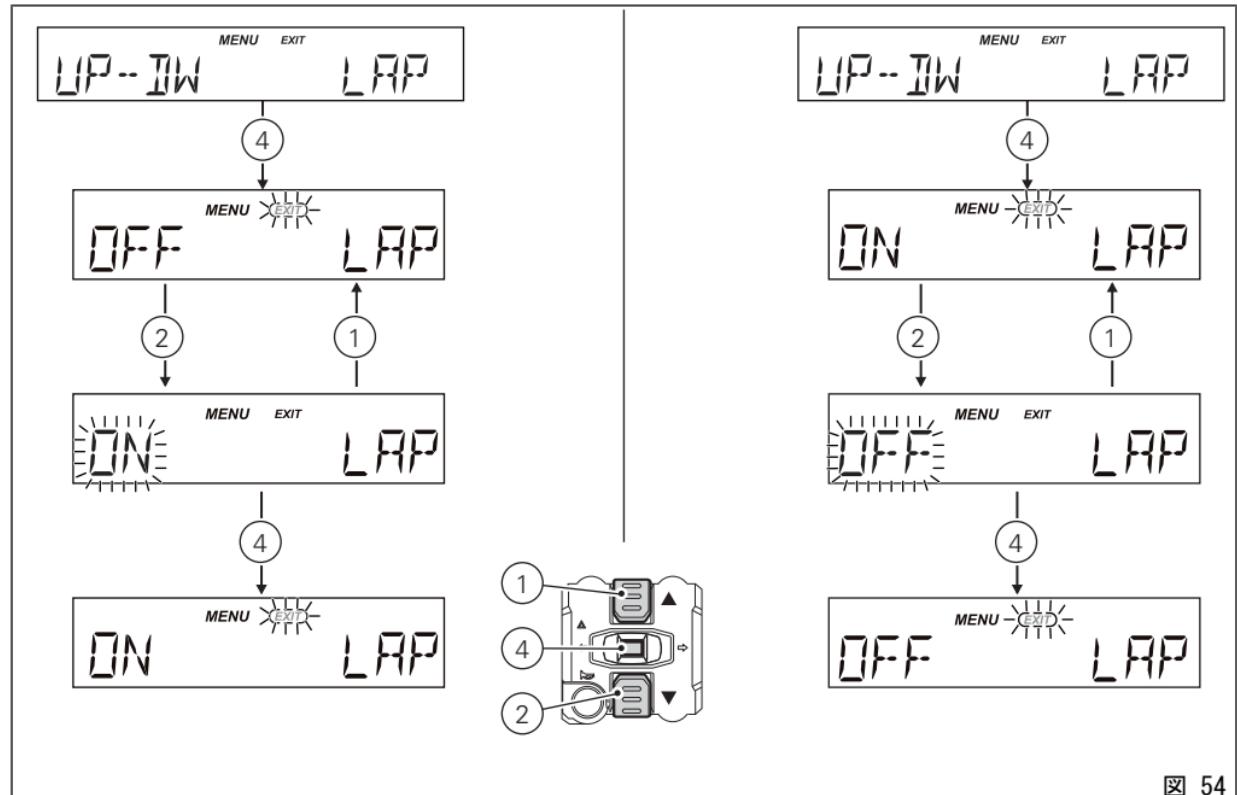


図 54



参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。



参考

Key-OFF 時に “LAP” 機能ステータスは保存され、次回の Key-ON 時に保存されたステータスを回復します。



参考

LAP 機能が起動中 (ON) にバッテリーからの電源供給が中断すると、機能は自動的に OFF になります。

LAP 記録の表示

メモリーされている LAP を表示するには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して LAP を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

ボタン (1) および (2) で “DATA” を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン (4) を押して決定します。

インストルメントパネルの表示：

- A) LAP 中のエンジン最高回転数 (RPM)
- B) LAP 中の最高速度
- C) ラップタイム (例：2:05:84)、分 : 秒 : 1/100
秒で表示
- D) 表示中のラップ数 (例：N. 1)

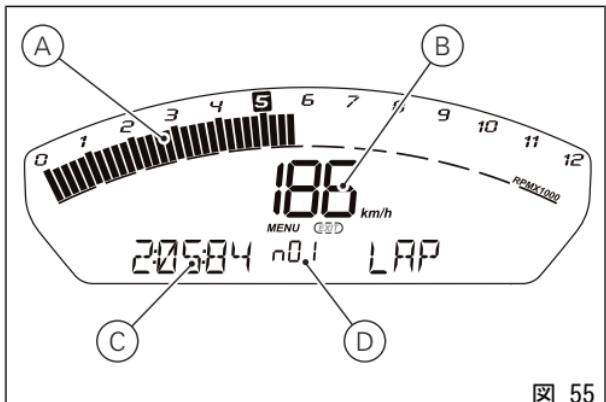


図 55

ボタン (1) および (2) を押して、記録されている LAP をひとつずつ表示することができます。ボタン (2) を押すと次のラップが表示され、ボタン (1) を押すと前のラップが表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT”的文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考

記録されている最高速度は、ディスプレイに表示された速度（5% 増大させた速度）になります。

参考

記録中に最高速度が 299km/h (186 mph) を超えた場合でも、到達した速度のデータが表示されます（例：316 km/h）。

参考

メモリーにデータが記録されていない場合、30 周分のラップタイムには “---”、最高 RPM = 0、最高速度 = “---” が表示されます。

参考

ラップタイム記録中にエンジンが起点値、もしくはリミッターに達した場合、記録タイム表示の際に Over Rev ランプが点灯します。

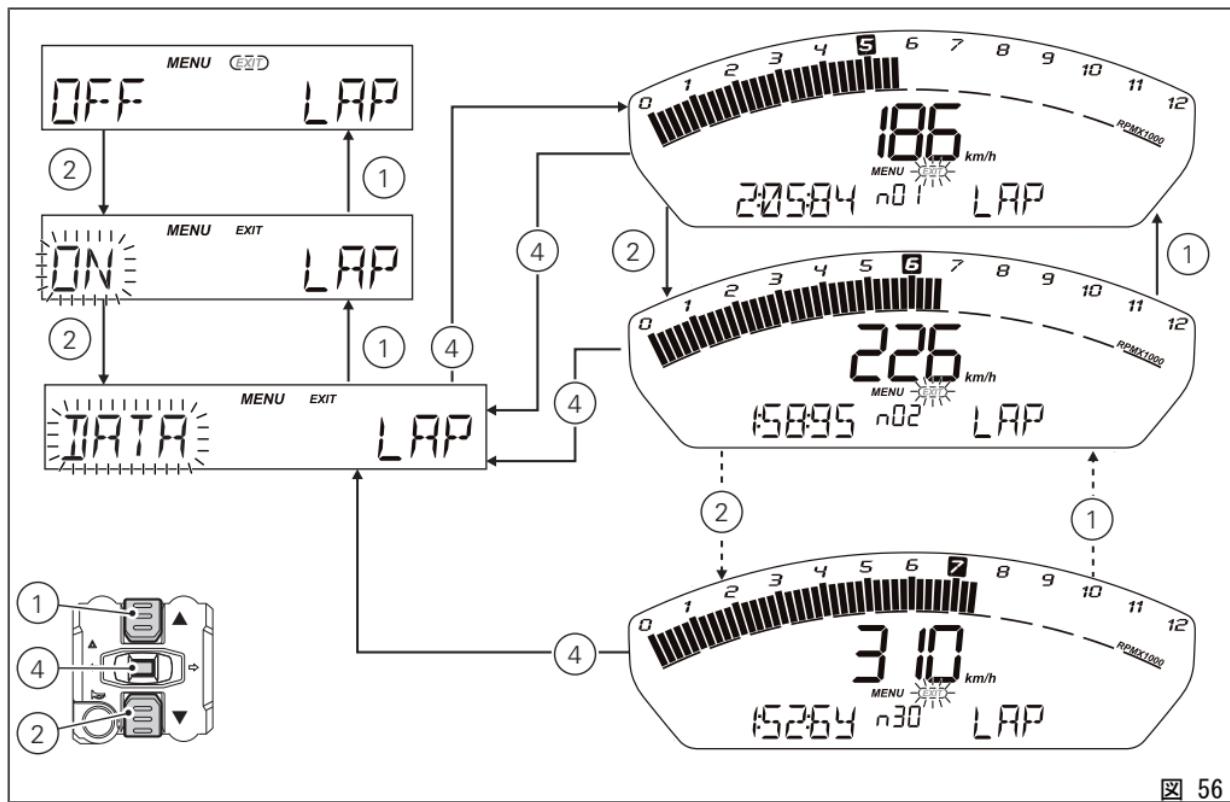


図 56

LAP 記録の削除

メモリーされている LAP を削除するには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して LAP を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

ボタン (1) および (2) で “ERASE” を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン (4) を 3 秒間押して決定します。

3 秒後、インストルメントパネルには “WAIT” が 2 秒間表示されたのち “OK” が表示され、削除が完了したことを示します。



参考

記録タイムが消去されると、LAP機能が起動中でも自動的にOFFになります。

ボタン (4) を押して終了します。

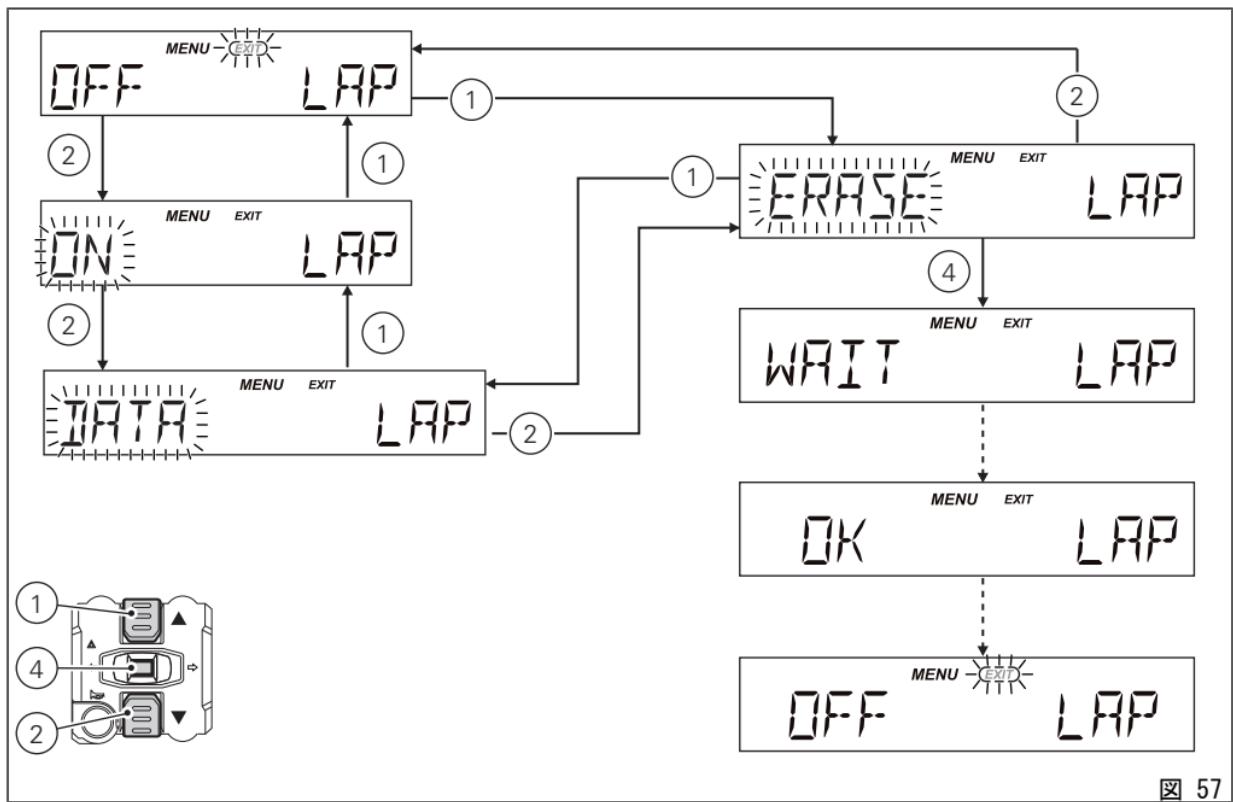


図 57

時計の調整

この機能は時計の調整設定を行います。

この機能を表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で “CLK” を表示し、ボタン (4) を押します。

調整するには、ボタン (2) を 3 秒間押します。

3 秒後、以下のように時計を調整します。

- “AM” が点滅します。
 - ボタン (2) を押すと、点滅が “PM” に移ります。
 - ボタン (1) を押すと、ひとつ前のステップに戻ります（時間が 00:00 の場合は、AM から PM へ移ると 12:00 が表示されます）。
- ボタン (4) を押すと、時間表示が点滅し始め、時間の設定に入ります。
 - ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 時間ずつ進みます。ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 時間ずつ進みます（ボタンを押し続けている間、時間表示は点滅しません）。

- ボタン (4) を押すと、分が点滅し始め、分の設定に入ります。

- ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 分ずつ進みます。ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 分ずつ進みます。
- ボタン (2) を 5 秒以上押し続けると、100 ミリ秒につき 1 ずつ数字が増加します（ボタン (2) を押している間、数字は点滅しません）。

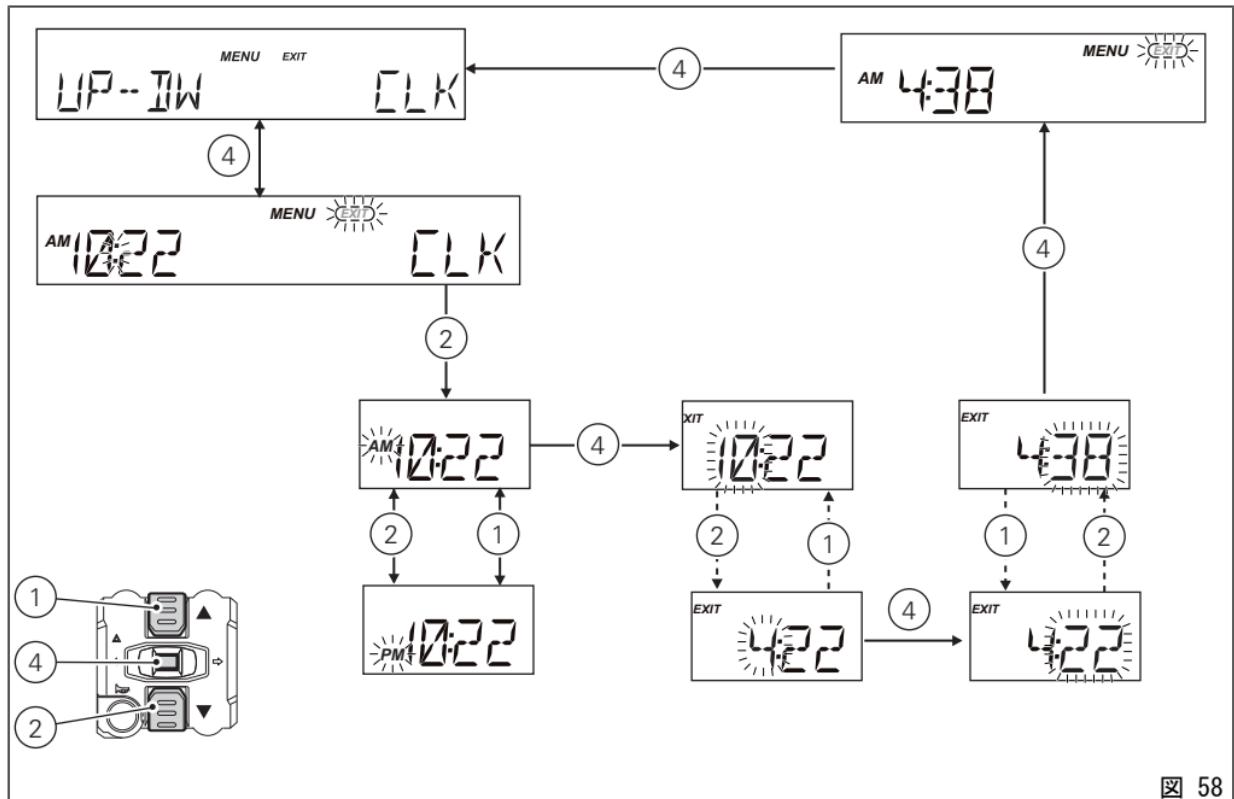


図 58

新しい時間設定を決定（保存）する場合は、ボタン（4）を押します。

EXIT の枠が点滅します。ボタン（4）を押すと、設定メニューに戻ります。



参考 バッテリーからの電源供給が中断した場合、電源回復後の Key-ON 時に時計はリセットされ、自動的に 00:00 から再開します。

ボタン（4）を押して終了します。

PIN CODE

この機能は 4 桁の PIN CODE を設定/変更します。PIN CODE は、イモビライザーシステムに不具合が生じた場合に車両を一時的に起動するために使用します。

PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。起動するには “PIN CODE の入力” の手順に従います。

PIN を変更するには “PIN CODE の変更” の手順に従います。

イモビライザーシステムに不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、“車両のロック解除” の手順に従います。



警告

PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに機能の “リセット” をご依頼ください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の入力

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して PIN を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。



参考

機能に入った時に “0 :” (OLD) が表示され、点線 “---” が点滅する場合は、PIN がすでに存在し、従ってこの機能が有効な状態であることを示します。

機能に入ると、ディスプレイに “N:” (NEW) が表示され、点線 “---” が点滅します。

PIN CODE を有効にしないで前の画面に戻るには、ボタン (2) を押します。“EXIT” の枠が点滅した状態で再びボタン (4) を押します。

コードの入力：

- 1) ボタン (4) を押すと、“0” で表示される 1 枝のみが点滅します。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が “9” までひとつずつ大きくなり、その後 “0” に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が “1” までひとつずつ小さくなり、その後 “0” に戻ります。

4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 枝すべての数字を決定します。

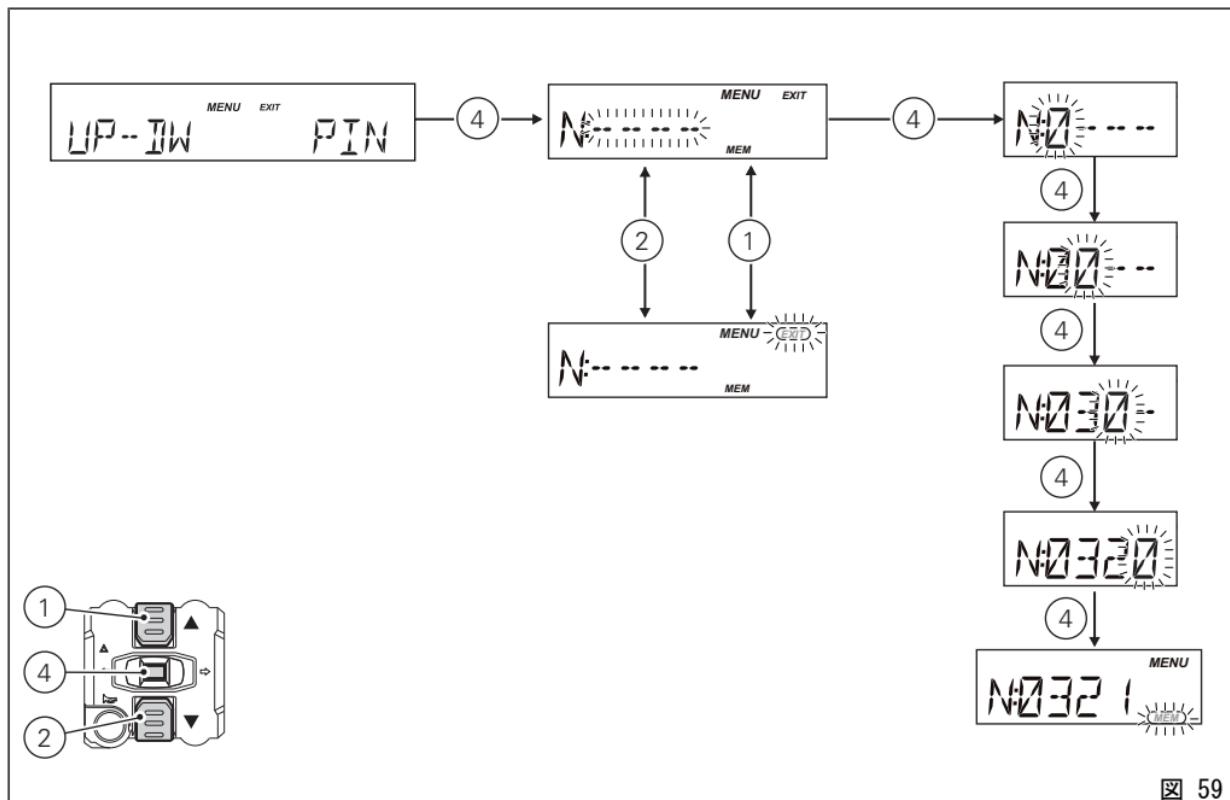


図 59

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、“MEM”の文字が強調表示され、その枠が点滅します。

入力した PIN を保存するには、ボタン (4) を 2 秒間押します。

保存が正しく完了すると (D)、“MEM”の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示され、その後 “EXIT” の枠が点滅します。

最初の PIN CODE を設定して以降は、メニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更のページになります。

ボタン (4) を押して終了します。

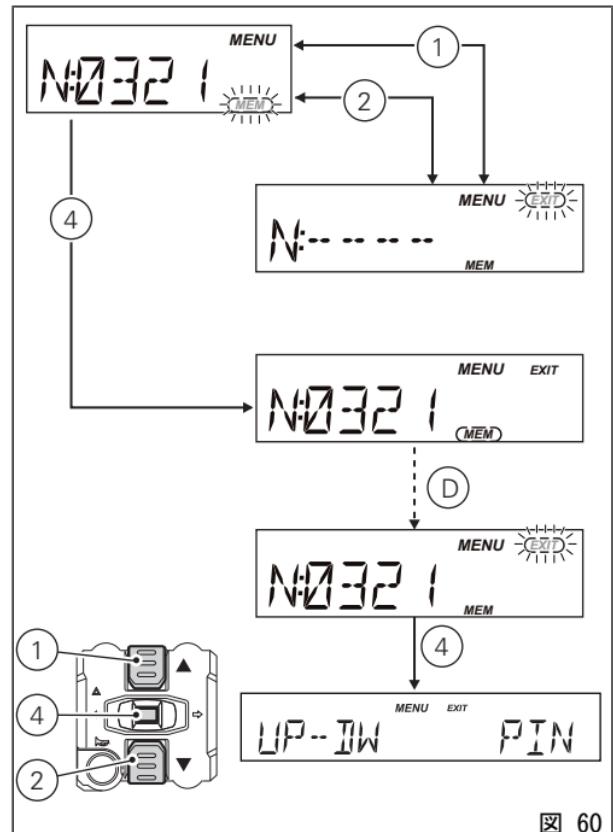


図 60

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して PIN を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

参考

機能に入った時に “N :” (NEW) が表示され、点線 “----” が点滅する場合は、PIN CODE が登録されたことがないことを示します。PIN CODE を登録してください。

機能に入ると、ディスプレイに “0 :” (OLD) が表示され、点線 “----” が点滅します。

参考

PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

PIN CODE を変更せずに前の画面に戻るには、ボタン (2) を押します。“EXIT” の枠が点滅した状態で再びボタン (4) を押します。

古いコードの入力 :

- 1) ボタン (4) を押すと、“0” で表示される 1 枠のみが点滅します。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が “9” までひとつずつ大きくなり、その後 “0” に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が “1” までひとつずつ小さくなり、その後 “0” に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 枠すべての数字を決定します。

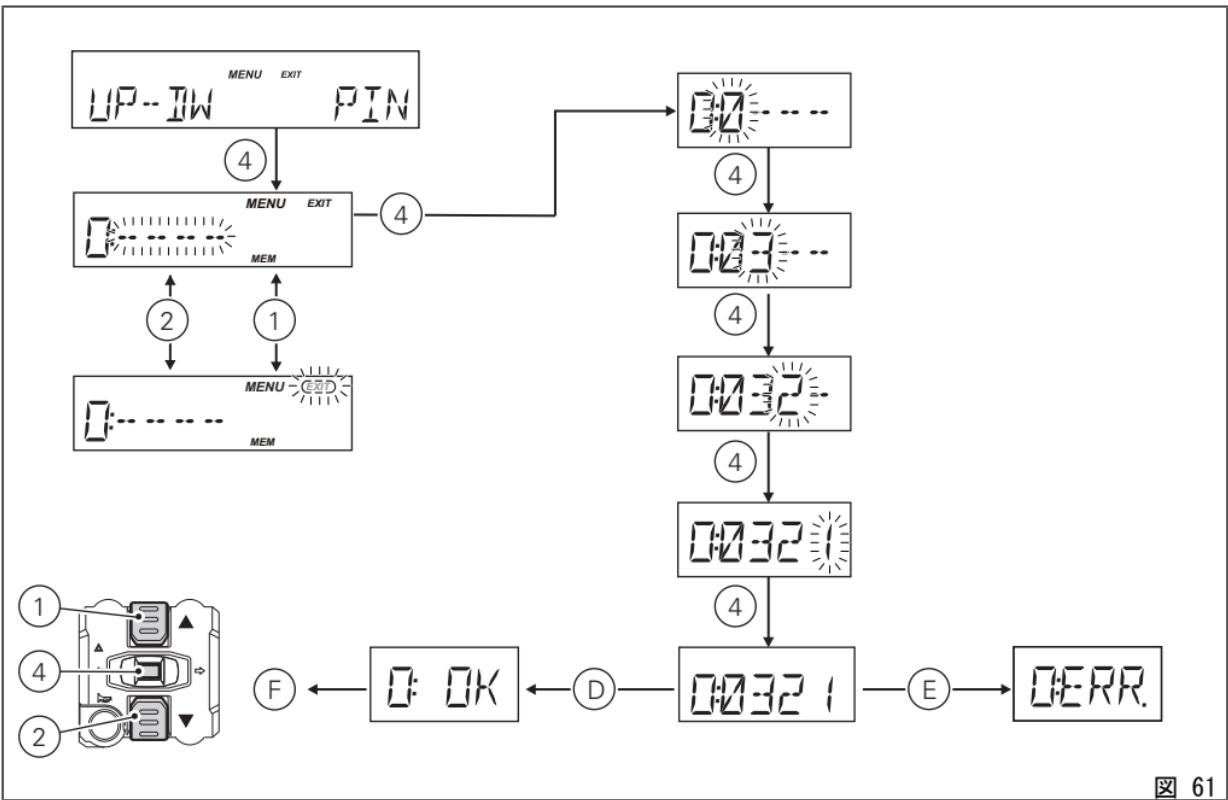


図 61

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、4 桁のコードは点滅を止めます。

ボタン (4) を 3 秒間押すと、入力した PIN が検証されます。3 秒後、

- PIN CODE が正しい場合 (D) は、インストルメントパネルは “OK” を 2 秒間表示します。その後、“N:” (NEW) が表示され、新しい PIN CODE を入力する点線 “---” が点滅します (F)。
- PIN CODE が正しくない場合 (E) は、インストルメントパネルは “ERR.” を 2 秒間点滅表示します。その後、“EXIT” の文字が強調表示されます。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

新しいコードの入力 :

- 1) ボタン (4) を押すと、“0” で表示される 1 桁のみが点滅します。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が “9” までひとつずつ大きくなり、その後 “0” に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が “1” までひとつずつ小さくなり、その後 “0” に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

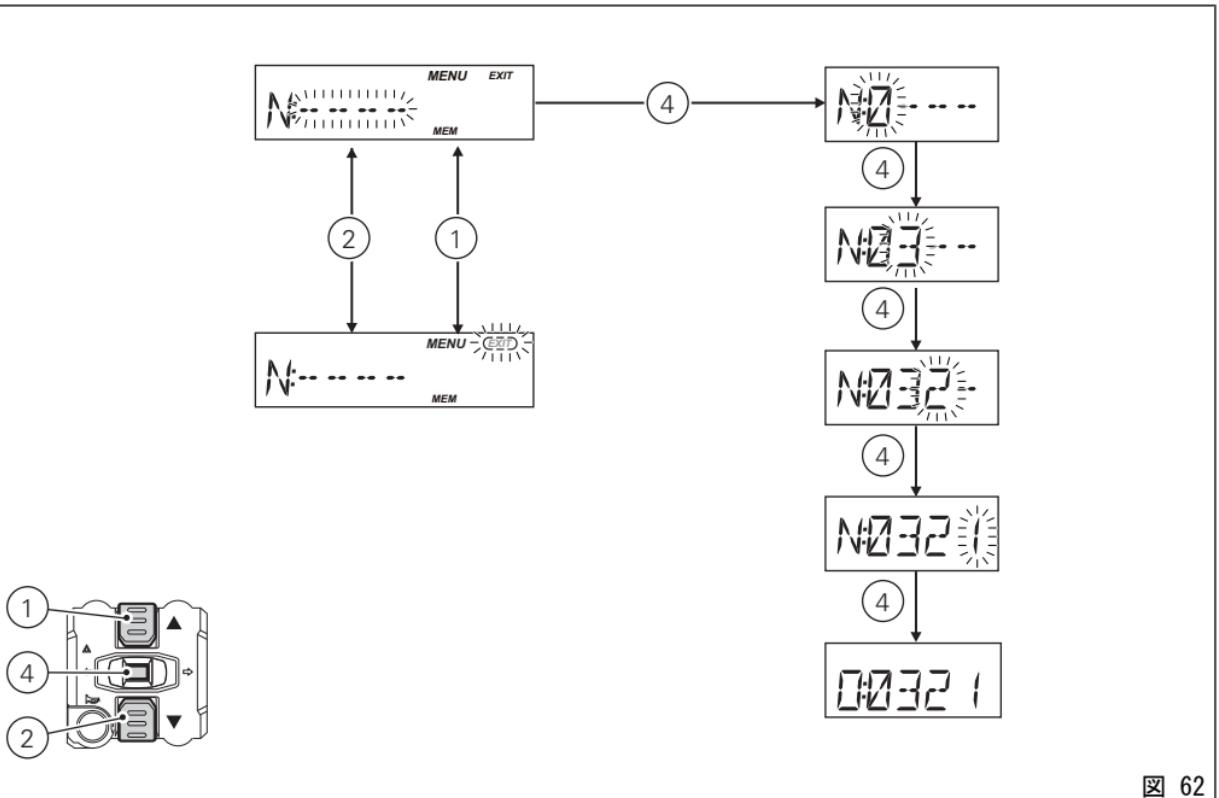


図 62

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、“MEM”の文字が強調表示され、その枠が点滅します。

新しい設定を保存するには、“MEM”の文字が強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。

保存が正しく完了すると (D)、“MEM”の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示されます。その後 “EXIT”の文字が強調表示され、その枠が点滅します。

保存に失敗した場合、インストルメントパネルは新しい PIN を入力する点線 “---” を強調表示します。もう一度新しい PIN CODE を入力してください。

ボタン (4) を押して終了します。



参考

PIN CODE の変更は何度でも可能です。

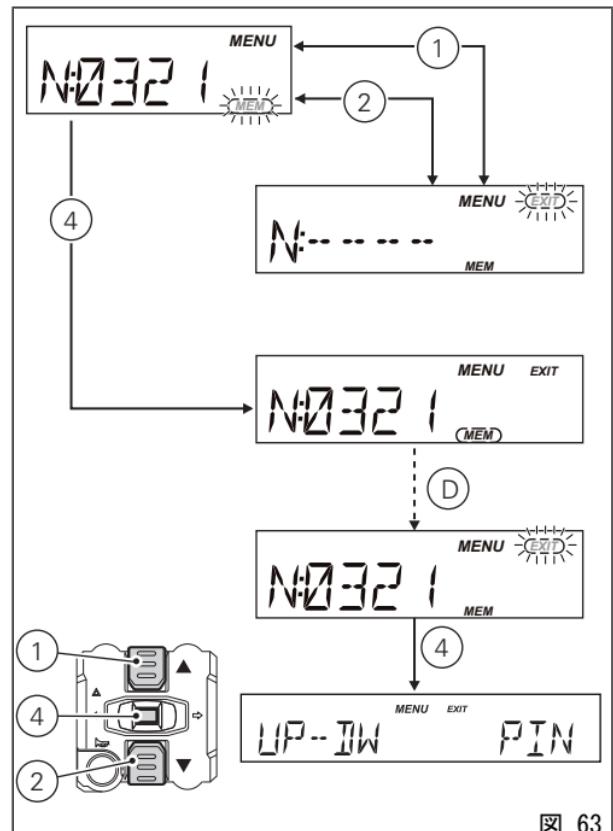


図 63

エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)

この機能はエンジン回転数 (RPM) をデジタル表示します（より正確な値を得るために、アイドリング中に進行することが推奨されます）。

設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して RPM を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルは、メニュー 1 内の左下にエンジン回転数情報をデジタル表示します。

画面上のタコメーターのバーグラフにもエンジン回転数が表示されます。

インストルメントパネルはエンジン回転数情報を 50 rpm 単位の数値で表示します。

ボタン (4) を押して終了します。



データを出力できない時は点線 “-----” が表示され、バーグラフの数値が点滅します。

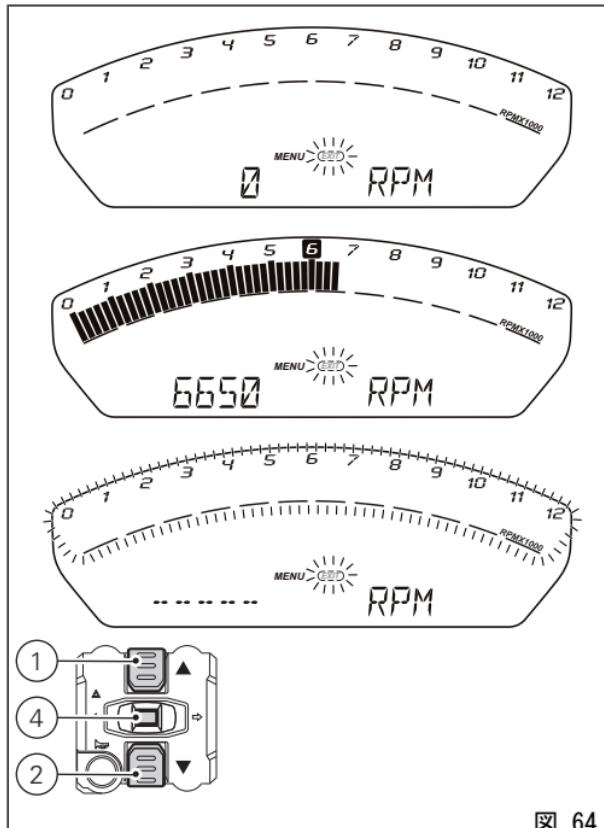


図 64

単位の設定

この機能では表示単位の変更が可能です。
手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して UNT を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、ボタン (1) および (2) で単位を新しく設定したい測定項目、または自動設定回復を選択します。

- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMP.)
- 燃費 (CONS.)

測定可能な項目に加えて、表示単位をデフォルト単位に回復する “DEFAULT” の文字枠を選択することもできます。

参考

単位が変更されている項目がなくなった場合のみ、“UNT:DF” が表示されます。すなわち、すべての測定項目においてデフォルト単位が使用されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、“EXIT” の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

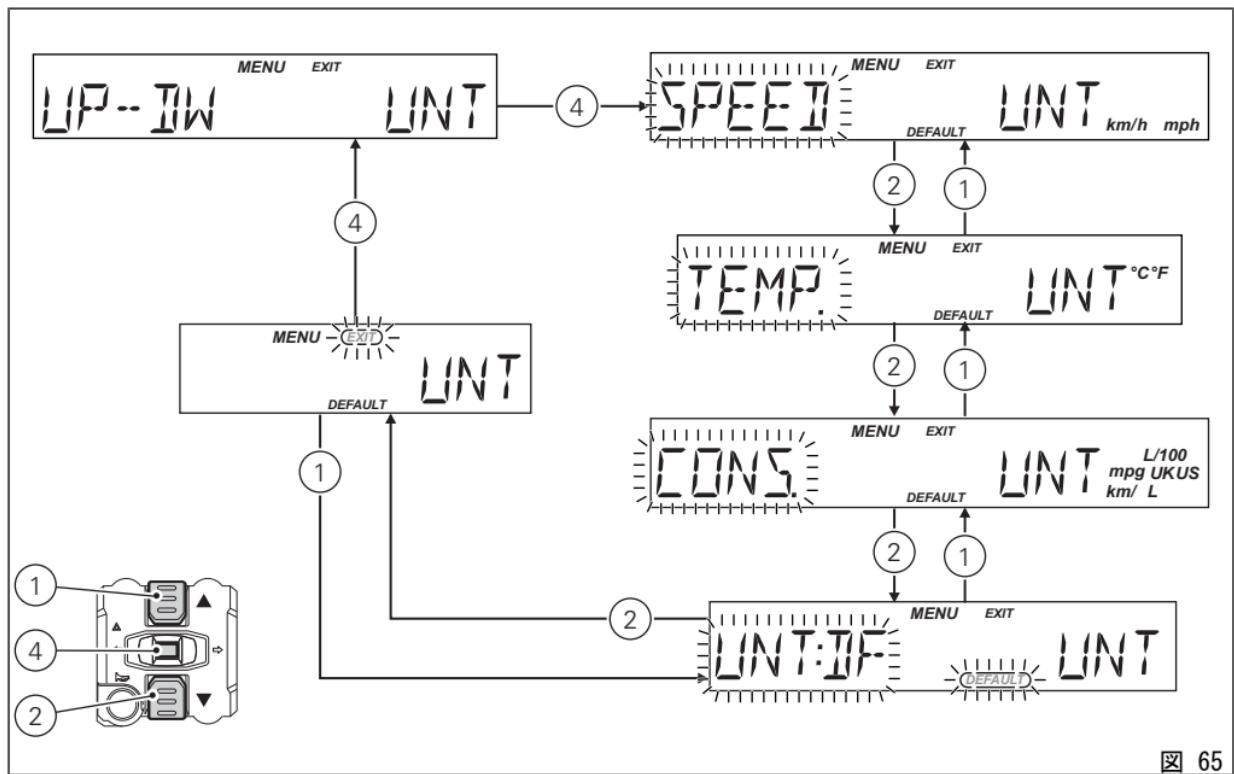


図 65

単位の設定スピード

この機能では、車両スピード、オドメーター、TRIP A、TRIP B、TRIP FUEL（起動している場合）、平均スピードの表示の単位を変更することができます。この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で UNIT を選択し、ボタン (4) を押します。ボタン (1) または (2) を押して “SPEED” を選択します。

“SPEED” 機能が強調表示されたら (A)、メニュー決定ボタン (4) を押します。機能の入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリスト km/h、mph が表示されます。ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択した単位はインストルメントパネルから保存され、“SPEED” の文字が再び点滅します。

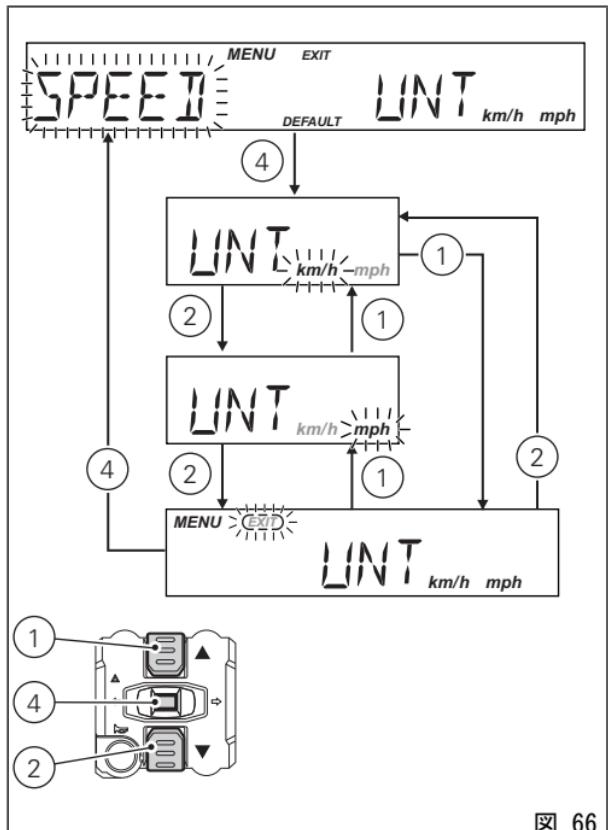


図 66

ボタン (1) を押すと “EXIT” の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。

- Km/h : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) TOT、TRIP A、TRIP B、TRIP FUEL : Km
 - 2) 車両スピードおよび SPEED AVG : Km/h
- mph : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL : マイル
 - 2) 車両スピードおよび SPEED AVG : mph

単位の設定温度

この機能ではクーラント温度および外気温の表示の単位を変更することができます。

この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で UNT を選択し、ボタン (4) を押します。

ボタン (1) または (2) を押して “TEMP.” を選択します。

“TEMP.” が強調表示されたら (B)、メニュー決定ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリストが表示されます。° C 、 ° F が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択した単位は保存され、“TEMP.” の文字が再び点滅します。

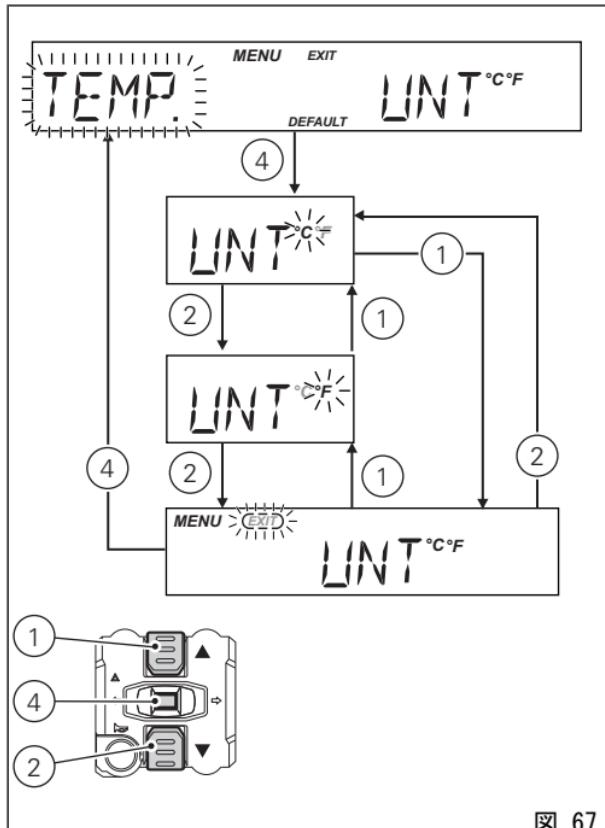


図 67

ボタン (1) を押すと “EXIT” の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。

- ° C : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) クーラント温度、T_AIR 温度 : ° C
- ° F : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) クーラント温度、T_AIR 温度 : ° F

単位の設定燃費

この機能では平均燃費および瞬間燃費の表示の単位を変更することができます。

この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で UNT を選択し、ボタン (4) を押します。

ボタン (1) または (2) を押して “CONS.” を選択します。CONS.” (C) が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト L / 100km, km / L, mpg (UK), mpg (USA) が表示されます。

ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。

希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択した単位は保存され、“CONS.” の文字が再び点滅します。

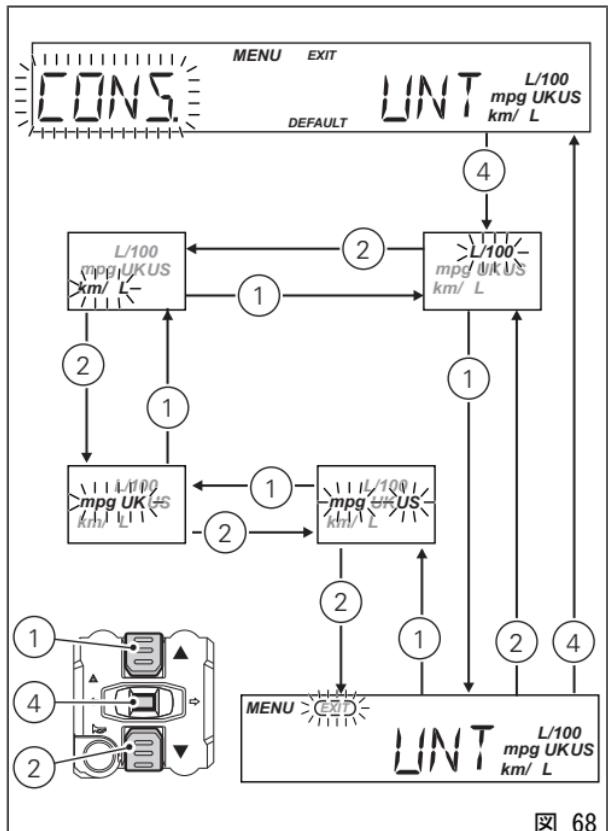


図 68

ボタン (1) を押すと “EXIT” の枠が点滅します。終了するにはボタン (4) を押して前の画面に戻ります。

- Km/L : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) CONS. および CONS. AVG : Km/L
- L/100: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) CONS. および CONS. AVG : L/100
- MPG UK : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) CONS. および CONS. AVG : mpgal UK
- MPG USA : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。
 - 1) CONS. および CONS. AVG : MPG USA

デフォルト (DEFAULT) 設定

この機能では車両バージョンの“DEFAULT”の単位に設定することができます。

この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で UNT を選択し、ボタン (4) を押します。ボタン (1) またはボタン (2) を使用して “DEFAULT” の枠を点滅させ、ボタン (4) を 2 秒間押します。

2 秒後、インストルメントパネルは “WAIT” を 2 秒間表示します。その後、単位がデフォルト設定に復されたことを示す “DF-OK” が表示されます。



デフォルトに設定されている場合は、“DEFAULT” 表示の左側に “UNT:DF” の文字が常時表示されます。

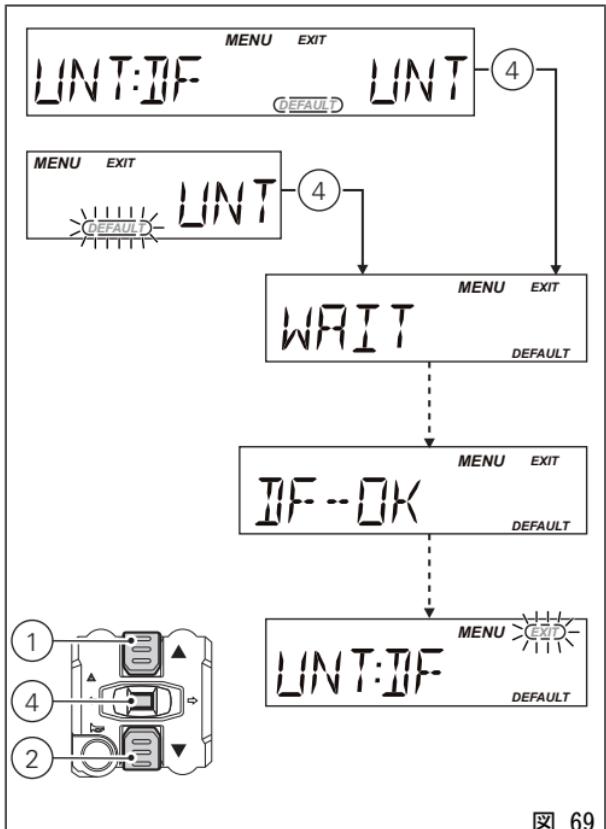


図 69

単位表

	オドメーター (TOT) トリップメーター A (TRIP A) トリップメーター B (TRIP B) 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)	スピード 平均スピード	エンジン温度 (T_ENGINE) 外気温 (T_AIR)	瞬間燃費 平均燃費
ヨーロッパ	km	km/h	° C	l/100km
UK	miles	mph	° C	mpg UK
USA	miles	mph	° F	mpg USA
カナダ	km	km/h	° C	l/100km
フランス	km	km/h	° C	l/100km
日本	km	km/h	° C	l/100km
ブラジル	km	km/h	° C	l/100km
台湾	km	km/h	° C	l/100km
中国	km	km/h	° C	l/100km

ランプ類の点検

ロービーム/ハイビームランプ

ヘッドライトの点灯および消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。

Key-ON 時、ロービームおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままで、ポジションランプのみが点灯します。

エンジンを始動するとロービームランプが起動します。エンジンが起動している状態でランプの標準機能が回復します。ボタン (1) のポジション (A) でロービームとハイビームの切り替えを行います。ボタン (1) のポジション (B) でフラッシュします。

Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (1) をポジション (A) に押すことでロービーム/ハイビームランプを起動することができます。ボタンを 1 回押すとまずロービームランプが起動し、その後 1 回押すごとにロービームランプとハイビームランプが交互に切り替わります。

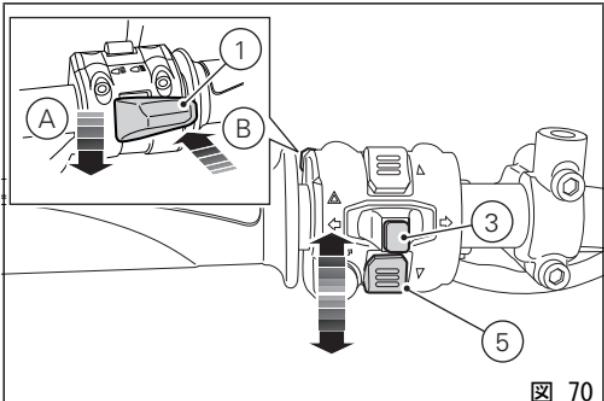


図 70

最初にボタンを押してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ロービームおよびハイビームランプは再び停止します (OFF)。

エンジン始動前に（上記の方法で）ロービームランプまたはハイビームランプを点灯させた場合、バッテリー充電状態を維持するために、エンジンを始動する際ヘッドランプが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再び点灯します。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを制御します。

2 つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後、左側スイッチにあるボタン (3、図 70) で解除することができます。

ターンインジケーターコマンドの手動解除が行われなかった場合、起動してから 500 m (0.3 マイル) 走行すると、インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは 80 km/h (50 mph) 以下でのみ行なわれます。

自動解除の走行距離カウントがスタートしてから速度が 80 km/h (50 mph) を上回った場合、カウントは中断されます。その後、前述の速度を下回るとカウントが再開されます。

ハザード機能（ターンインジケーターすべて点滅）

“ハザード”機能は、非常事態を知らせるために4つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン(3)をポジション(6)に3秒間押すと、“ハザード”機能が起動します。車両が起動している場合にのみ、この機能を起動することができます（エンジンの起動/停止状態に関係なく、キーが“ON”的位置にある時）。“ハザード”機能の作動中は、4つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの警告灯(7)が同時に点滅します。車両が起動している場合（キーが“ON”的位置にある時）は、ボタン(3)をポジション(6)に押すか、あるいはボタン(3)をセンター位置に押すと“ハザード”機能を解除することができます。車両が停止している場合（キーが“OFF”的位置にある時）は、ボタン(3)をポジション(6)に押して解除します。

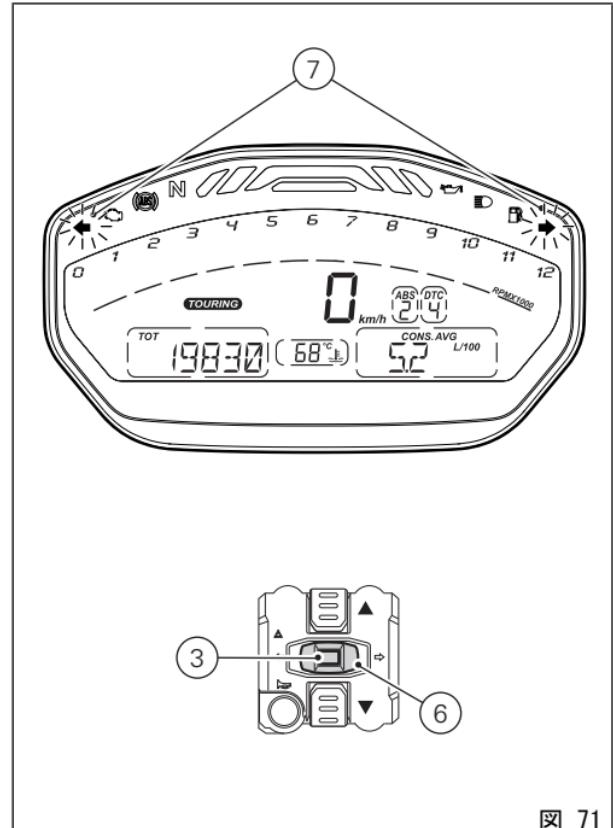


図 71

“ハザード”機能を起動している状態で車両を停止（キーが“OFF”的位置）すると、ユーザーが手動で解除するまで点灯し続けます。ただし、点灯した状態で 120 分（2 時間）が経過すると、バッテリー充電状態を維持するために自動的に消灯します。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム（イモビライザー）が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる“パスワード”から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

キー

車両には 2 個のキーが付属しています。
キーには “イモビライザーシステムの暗号” が含まれています。
キー (B) を通常に使用する際は、以下の操作に必要があります。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除



警告
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

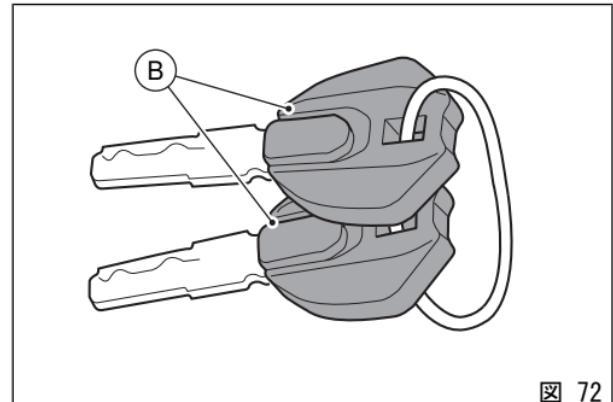


図 72

作業

キースイッチを ON から OFF に回す度にプロテクションシステムのエンジンブロックが起動します。それでもなおエンジンを始動できない場合には、Ducati アシスタンスネットワークにお問い合わせください。



警告

強い衝撃を受けるとキー内部の電子部品が破損するおそれがあります。作業中は常に同じキーを使用してください。異なるキーを使用した場合、挿入したキーの暗号をシステムが識別できない場合があります。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

KEY-ON 時にイモビライザーエラーが検出されると、インストルメントパネルはメニュー 1 に 4 衍の PIN CODE 入力画面を自動的に表示します。PIN CODE は設定メニューの PIN 設定ページから、あらかじめ設定してある必要があります。

コードの入力 (A) :

- 1) ボタン (1) または (2) を押すと、“0”で表示される 1 枝のみが点滅します。
- 2) ボタン (2) を押す度に数字が “9” までひとつずつ大きくなり、その後 “0” に戻ります。
- 3) ボタン (1) を押す度に数字が “1” までひとつずつ小さくなり、その後 “0” に戻ります。
- 4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 枝すべての数字を決定します。

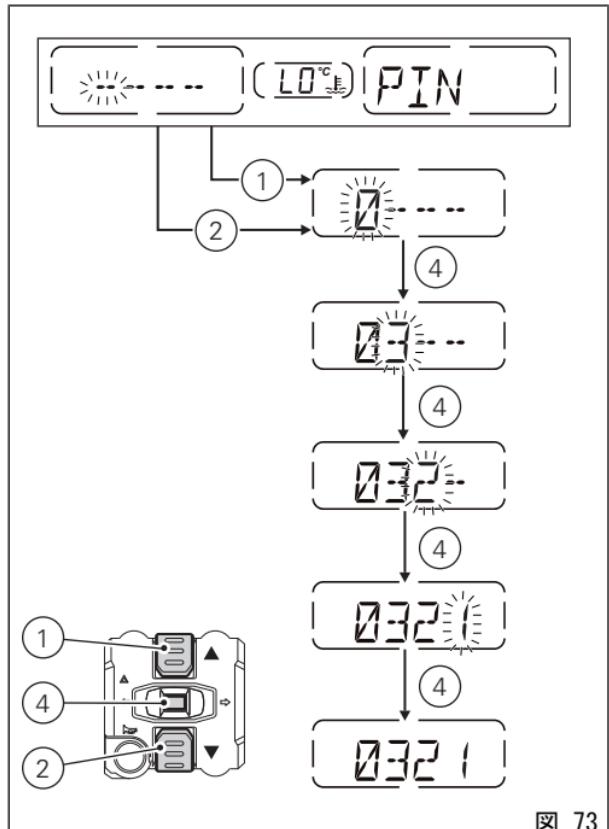


図 73

ボタン (4) を押して 4 枝すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しい場合 (A)、インストルメントパネルは “OK” を 2 秒間表示します。その後、画面がスタンダードスクリーンに戻ると、車両を起動することができます (C)。
- PIN CODE が正しくない場合 (B)、インストルメントパネルは “WRONG” を 2 秒間表示し、その後、再び点線 “---” を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力回数には制限はありませんが、入力可能時間は 2 分間に設定されています。入力可能時間を過ぎると、インストルメントパネルの画面がスタンダードスクリーンに戻り、車両を起動することはできません (D)。

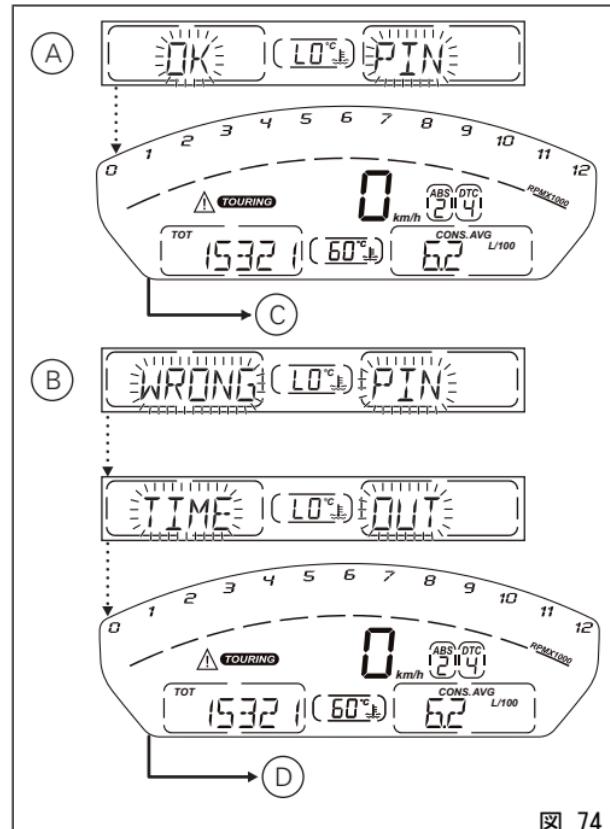


図 74

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならぬ時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

参考

車両を停止 (Key-OFF) しない限り、起動することができます。次の起動時に問題がまだ解消されていない場合、車両を一時的に起動するにはこの手順を最初から繰り返す必要があります。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置



警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) 右側スイッチ
- 6) スロットルグリップ
- 7) フロントブレーキレバー
- 8) ギアチェンジペダル
- 9) リアブレーキペダル

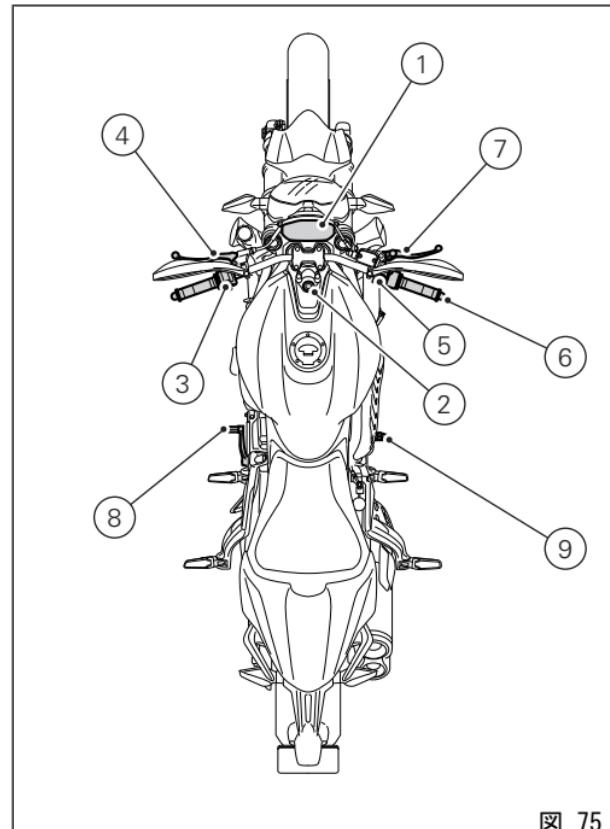


図 75

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4つのポジションがあります。

- A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
- B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
- C) LOCK : ステアリングロック状態
- D) P : パーキングランプおよびステアリングロック



キーを上記の (C) および (D) の位置に合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

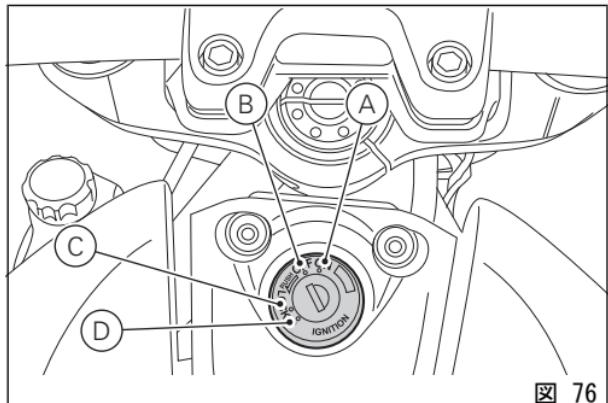


図 76

左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション：
ポジション  = ロービームランプ点灯 (A)
ポジション  = ハイビームランプ点灯 (B)
ポジション  = ハイビームランプ (FLASH)
およびインストルメントパネルコマンド (C)
- 2) ボタン  = 3 ポジション、ターンインジケーター ボタン：
中央 = OFF
ポジション  = 左折
ポジション  = 右折
ターンインジケーターを解除するには、中央に戻ってからコントロールレバーを押します。
- 3) ボタン  = 警告ホーン
- 4) ポジション “▲” のインストルメントパネルのボタン
- 5) ポジション “▼” のインストルメントパネルのコマンドボタン

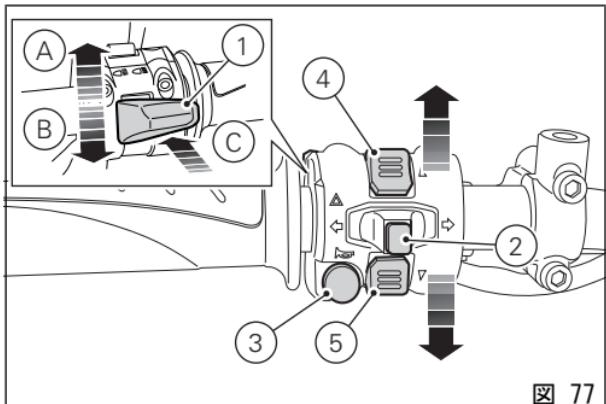


図 77

クラッチコントロールレバー

レバー（1）でクラッチの接続を操作します。レバー（1）を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

▲ 重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッショの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

○ 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

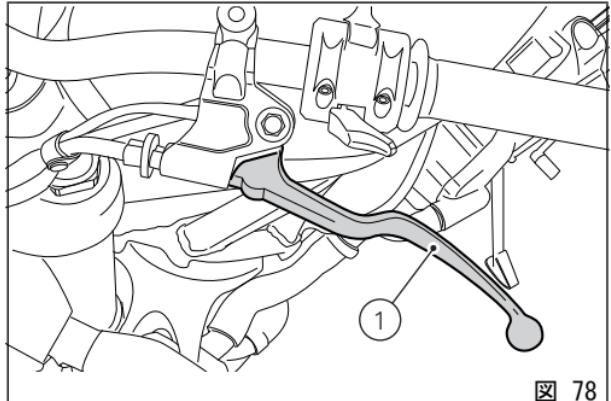


図 78

クラッチコントロールの遊びの調整



警告

調整を誤るとクラッチの機能およびその寿命に重大な影響を与えるおそれがあります。

クラッチは磨耗すると、クラッチケーブルが張る傾向にあります。

車両を使用する前に毎回遊びを点検してください。
点検はエンジンが冷えた状態でおこないます。

クラッチレバーを操作したとき、抵抗力が非常に小さい状態から大きい状態になります（作動力）。

抵抗力が非常に小さい場所に相当するストロークがレバーの遊びです。

レバーの遊びは、距離“A”が3～4mmとなるように調整します。

遊びを推奨値に調整するには、遊びがないことを確認します。クラッチコントロール近くのメインアジャスター(2)を操作します。

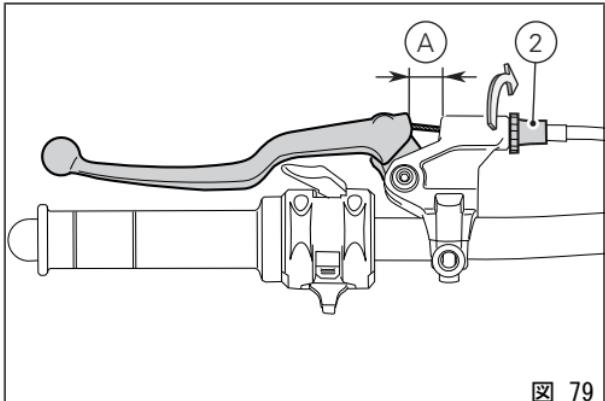


図 79

レバーのアジャスター (2) により、最大 11 mm、標準 5 mm (初期設定) に調整 (Q) することができます。このアジャスターでは不十分な場合、セカンドアジャスター (3) を操作します。

!**警告**

磨耗によるクラッチのすべりがある場合は、上記のようにレバーのアジャスター (2) を絶対に緩めないでください。この場合はアジャスターを締めてください。
すべりが続く場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

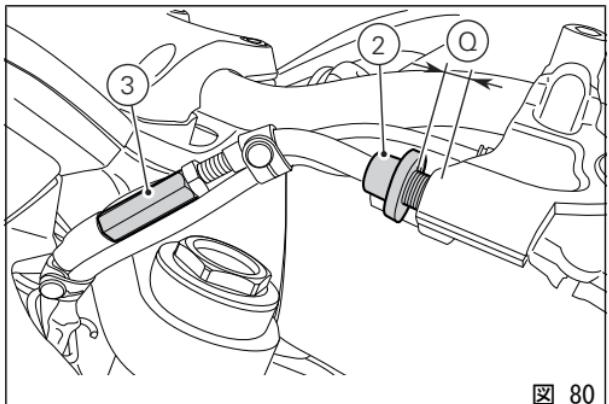


図 80

右側スイッチ

- 1) 赤スイッチ ON/OFF
- 2) 黒ボタン エンジン始動

スイッチ (1) には 3 つのポジションがあります。

- A) 中央 : RUN OFF このポジションでのエンジン起動は不可、すべてのエレクトロニックデバイスは停止します。
- B) 下に押した場合 : ON/OFF このポジションでシステムの起動 (KEY-ON) と停止 (KEY-OFF) が可能です。
- C) 上に押した場合 : RUN ON このポジションでのみ、黒ボタン (2) を押しながらエンジンの起動が可能です。

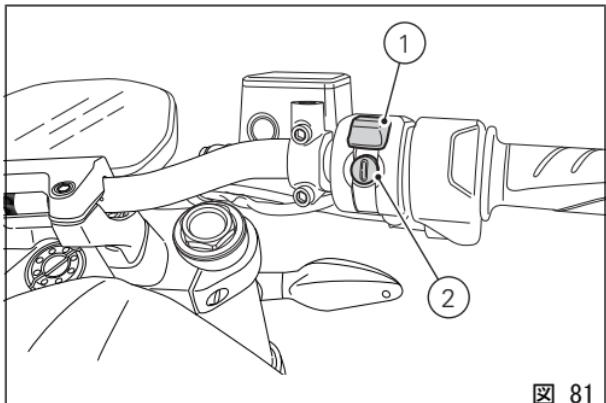


図 81

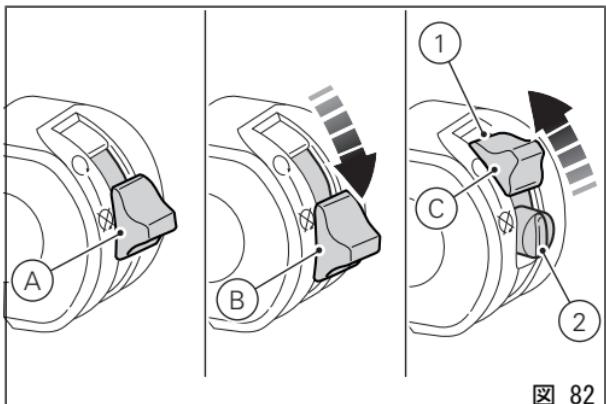


図 82

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ（1）は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置（アイドリング状態）に戻ります。

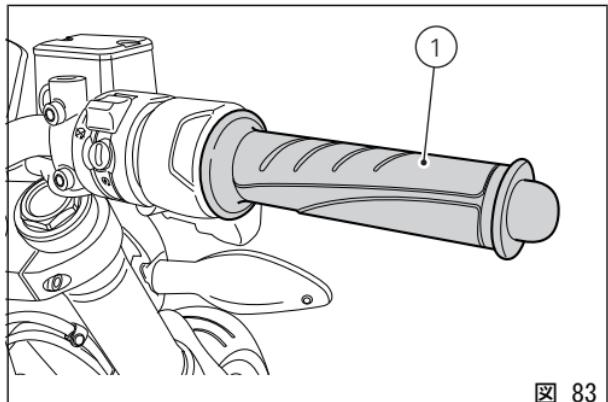


図 83

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

この機種には調整用つまみ(2)が搭載されているため、レバーとグリップとの間隔が調整できます。調整を行うには、レバー(1)を完全にゆるめ、つまみ(2)を4つのポジションのひとつに合わせて回します。ポジションn°1ではレバーとグリップ間の距離が最大になり、ポジションn°4では距離が最小になります。



警告

これらのコマンドを使用する前に“車両の起動および走行”に記載されている内容をお読みください。



警告

フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

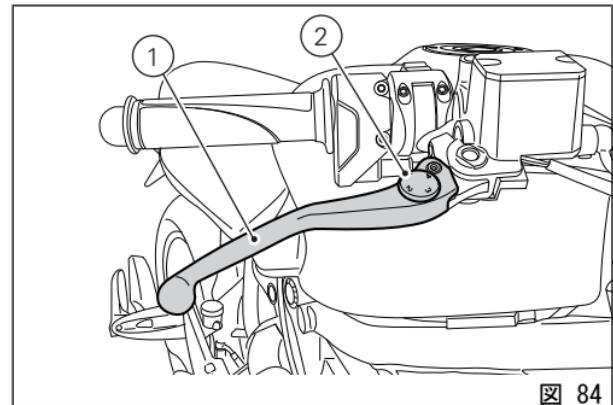


図 84

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル（1）を足で下に押してください。

制御システムは油圧式です。

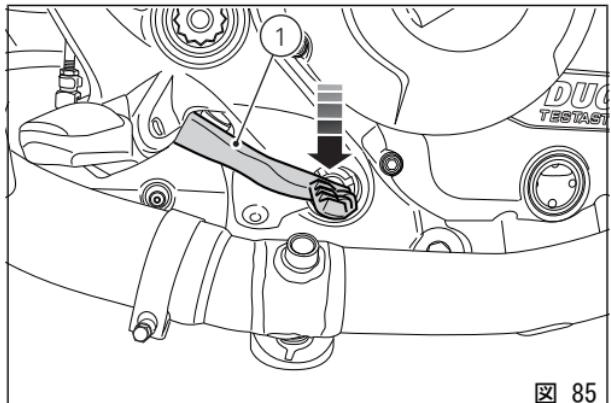


図 85

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルには 2 つの動作があり、中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3 、 4 、 5 、 6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

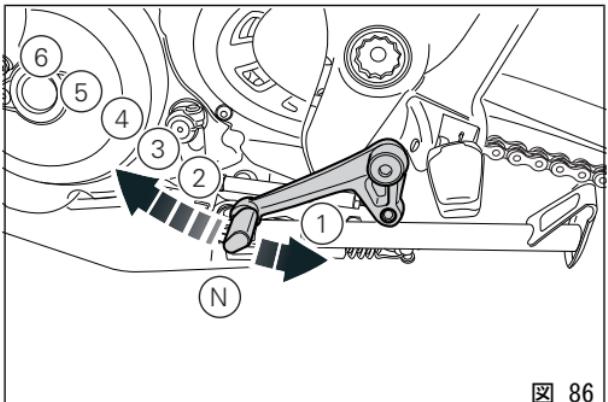


図 86

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

ギアチェンジペダルの位置を調整するには以下のようないくつ操作します。ロッド (1) を固定し、ロックナット (2) および (3) を緩めます。



ナット (2) は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド (1) の六角部分を回します。ロッドに両ロックナットを締め付けます。

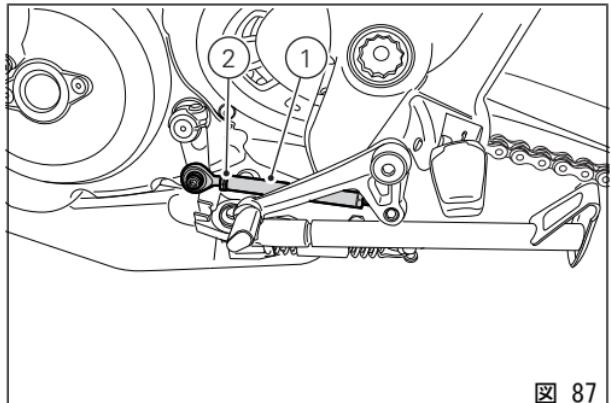


図 87

リアブレーキペダル

リアブレーキペダルの位置を調整するには、ロックナット（4）を緩め、ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー（5）を回します。ロックナット（4）を締め付けます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5~2 mm の遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。

マスターシリンダーのロッドのロックナット（6）を緩めます。

フォーク（7）のロッドをねじ込んで遊びを増加させるか、緩めて遊びを減少させます。

ロックナット（6）を締め付け、再度遊びを点検します。

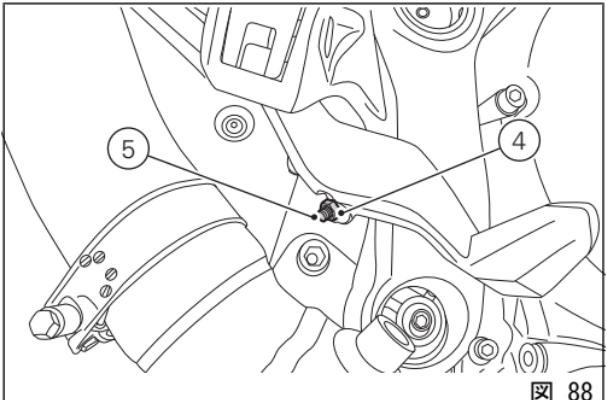


図 88

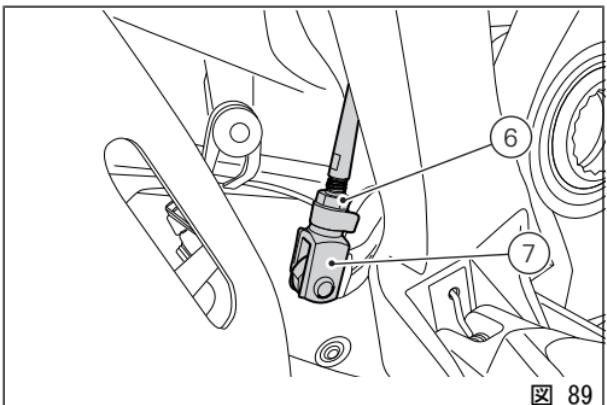


図 89

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) ヘルメットホルダーケーブル用ピン
- 4) サイドスタンド
- 5) リアビューミラー
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒コンバーター
- 8) エキゾーストサイレンサー

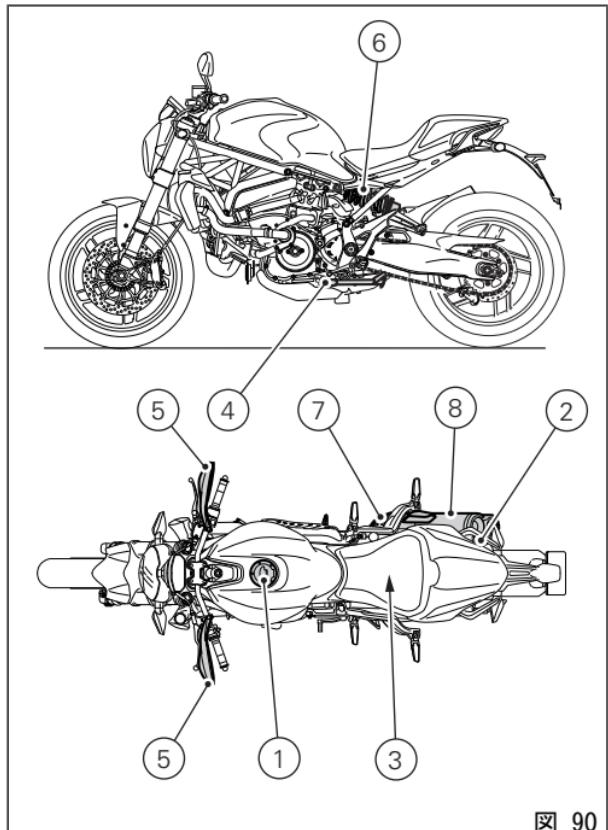


図 90

燃料フィラープラグ 開け方

保護カバー（1）を持ち上げ、キーをロックに挿入します。キーを時計回りに $1/4$ 回転させ、ロックを解除します。

閉じ方

キーを挿入してキャップを閉じ、所定の位置でキャップを押します。キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。ロック保護カバー（1）を閉じます。



キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。



燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

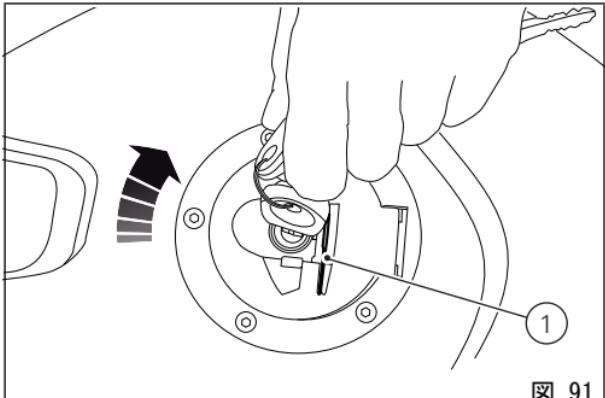


図 91

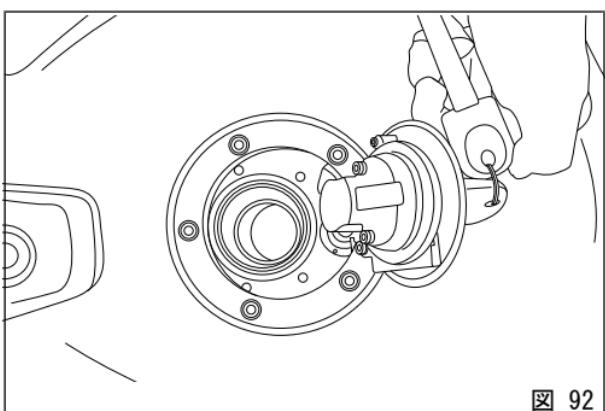
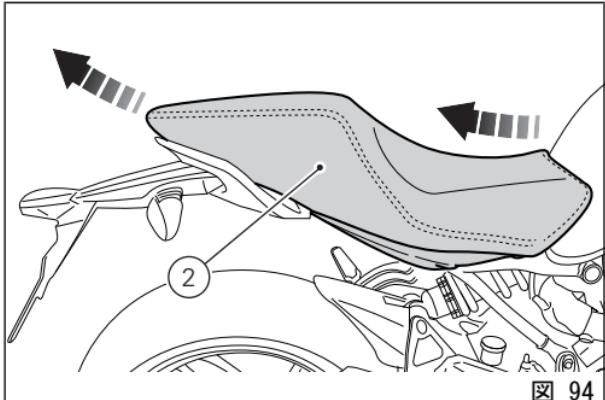
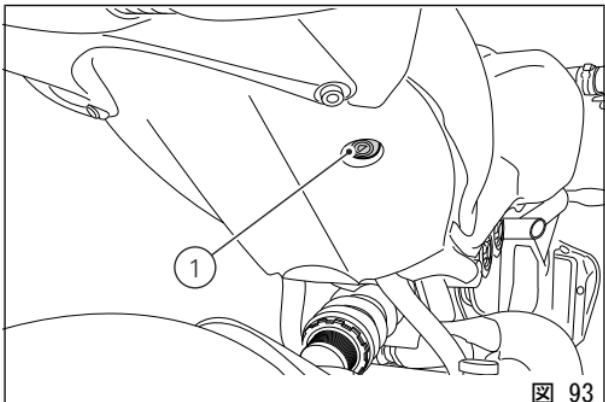


図 92

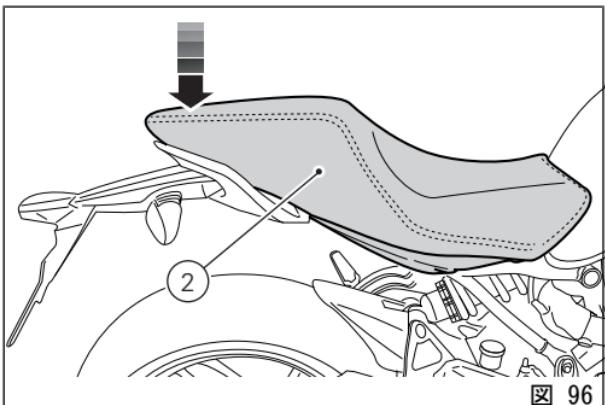
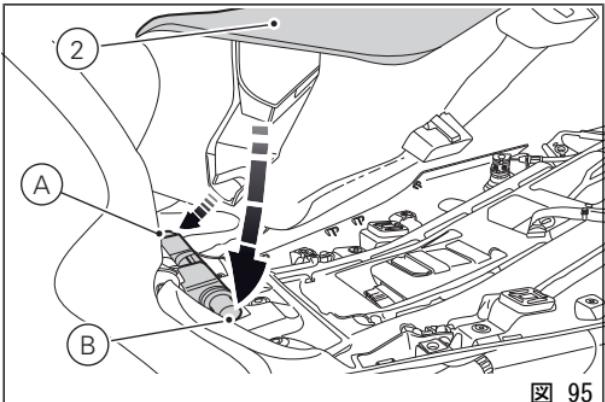
シートロック 開け方

ロック（1）にキーを差し込み、時計回りに回します。同時にラッチ付近を下に押し、ピンを外しやすくします。シート（2）を後ろに引っ張りながらフロントリテナーから抜き取ります。



閉じ方

すべての部品が正しく配置され、シート下ボックス(2)に固定されていることを確認します。シート底部の前部先端をリアサブフレームに固定されたマウントのピン(A)および(B)に挿入します。シートの後部を持ち上げ、中央部の固定部品の上部を押して挿入します。シート後部先端をロックのラッチがカチッとはまるまで押します。シートがしっかりとフレームに固定されていることを確認し、ロックからキーを取り外します。

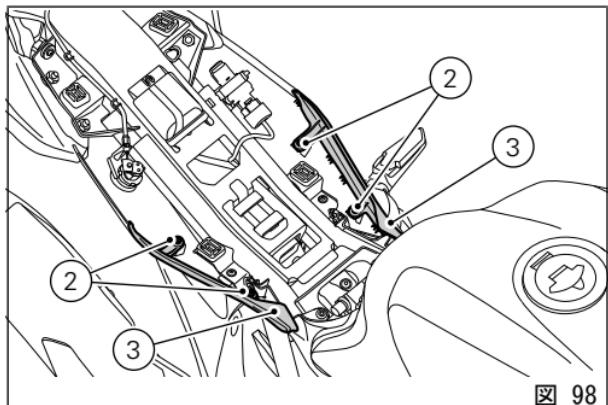
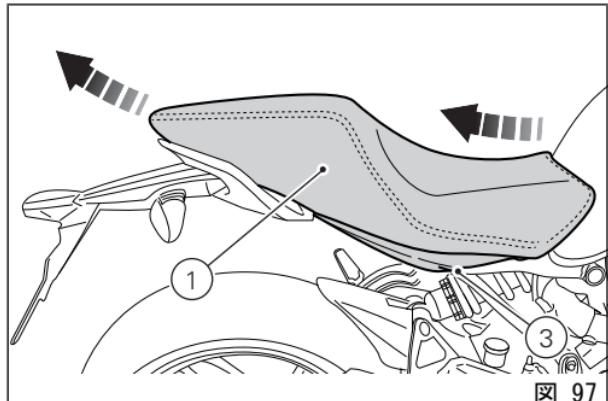


シート高の調整

本モーターサイクルはハイポジションシートを標準装備します。シートを下げることで高さの調整が可能です。

シートを下げるには、シート（1）を対応するシートカバーと一緒に取り外します。

4 本のスクリュー（2）を緩め、シート下の 2 つのカバー（3）を取り外します。



シート（1）下に取り付けられている 4 個のパッド（4）を取り外します。
ゴムと一緒に留め金（5）を下部取り付け位置に配置します。

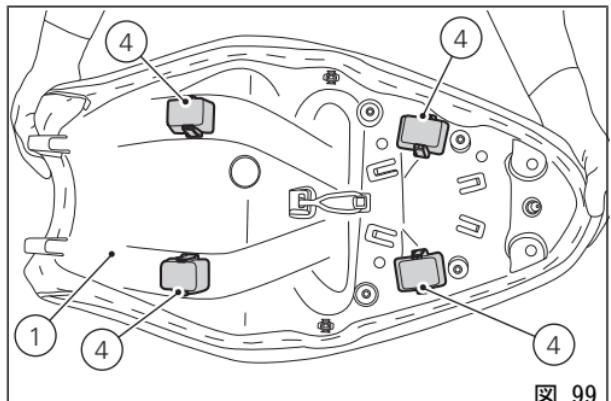


図 99

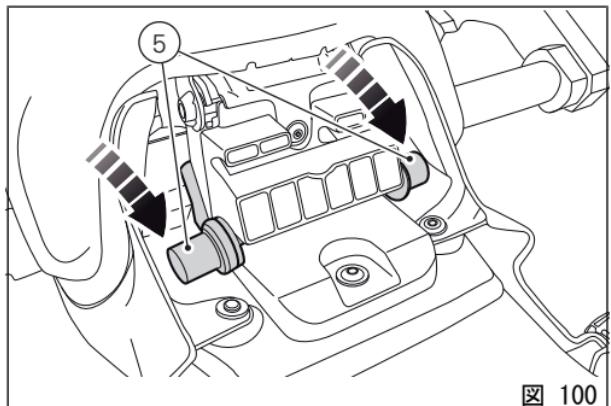


図 100

シートを対応するシートカバーと一緒に車両に配置します。この時点でシートの位置が下がりました。

シートを上げるには、シート(1)を対応するシートカバーと一緒に取り外します。

シート(1)の下に4個のパッド(4)をそれぞれに対応する取り付け位置に配置します。

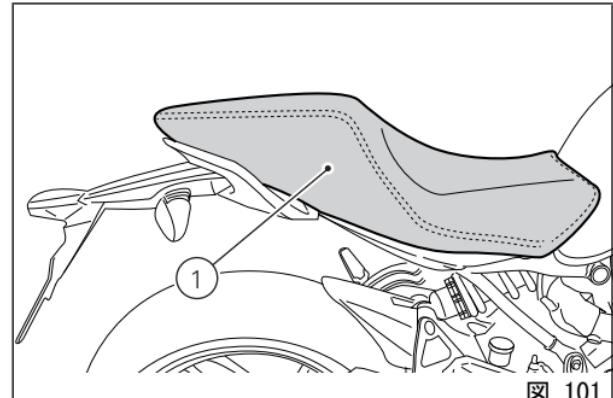


図 101

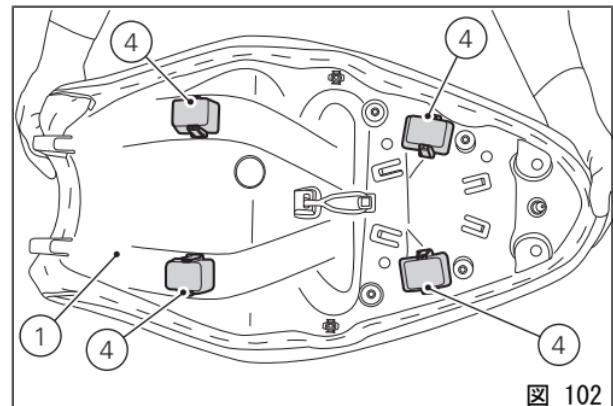


図 102

クリップ（6）が取り付けられていることを確認します。

カバー（3）のつめ（L）をシート下のカバーの取り付け位置に正しく挿入し、2個のカバー（3）をシート下に取り付けます。

4本の固定スクリュー（2）を締め付けます。

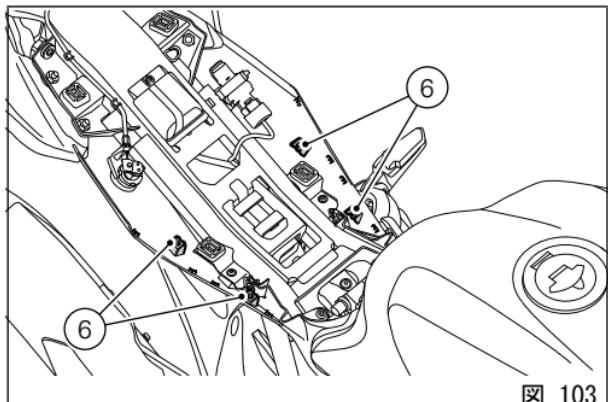


図 103

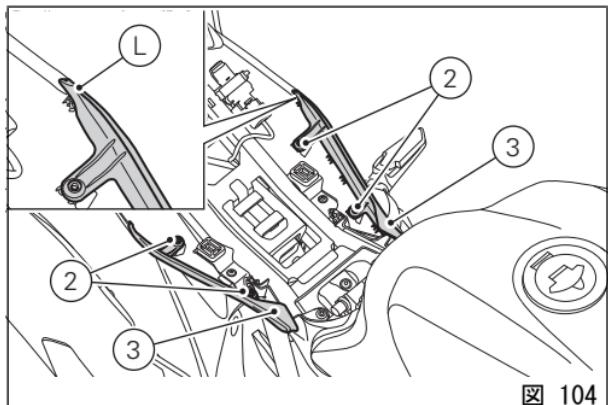


図 104

ゴムと一緒に留め金（5）を上部取り付け位置に配置します。

シートを対応するシートカバーと一緒に車両に取り付けます。

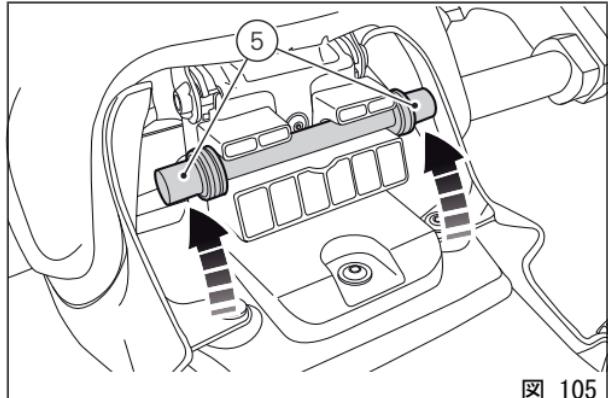


図 105

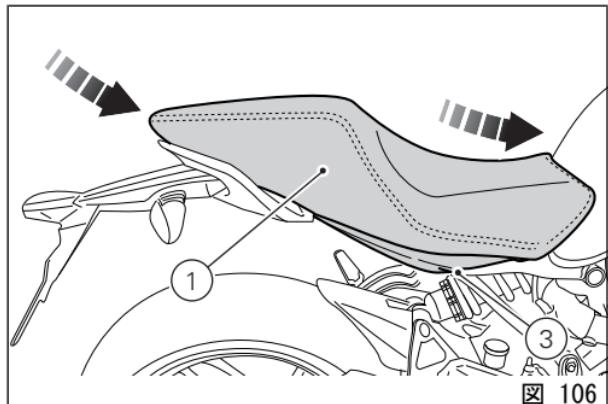


図 106

ヘルメットホルダースタンド

ヘルメットホルダークーブル（1）はツールボックス内にあります。“付属アクセサリー”を参照してくださいページ 188。ヘルメットにケーブルを通し、ピン（2）にケーブルの先端を挿入します。

ヘルメットを吊るした状態でシートを取り付け、固定します。



警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

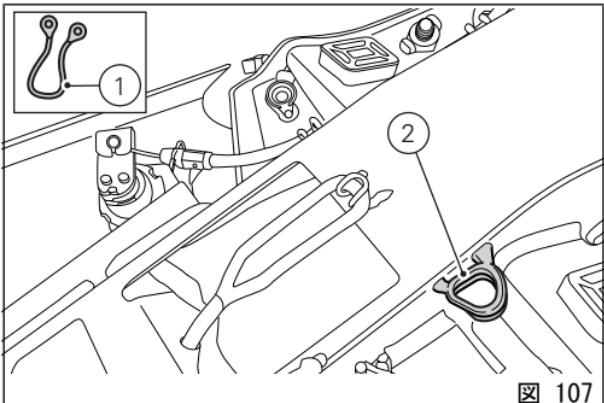


図 107

サイドスタンド



警告

サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなつたアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながらスタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

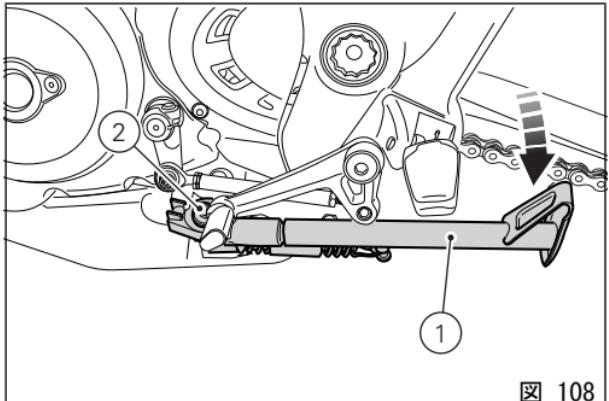


図 108



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

サイドスタンドを停止位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。

 参考

定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

リアショックアブソーバー調整アジャスター

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。

エンジンにショックアブソーバーの上部を固定している位置の左側にあるアジャスター（1）は、リバウンドダンピング（リターン）を調整します。

アジャスター（1）を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

ショックアブソーバー下部のリングナット（2）、（3）はスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナット（3）を緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナット（2）はプリロードを増大させたり減少させたりします。

希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナット（3）を締め付けます。

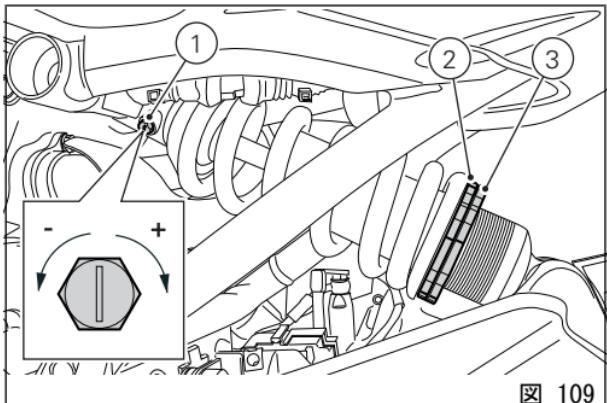


図 109

すべて閉じた位置からの標準設定は以下の通りです
(時計回り)。

- リバウンド：アジャスター (1) を 1.5 回転緩めます (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード：15 mm (すべて緩めた状態から)。

警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

サスペンション設定の選択

表に記載されている値は、ライダーの衣類込みの体重を 80~90 kg、パッセンジャーの衣類込みの体重を 70~80 kg と想定した場合の値です。

Monster 821 リアショックアブソーバー調整値					
パラメーター	範囲	デフォルト	スポーツ	コンフォート	ライダー + パッセンジャー
コンプレッション	-	-	-	-	-
リバウンド	0 ~ 5 回転	1.5 回転	0.5 回転	2.5 回転	1.5 回転
スプリングプリロード	10 ~ 20 mm	15 mm	15 mm	15 mm	19 mm

運転のしかた

慣らし運転の方法

！ 重要

初めて車両をご使用になる前に、リヤビューミラーにラベルが付いていないことを確認してください。ラベルが付いている場合ははがしてからご使用ください。

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：

- 1) 1,000 kmまで
- 2) 1,000~2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、
5,500~6,000 rpm を決して超えないようにしてください。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。

すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1000~2500 kmまで

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpm を決して超えないようにしてください。

!**重要**

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

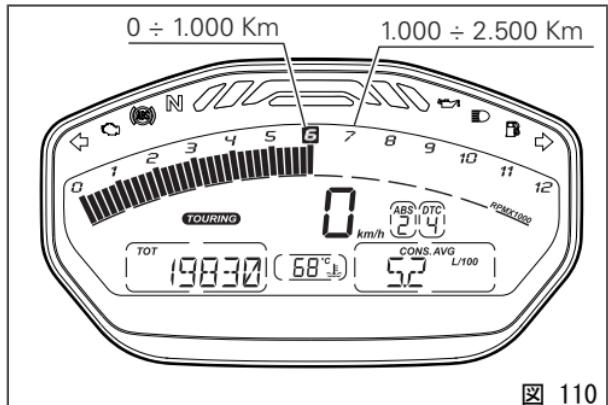


図 110

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与える、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量

タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (ページ 186)。

- エンジンオイル量

クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください (ページ 220)。

- ブレーキフルード

各リザーバータンクのフルードレベルを確認します (ページ 191)。

- クーラント量

リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください (ページ 189)。

- タイヤコンディション

空気圧と摩耗度を点検します (ページ 217)。

- コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

- ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (ページ 214)。

- ロック類

フィラープラグ (ページ 161) およびシート (ページ 162) のロックを確認します。

- スタンド

サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (ページ 170)。

ABS ランプ

Key-ON 後、走行速度が 5 km/h を超えると ABS ランプ (9、図 3) は点灯したままになります。ランプが消灯すれば、ABS システムが正常に作動していることを示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

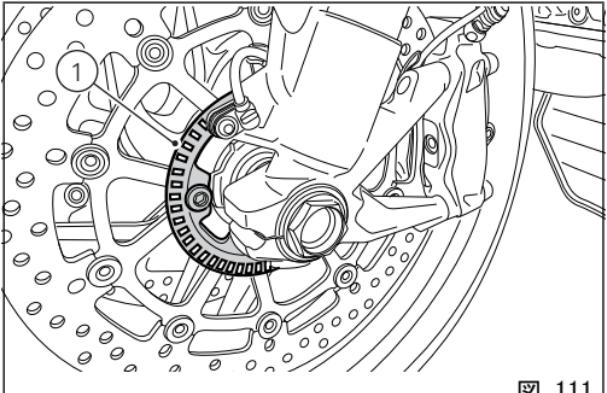


図 111

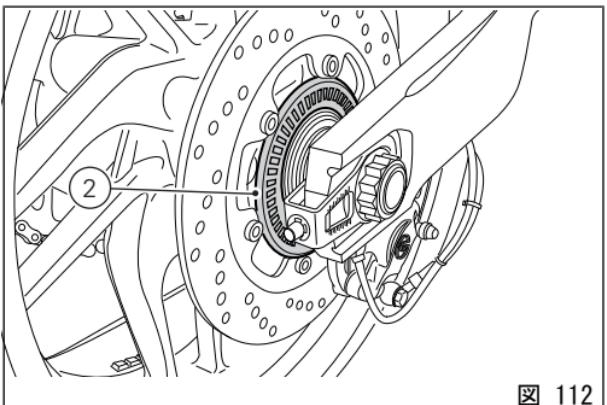


図 112

エンジンの始動



警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを(1、図113)の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプNと赤のランプ が点灯していることを確認してください。



重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。



警告

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

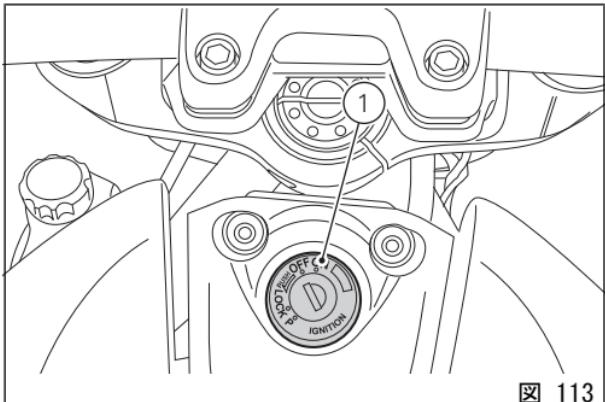


図 113



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

エンジンストップスイッチ（2、図 114）が  (RUN) の位置になっていることを確認してから、スタートボタン（3、図 114）を押します。スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

 **参考**

バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

 **重要**

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

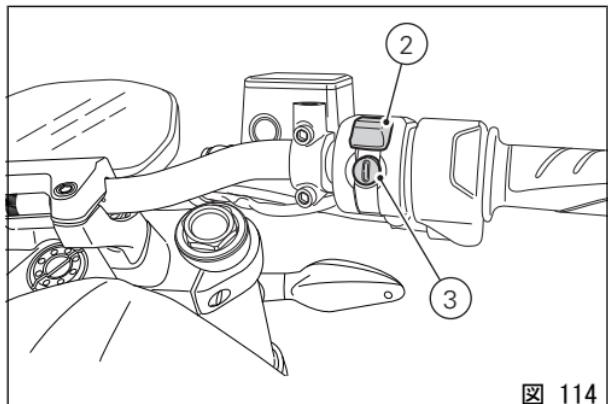


図 114

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、エンジン回転を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮するために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロック

のリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。このシステムを解除したい場合は、“ライディングモードのパーソナライズ：ABS 調整”（ページ 95 を参照）機能を使用してインストルメントパネルから解除することができます。



警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。

シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

エンジンを停止するには、キーを (2) の位置に回します。

⚠ 重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

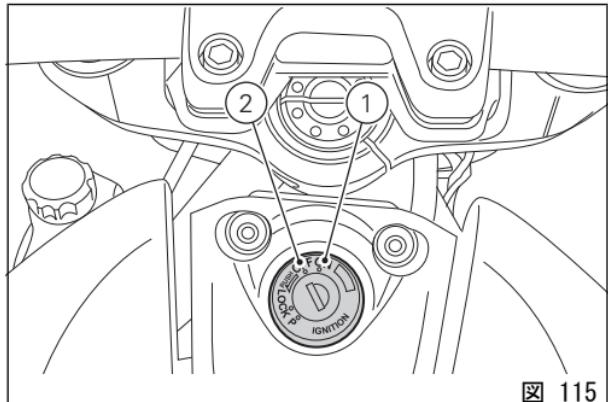


図 115

燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。
燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。



警告

燃料は、鉛の含有量が少なく、混合前のオクタン価が95以上のものを使ってください。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

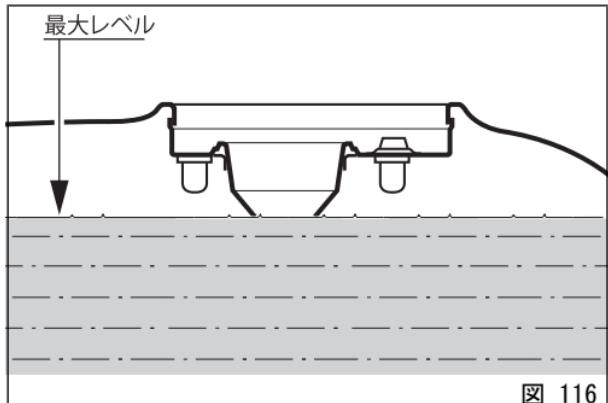


図 116

パーキング

停止車両をサイドスタンド（ページ 170）で支えて駐車します。

盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを（3）の位置に回します。

車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

必要に応じ、キーを（4）の位置に回してパーキングランプを点灯させたままにすることができます。

重要

長時間キーを（4）の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

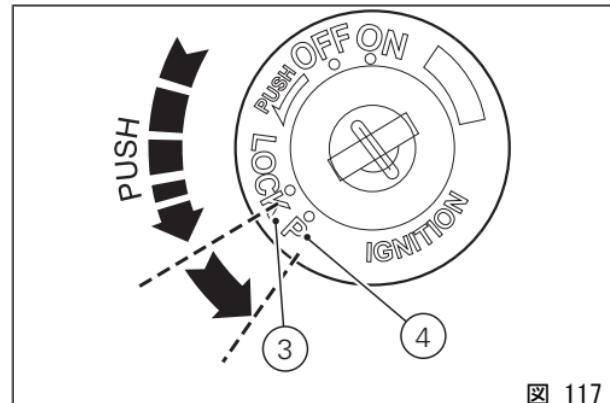


図 117

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

付属アクセサリー

シート下にはツールキット (1) が装備されています。

ツールキットに含まれる内容は以下の通りです。

- ヒューズ用ピンセット
- ヘルメット盗難防止ケーブル 2 本
- プラス/マイナスドライバー
- ドライバーのハンドル
- パイプレンチ 14x16x145 mm
- ロッド 6x120 mm
- 六角レンチ 3 mm
- 六角レンチ 4 mm

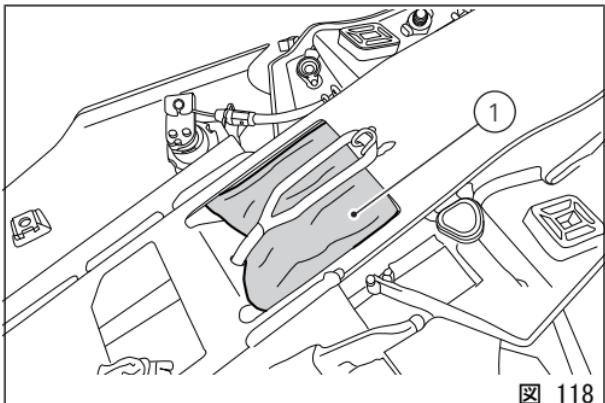


図 118

主な整備作業とメンテナンス

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN および MAX の目盛の間にありますことを確認します。

クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。

フィラープラグ (1) を緩め、不凍液 ENI Agip Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。

キャップ (1) を閉めます。

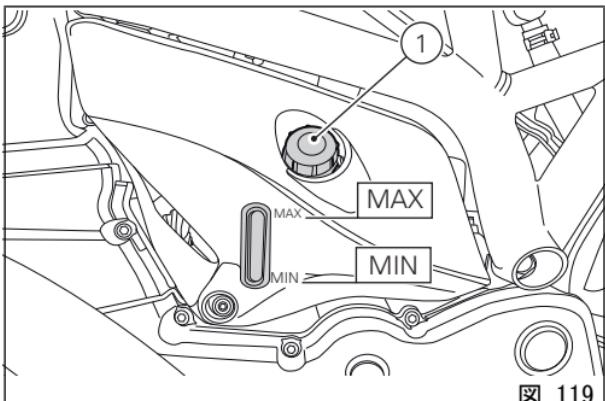


図 119

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます ($-20^{\circ}\text{C}/-4^{\circ}\text{F}$ から凍結し始めます)。冷却回路の容量 : 2.5 リットル (0.66 ガロン)



警告

この作業はエンジンが冷たい状態でおこないま
す。エンジンが熱い状態で作業を行うと、クーラン
トや蒸気が吹き出し深刻なやけどを負うおそれがあ
ります。

エアフィルターの交換



重要

エアフィルターのメンテナンス作業が必要な場
合は、ディーラーまたはDucatiサービスセンターに
ご連絡下さい。

ブレーキフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。



重要

ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

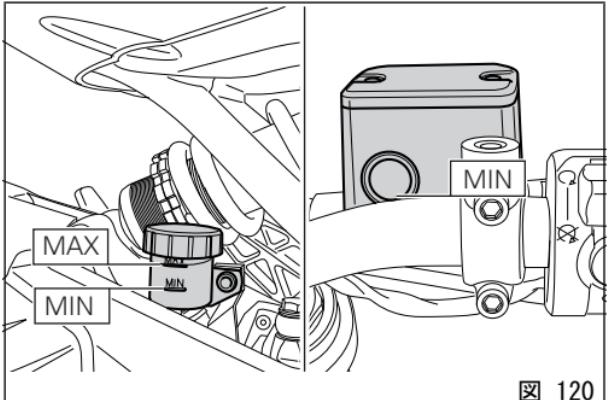


図 120



警告

ブレーキフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えるので、こぼさないようにして下さい。

これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすことがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。シールの状態を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。

どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

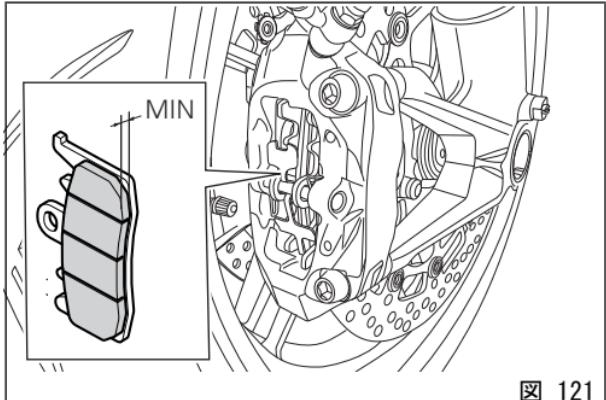


図 121

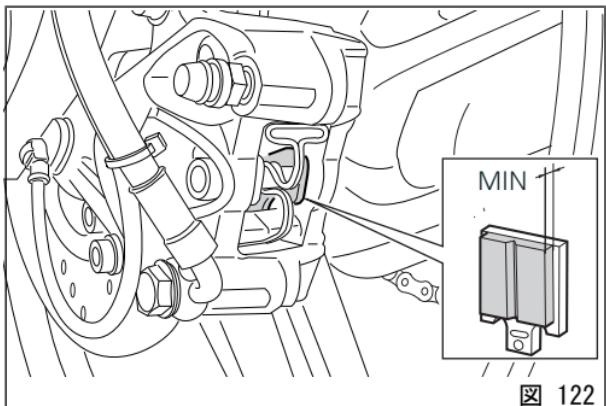


図 122

バッテリーの充電



警告 バッテリーの取り外しは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーの作業を行うには、“バッテリーの取り外し” ページ 199 を参照してください。



警告 バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。
プラス極 (+) のスクリューとマイナス極 (-) のスクリューにグリースを塗布します。

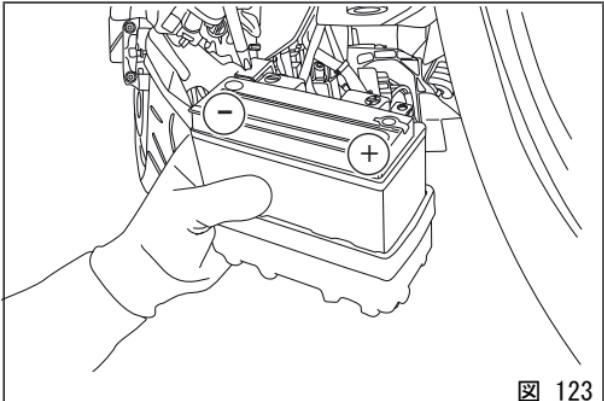


図 123



重要 バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

バッテリーを 0.9A で 5 ~10 時間充電します。
“バッテリーの取り付け” ページ 205 を参照し、バッテリーを車両に取り付けます。

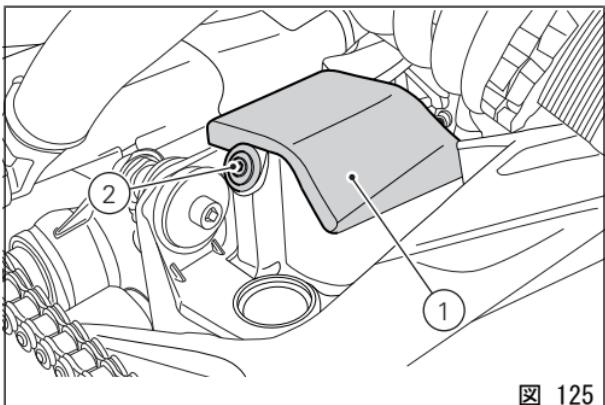
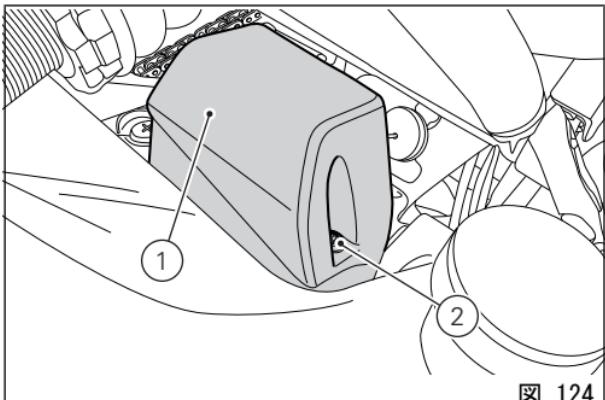


警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

緊急時の始動

外部エンジンスターターを接続して車両を緊急始動する必要がある場合は、付属のレンチでスクリュー(2)を外し、バッテリーカバー(1)を取り外してください。



外部エンジンスターターのプラスをバッテリーのプラス極（3）に接続します。

エンジン左側のカバーを両方取り外したのち、外部エンジンスターターのマイナスをエンジン連結部のスクリュー（4）に接続します。

カバーの取り外しは、“バッテリーの取り外し”ページ 199 を参照してください。



警告

外部エンジンスターターのプラスをバッテリーのプラス極（3）に接続する際、車両の他の金属部分に触れないよう注意してください。

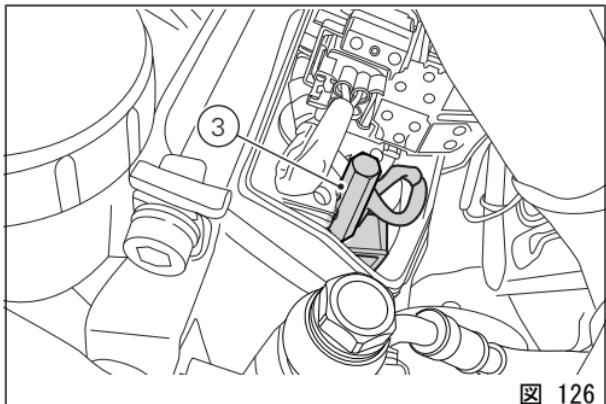


図 126

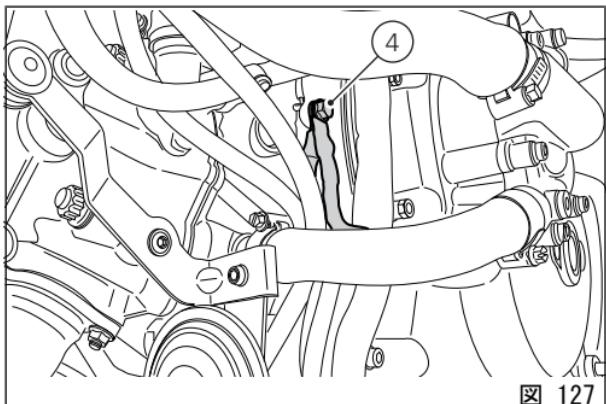


図 127

バッテリー充電および冬季の断熱

お客様の車両のシート下にコネクター（1）が取り付けられており、これに専用のバッテリーチャージャー（2）（バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店でお求めいただけます。



参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。



重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

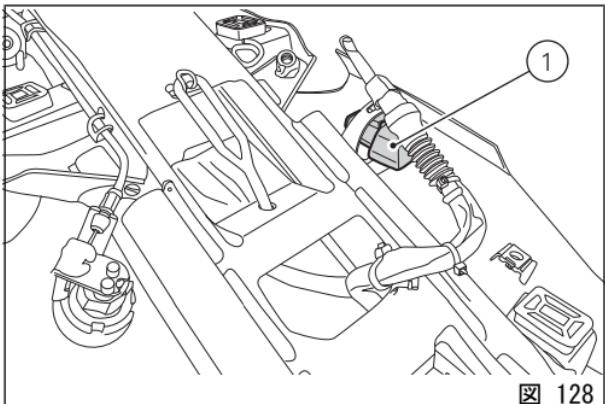


図 128

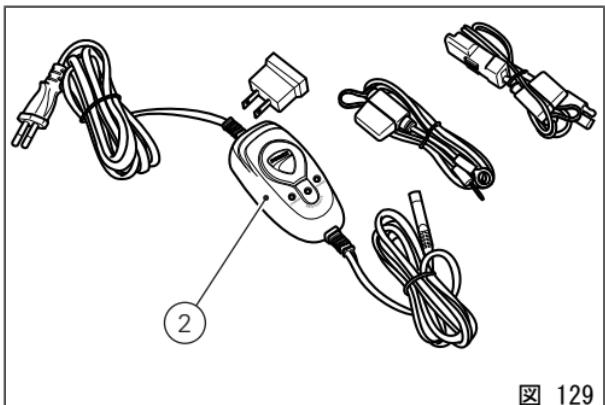


図 129

 参考

Ducati 車両を使用しない期間（およそ 30 日以上）、
Ducati バッテリーメンテナー（バッテリーメンテナ
ーキット、部品番号 : 69924601A - 多くの国、バッ
テリーメンテナーキット、部品番号 : 69924601AX -
日本、中国、オーストラリアのみ）の使用をお勧め
します。電力をモニターする内部エレクトロニクス
が搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/h です。
メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続し
ます。

 参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナ
ーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに
損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッ
テリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンス
とみなし保証の対象にはなりません。

バッテリーの取り外し



重要

バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

スクリュー (1) を緩め、カバー (2) を取り外します。

スクリュー (3) を緩め、カバー (4) を取り外します。

スクリュー (5) を外し、接地ケーブル (6) を切り離します。



警告

先ほど取り外した接地ケーブルの先端が車両に触れないよう絶縁します。

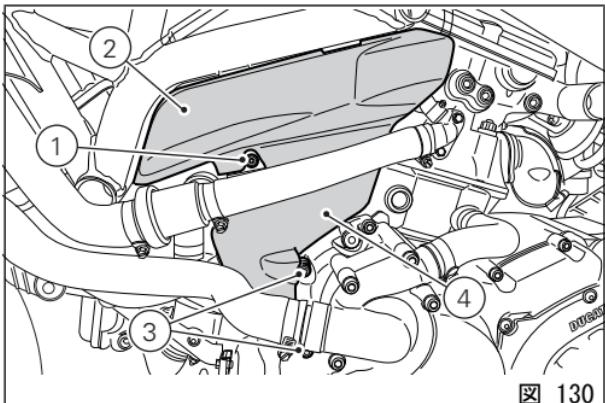


図 130

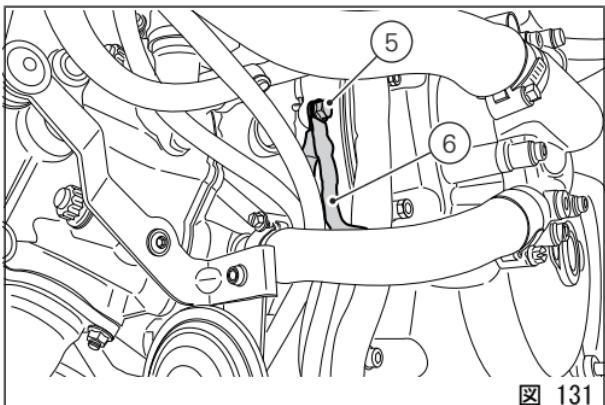


図 131

バッテリーカバー（8）のスクリュー（7）を緩めて外します。

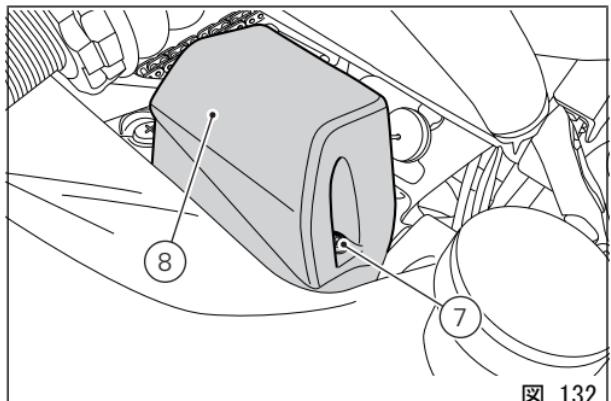


図 132

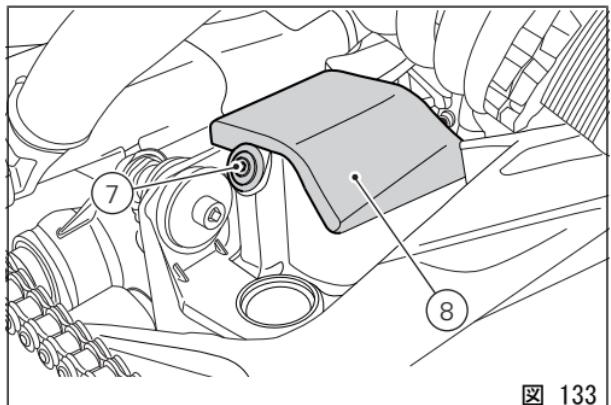


図 133

バッテリー陽極ケーブルの端子 (10) および ABS 陽極ケーブルの端子 (11) をバッテリープラス極に固定している専用スクリュー (9) を緩めて外します。バッテリーを交換するには、エレクトリック部品マウント (Q) の穴に作業用ピン (P) を取り付けます。

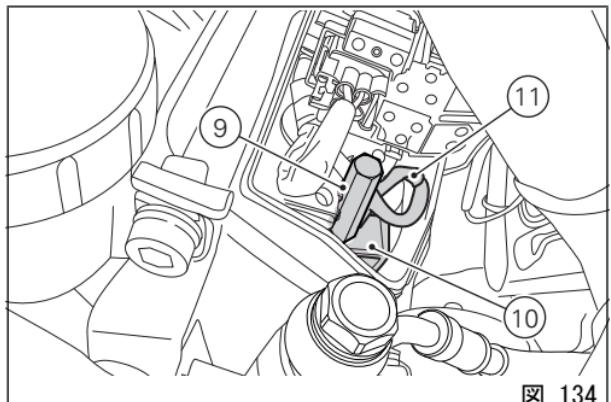


図 134

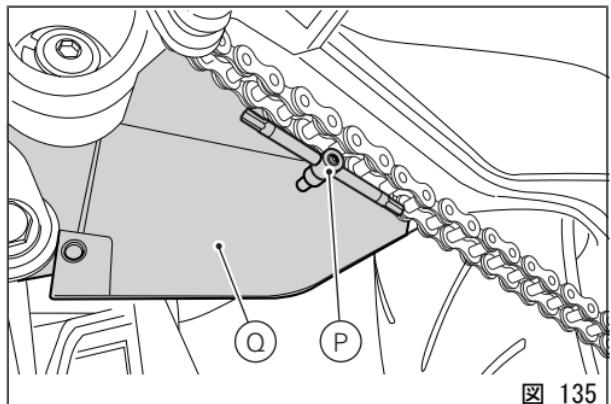


図 135

バッテリーマウントカバー（13）をエレクトリック部品マウントに固定しているスクリュー（12）を緩めて外します。

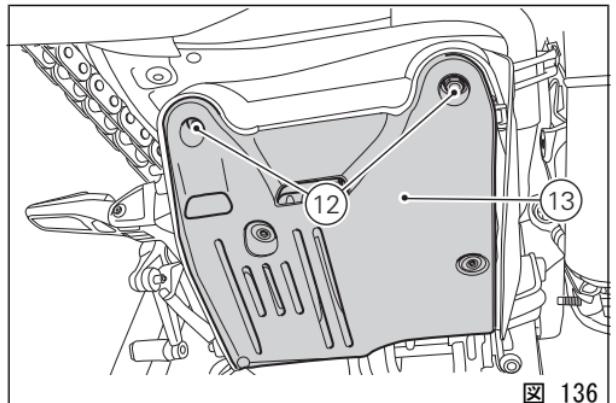


図 136

バッテリーマウントカバー（13）を下向きに回転させ、バッテリー（14）を手で支えながら作業用ピン（P）を抜き取ります。

下方向にゆっくりとバッテリー（14）を引き抜きます。このとき、配線に接続されているバッテリーマイナス極に注意してください。

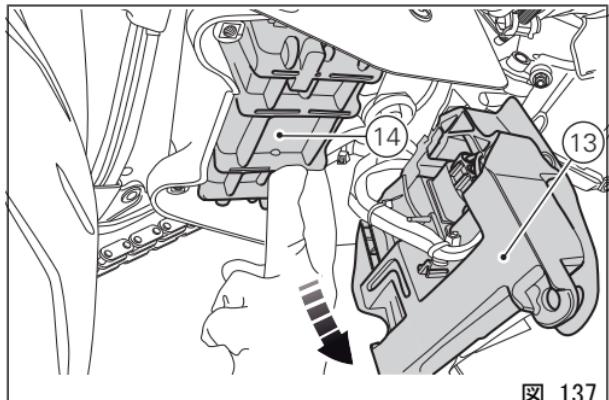


図 137

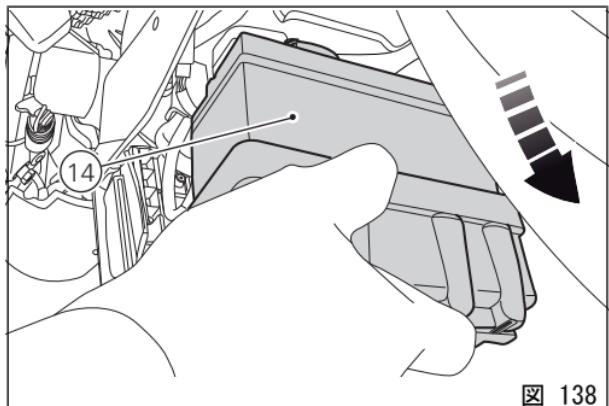


図 138

陰極ケーブル（16）をバッテリーマイナス極に固定しているスクリュー（15）を緩めて外し、バッテリーを取り外します。

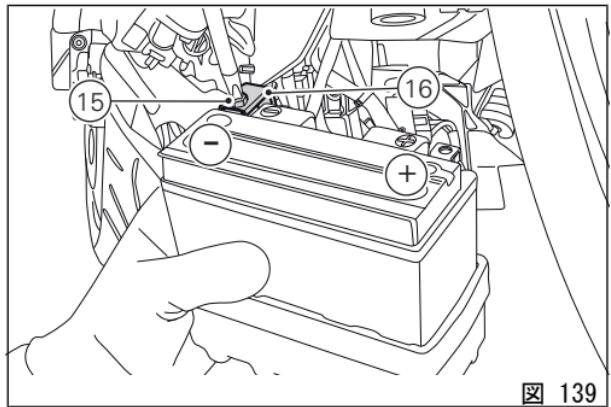


図 139

バッテリーの取り付け



重要

バッテリーの取り外しについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

バッテリー陰極ケーブル（16）をバッテリーのマイナス極に配置し、スクリュー（15）を $10 \text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付け、固定します。

バッテリー（14）をスイングアーム下部の取り付け位置に挿入します。

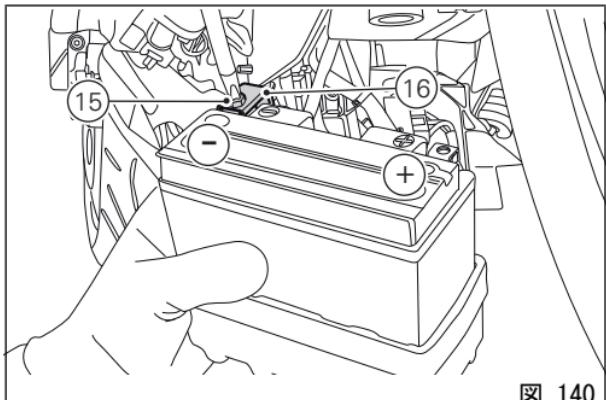


図 140

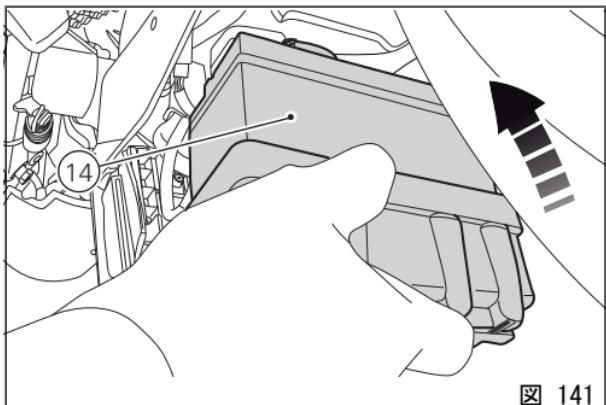
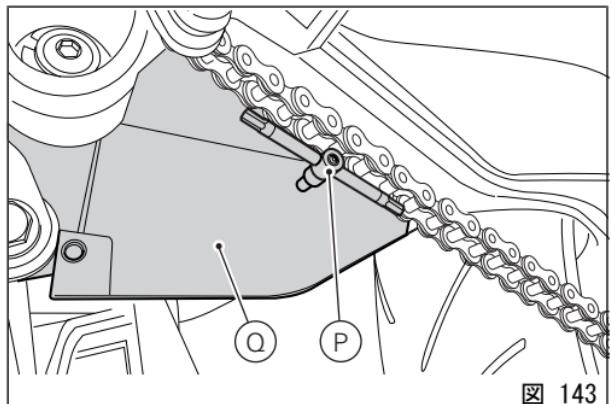
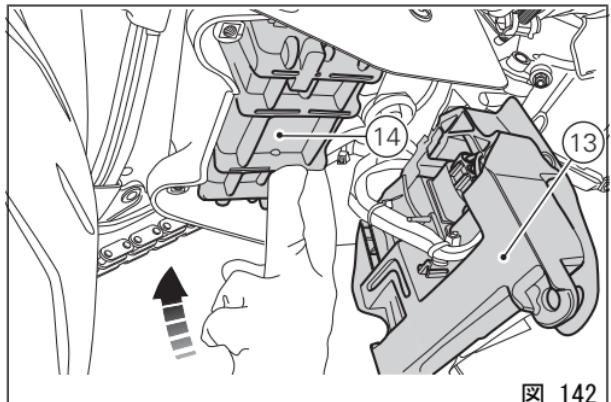


図 141

バッテリー (14) を配置したら、エレクトリック部品マウント (Q) の穴に作業用ピン (P) を取り付けてバッテリーを支えます。

バッテリーマウントカバー (13)を持ち上げ、バッテリーにあてます。



ピン (P) を抜き取ります。スクリュー (12) を 5 Nm \pm 10% のトルクで締め付けて、バッテリーマウントカバー (13) を固定します。

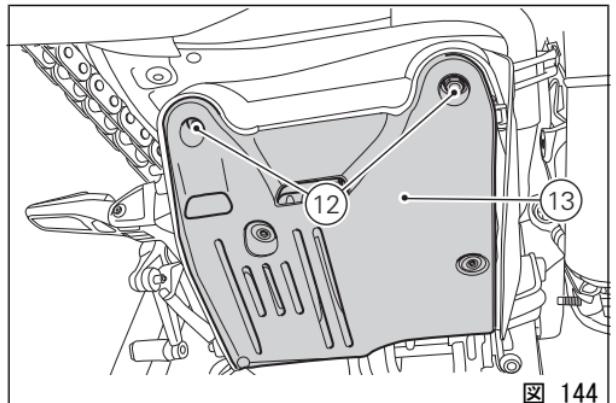


図 144

陽極ケーブル (10) および ABS 陽極ケーブル (11) をバッテリーのプラス極に配置し、スクリュー (9) を $10 \text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。バッテリーカバー (8) をエレクトリック部品マウント上に配置します。

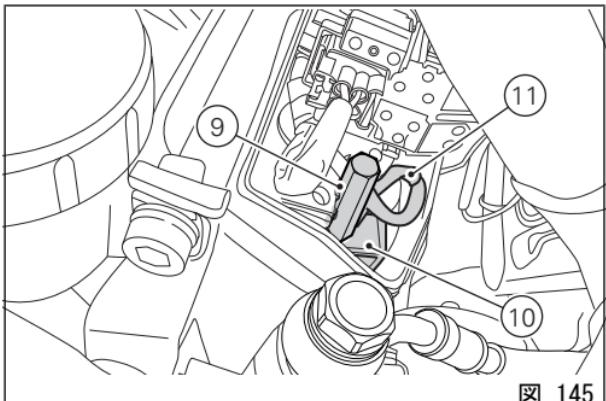


図 145

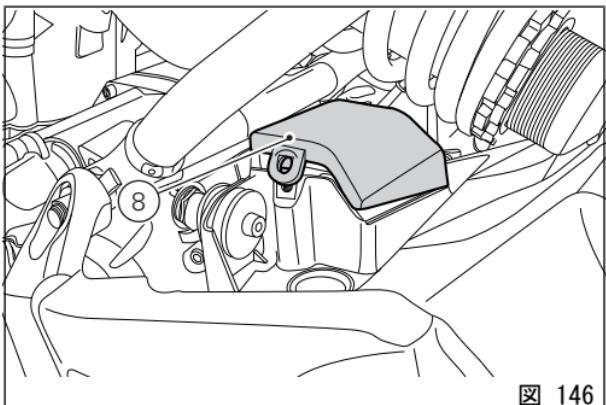


図 146

スクリュー (7) を差し込み、4 Nm $\pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

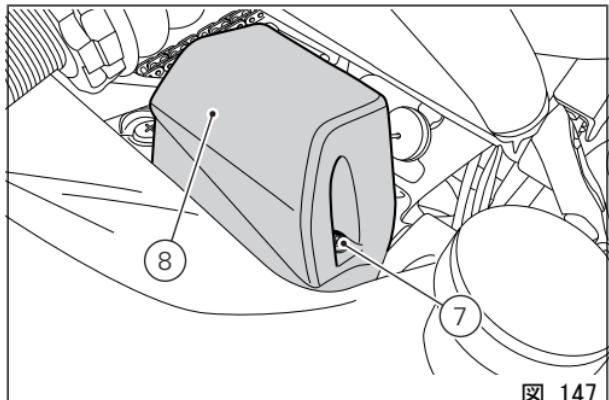


図 147

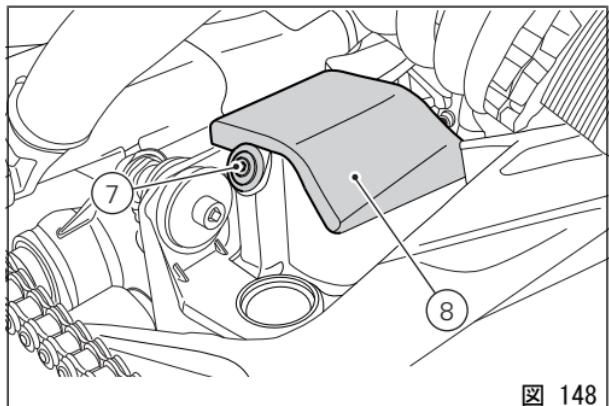


図 148

車両に接地ケーブル（6）を配置し、スクリュー（5）を $10 \text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けてケーブルを固定します。

カバー（4）を取り付け、スクリュー（3）を $5 \text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

カバー（2）を取り付け、スクリュー（1）を $1 \text{ Nm} \pm 10\%$ のトルクで締め付けます。

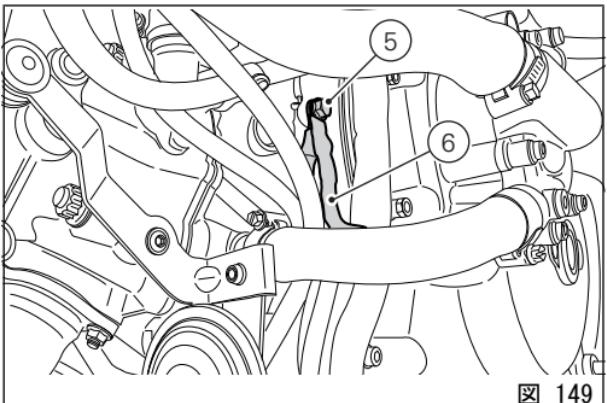


図 149

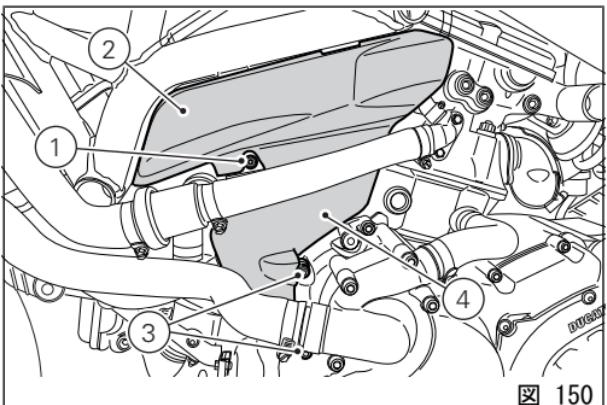


図 150

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離 (A) を測定します。値 A = 31 ~ 33 mm でなければなりません。

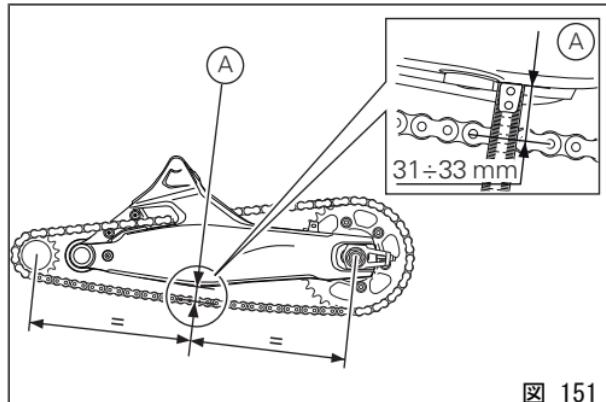


図 151



重要

ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。



警告

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー (2) を正しく締め付けることが重要です。



重要

チェーンの張りが不適切だとトランスマッショングル品の磨耗を早めます。

スイングアーム両側の位置決めマーキングが合っていることを確認します。これにより正確なホイールアライメントを取ることができます。ホイールシャフトのナット (1) のネジ山に SHELL Retinax HDX2 を塗布し、145 Nm のトルクで締め付けます。アジャスター・スクリュー (2) のネジ山に SHELL Alvania R3 を塗布し、10 Nm のトルクで締め付けます。

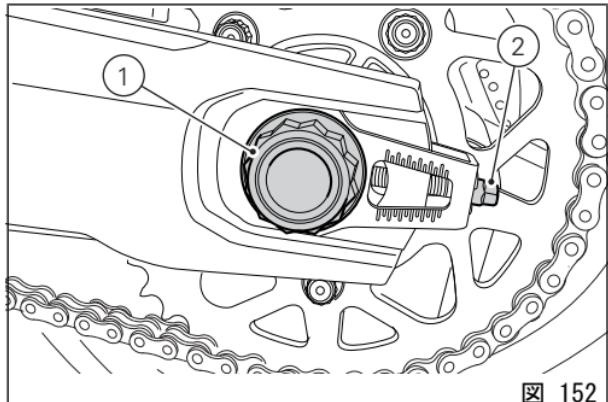


図 152

チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ0リングの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防ぐため、専用の溶剤を使用し、スチームウォッシュヤーなどの圧力のかかった水で洗浄しないでください。

コンプレッションエアーまたは吸収材でチェーンを乾燥させたら、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。



重要

規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 241 の “エレクトリカルシステム” の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。



重要

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

スクリュー (1) を緩めて外し、ターンインジケーターマウントからカバー (2) を取り外します。

電球は差し込み式になっています。引き抜くには押して反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。バルブカバーを取り付けます。この時、突起部をマウントのスリットに挿入してください。スクリュー (1) をねじ込みます。

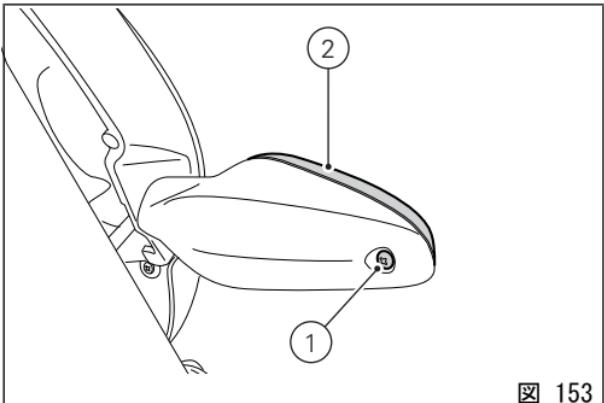


図 153

ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯します。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの $\frac{9}{10}$ 以下でなければなりません。

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

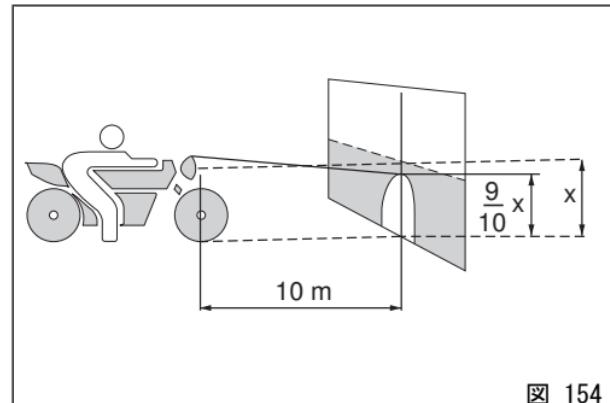


図 154

垂直方向のヘッドライト光軸調整はスクリュー（1）を操作して行います。



警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

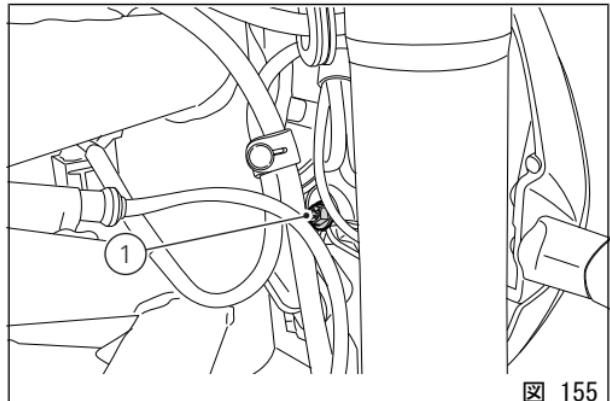


図 155

タイヤ

フロントタイヤ空気圧 :

2.50 bar (ライダーのみ) - 2.6 bar (ライダーおよびパッセンジャー)

リアタイヤ空気圧 :

2.50 bar (ライダーのみ) - 2.8 bar (ライダーおよびパッセンジャー)

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理または交換

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。



警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすことがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。



警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所（S）の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

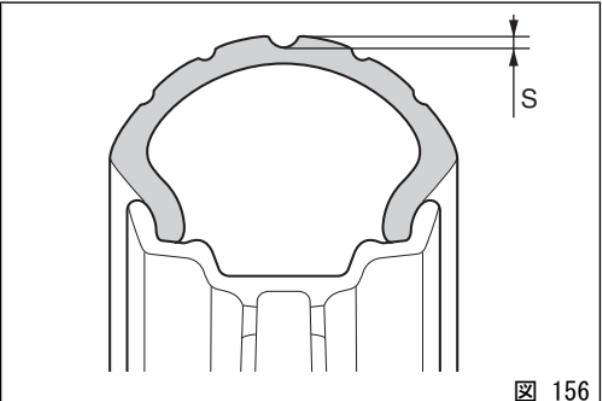


図 156

エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓（1）から見ることができます。

レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイル SHELL Advance 4T Ultra を補充してください。

フィラーキャップ（2）を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。

フィラーキャップ（2）を取り付けます。



重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

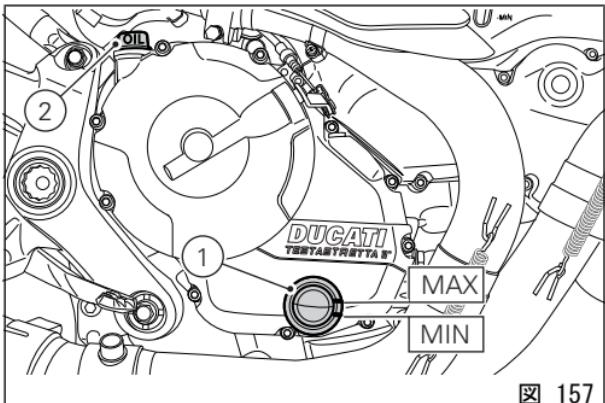


図 157

粘度

SAE 15W-50

車両を使用する地域の平均気温に応じて、表に示されている粘度のものを使用できます。

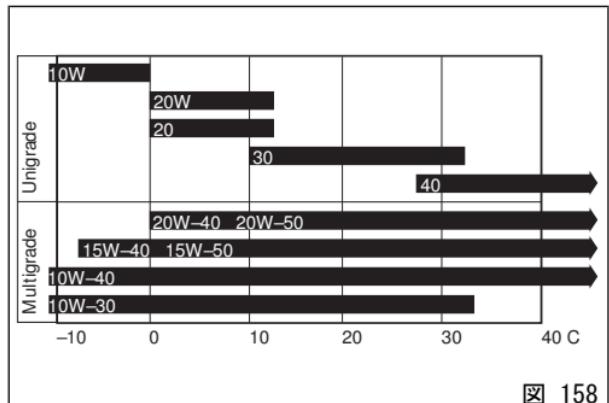


図 158

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグを交換する場合は、必ずディーラーまたはDucatiサービスセンターへご依頼ください。

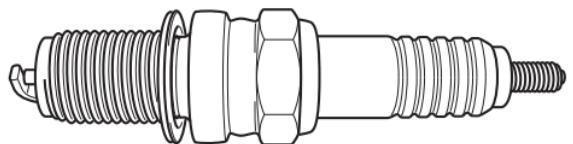


図 159

車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。

プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨剤付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。



重要

走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。

高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。

ウォッシャー等の使用は、フォークやホイールベアリング、電装部分、ランプ内部の結露(くもり)、フォークシール、エアー吸入口、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねるおそれがあります。

エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスマッision系統(チェーン、ギア、リム等)に洗剤がかからない様に洗浄します。

水道水で良くすすぎ、車体全表面をセーム革で拭きます。



警告

洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

! 警告

洗浄、雨、結露などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- サービススタンドで車両を支えます。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーを点検し、必要に応じて充電を行ってください。結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体カバーはDucatiパフォーマンスにて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucatiオリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンス

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
	マイル x1000	0.6	9	18	27	36	
DDS による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●		●		●	-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換			●	●	●	●	-
エアフィルターの清掃			●		●		-
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキオイルレベル点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキオイルの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	-
ホイールハブベアリングの点検				●		●	-
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ（チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット）、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	-
フロントフォークオイルの交換				●		●	-
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検（装備している場合）		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
クーラントレベルの点検、冷却回路の状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティ電気装置の作動点検（サイドスタンドセンター、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
安全装置（ABS、DTC など）、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間（月）
		0.6	9	18	27	36	
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類（サービスブック）への記入		●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイル x1000	0.6
月	月	6
エンジンオイルレベルの点検	●	
ブレーキオイルレベル点検	●	
タイヤ空気圧、磨耗点検	●	
チェーン張力の点検と潤滑	●	
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。	●	

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカルデータ

重量

車両重量（燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠）：205.5 kg

車両重量（液体類、バッテリーを含まない）：179.5 kg

車両総重量（最大負荷）：390 kg



警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

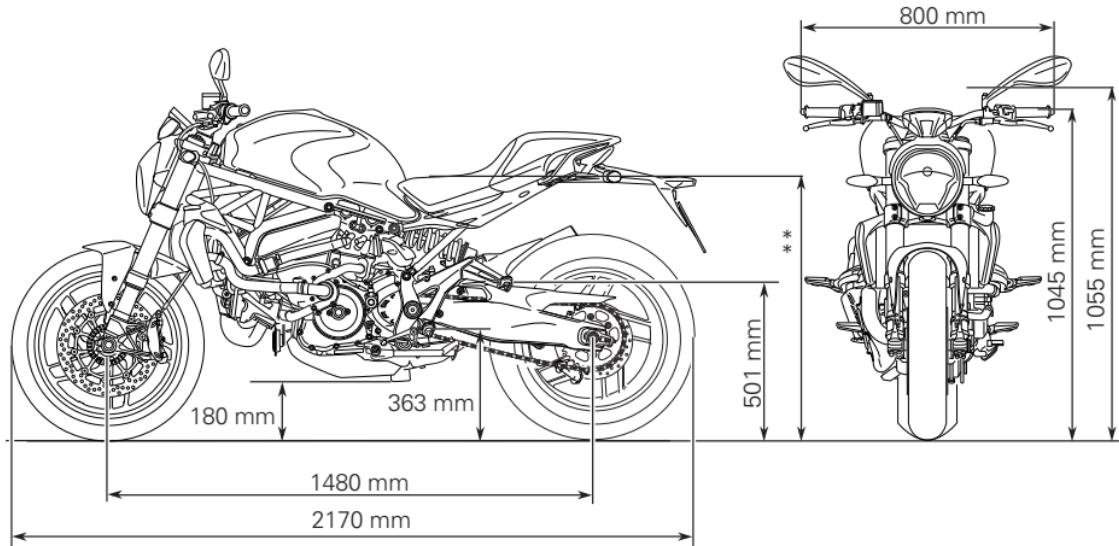


図 160

** アジャスタブルシート高 785 mm - 810 mm。

補給

補充

タイプ

燃料タンク、リザーブ 2.5 リットルを オクтан価 95 以上の無鉛ガソリン 含む	17.5 リットル
--	-----------

エンジンクランクケースおよびフィルタ SHELL – Advance 4T Ultra	3.2 リットル
---	----------

—

フロント/リアブレーキおよびクラッチ SHELL Advance Brake DOT 4	—
--	---

電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner
-------	-------------------------------

フロントフォーク	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA 521 cm ³ (右側レッグ) 394 cm ³ (左側レッグ)
----------	--

冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄 2.5 リットル めずに使用)
--------	--

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

90° L 型、2 気筒 4 ストローク

ボア mm :

88

ストローク mm :

67.5

総排気量、cm³ :

821.1

圧縮比 :

12.8 ± 0.5:1

タイミングシステム

8 個のロッカーアーム（オープニングロッカーアーム 4 個、クロージングロッカーアーム 4 個）、およびダブルオーバーヘッドカムシャフトで制御されるシリンダーごとに 4 パルブのデスモドロミックシステム。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

デスモドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング（ロア）ロッカーシム
- 4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) パルブ。

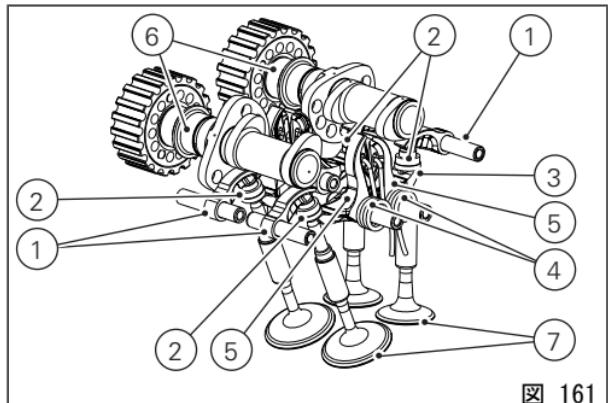


図 161

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行き、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。



重要

これは保証の必須条件で、この条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducatiモーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー : NGK

タイプ : MAR9A-J

燃料供給

CONTINENTAL M3D 間接式エレクトロニックインジェクションシステム

MIKUNI 製スロットルボディ、フルライドバイワイヤシステム付き、径 : 53 mm

シリンダーごとのインジェクター数 : 1

インジェクター孔数 : 4

ガソリン燃料 : 95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたフォニックホイールを読み取るホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

タイプ：スチール製穴あきディスク

ディスク 2 枚

ディスク径 : 320 mm

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

セパレートピストン付きモノブロックブレーキキャリパー

メーカーおよびタイプ : Brembo M4.32 b

ブレーキパッド材質 : Toshiba TT2182FF

ポンプタイプ :

PR 16/22

ポンプシリンダー Ø : 16 mm

リア

タイプ：スチール製穴あき固定ディスク

ディスク径 : 245 mm

車体右側ペダルによる油圧コントロール

ブレーキキャリパー : シリンダー Ø 34 mm

メーカーおよびタイプ : Brembo P 34 e

ブレーキパッド材質 : Toshiba TT2172 HH

ポンプタイプ : PS 11.

ポンプシリンダー Ø : 11 mm



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスマッision

スリッパークラッチ機構付き湿式クラッチ、左側ハンドルレバーによる操作。

エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比 :
33/61

6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比 : 15/46

変速比 :

1速 37/15

2速 30/17

3速 28/20

4速 26/22

5速 24/23

6速 23/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー : Regina

タイプ : 520 ZRDK

寸法 : 5/8" x 1/4"

リンク数 : 108

⚠ 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

⚠ 警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム

クロムモリブデン鋼製トレリスパイプフレーム、アルミニウムキャストリアサブフレーム
ステアリングアングル（片側）：30°
キャスター角：24.3°
トレール mm：93.2

ホイール

10本スポークアルミニウム軽合金製リム

フロント

寸法：MT3.50x17”

リア

寸法：MT5.50x17”

両ホイールともシャフトの取り外しが可能です。

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：120/70-ZR17

リア

チューブレスラジアルタイヤ

寸法：180/60-ZR17

サスペンション

フロント

KABAYA 製油圧式倒立フォーク

インナーチューブ径：

43 mm

ホイールトラベル：130 mm

リア

SACHS 製モノショックアブソーバー付きプログレッシブ、リバウンドダンピングおよびスプリングプリードの調整が可能。

ショックアブソーバーストローク：61.5 mm

リアホイールトラベル：147 mm

エキゾーストシステム

触媒システム搭載

カラーバリエーション

Monster 821

（本モデルにはシートカバーが付属します）

レッド

ベース（プライマー）アクリフレックスホワイト、

部品番号：L0040652 (Lechler)

Ducati レッドベース、部品番号：473.101 (PPG)

Soner SF アクリプラスレッドエナメル（バニッシュ）、部品番号：LMC06017 (Lechler)

カーボンブラックフレーム、部品番号：44974 (INVER SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)

ブラックホイール

スターホワイトシルク

2 K ホワイトベース、部品番号 : 873. AC001
(Palinal)

スターホワイトベース、部品番号 : 928. T948
(Palinal)

クリアーレッド、部品番号 : 96598 (Lechler)

Ducati レッドフレーム、部品番号 : 81784 (INVER
SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)
レッドホイール

Monster 821 ダーク

(本モデルにはシートカバーは付属しておりません)

ダークステルス

ベース (2 K ブラックベース)、部品番号873. A002
(PALINAL)

ベース (ブラックステルスベース - ブラック 94)、
部品番号929. R223 (PALINAL)

クリアーレッド (マットクリアーレッド)、部品番号923L. 2176
(PALINAL)

カーボンブラックフレーム、部品番号 : 44974 (INVER
SPA)

マットブラックパウダーエナメルリアサブフレーム、
部品番号 : CN201V (Akzo Nobel)
ブラックホイール

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライト：

ロービームランプ：H4 BV (12 V - 60/55 W)

ハイビームランプ：H4 BV (12 V - 60/55 W)

パーキングランプ：12V - 2.8W LED 電球 6 個

ハンドルバー上スイッチ

フロントターンインジケーター：12 V - 10 W 電球

リアターンインジケーター：12 V - 10 W 電球

警告ホーン

ストップランプスイッチ

バッテリー 12 V-10 AH

ジェネレーター 490 W - 14 V - 34.8 A

電子レギュレーター、スターターコンタクター (C)

に設けられた 2 個の 30A ヒューズで保護。

スターターコンタクター 12 V-0.7 kW

テールライトおよびストップランプ：LED

パーキングランプ：13.5V - 0.45W LED 電球 8 個

リアストップランプ：13.5V - 2.8W LED 電球 12 個

ナンバープレートランプ：12V - 5W 電球



電球の交換については、“電球の交換”の章を
参照してください。

ヒューズ

エレクトリカル部品を保護するためにヒューズボックスには 11 個のヒューズが設置されています。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 3 個あります。スターターコンタクターには 2 個の 30A のヒューズがあり、スターターコンタクターの脇には 2 個の ABS ヒューズがあります。一方は 25A、もう一方は 30A です。

ヒューズボックスは右サイドカバー下の中央右に設置されています。ヒューズボックス (A) は左側、ヒューズボックス (B) は右側にあります。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

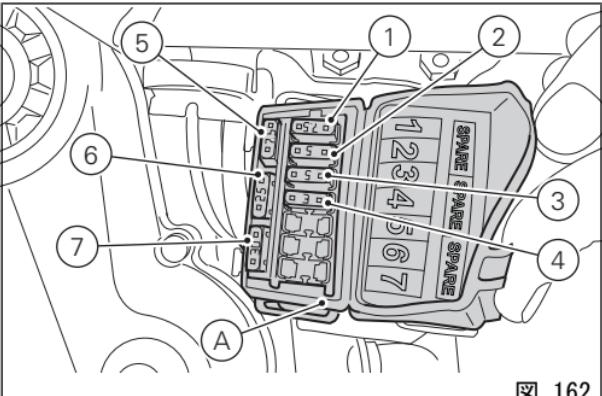


図 162

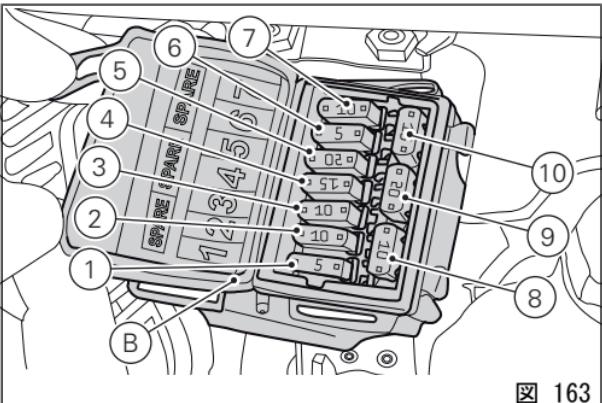


図 163

ヒューズボックス (A) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	オプショナルキー	7.5 A
2	アラーム	5 A
3	ストップ	5 A
4	診断	3 A
5	スペア	7.5 A
6	スペア	25 A
7	スペア	30 A

ヒューズボックス (B) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	ランプ	5 A
2	インストルメントパネル	10 A
3	キー 1	10 A
4	キー 2	15 A
5	リレー	20 A
6	コントロールユニット	5 A
7	BBS	10 A
8	スペア	10 A
9	スペア	20 A
10	スペア	15 A

2 個のメインヒューズ (C) はスターターコンタクター (D) の下に設置されています。ヒューズの作業をおこなうには、両方のヒューズの保護キャップ (E) を取り外します。

切れたヒューズは、インナーフィラメント (F) が溶断しているかどうかで確認することができます。

スターターコンタクターの近くに 2 個のヒューズがあります。一方は 25 A のヒューズ (G)、もう一方は 30 A のヒューズ (H) です。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

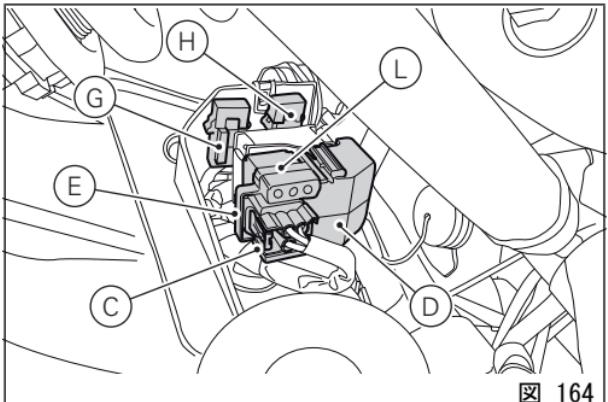


図 164

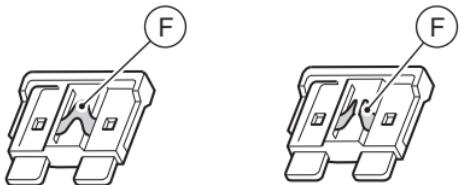


図 165

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

- 1) イグニッションシステム (キーブロック)
- 2) 左ファン
- 3) 右ファン
- 4) ジェネレーター
- 5) レギュレーター
- 6) スターターコンタクター
- 7) バッテリー
- 8) 配線アース
- 9) エキゾーストバルブモーター
- 10) ABS コントロールユニット
- 11) フロントヒューズボックス
- 12) リアヒューズボックス
- 13) フロントスピードセンサー
- 14) リアスピードセンサー
- 15) 自己診断/DDA
- 16) 右リアターンインジケーター
- 17) テールライト
- 18) 左リアターンインジケーター
- 19) ナンバープレートランプ
- 20) BBS
- 21) アラーム (オプション)
- 22) オイル圧センサー
- 23) ギアセンサー

- 24) サイドスタンドスイッチ
- 25) クラッチスイッチ
- 26) エンジン回転数/タイミングセンサー
- 27) MAP センサー
- 28) エンジン温度
- 29) 外気温センサー (TIA)
- 30) ホリゾンタルエキゾーストラムダセンサー
- 31) パーチカルエキゾーストラムダセンサー
- 32) スロットルグリップポジションセンサー (APS)
- 33) ホリゾンタルインジェクター
- 34) パーチカルインジェクター
- 35) ポテンシオメーター/ライドバイワイヤモーター (TPS/ ETV)
- 36) セカンダリーエアアクチュエーター
- 37) ホリゾンタルコイル
- 38) パーチカルコイル
- 39) フューエルポンプ
- 40) フューエルポンプリレー
- 41) インジェクション供給リレー
- 42) コントロールユニット 2
- 43) コントロールユニット 1
- 44) ハンドルバー左側スイッチ
- 45) 左フロントターンインジケーター
- 46) 警告ホーン
- 47) 気温センサー
- 48) インストルメントパネル

- 49) リアストップ
- 50) フロントストップ
- 51) 右フロントターンインジケーター
- 52) ヘッドライト
- 53) ハンドルバー右側スイッチ
- 54) スターターリレー
- 55) グリップヒーター電源供給
- 56) ABS ヒューズ
- 57) イモビライザー
- 58) スターターモーター



参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

配線カラー記号

- B 青
- W 白
- V 紫
- Bk 黒
- Y 黄
- R 赤
- Lb ライトブルー
- Gr グレー
- G 緑
- Bn 茶
- O オレンジ
- P ピンク

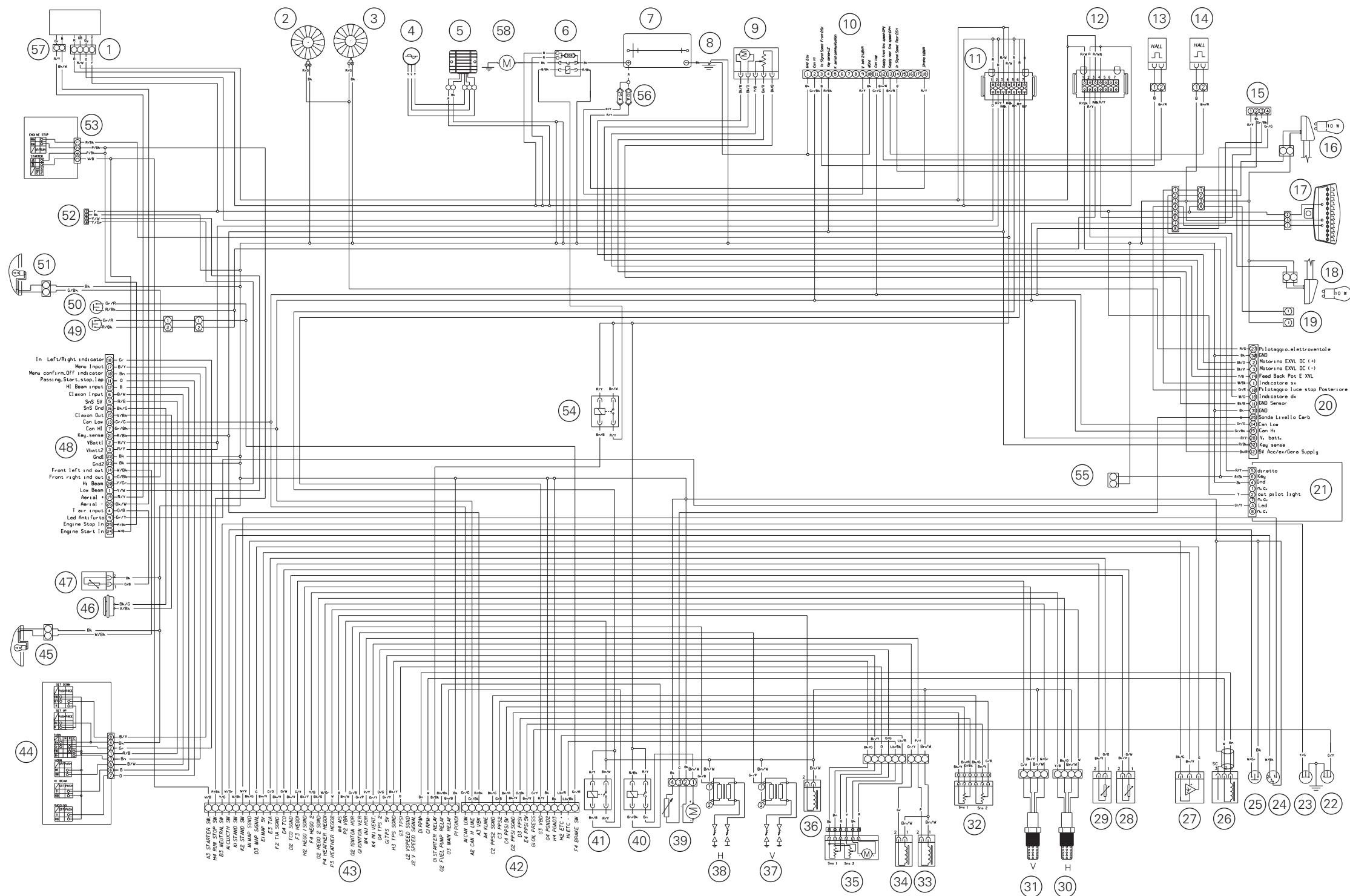
定期点検メモ

定期点検メモ

KM 名	DUCATI SERVICE	走行距離	日付
1000			
15000			
30000			
45000			
60000			

Stampato 06/2014

Cod. 913.7.262.1B



cod. 913.7262.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

Società a Socio Unico
soggetta all'attività di Direzione
e Coordinamento di AUDI AG

A Sole Shareholder Company
subject to the Management and
Coordination activities of AUDI AG